

高知縣

A 高知縣廳 (高知市)

市内帶屋町に在り土佐一州即ち七郡一市を管治せり

B 浦戸灣

郡の東部土佐長岡二郡との交界に當れり北は國府川鏡川の瀝水を承け南に水路を通じて大洋に出入す江狀脈に似て中央窄小せり北江の方一海里許を吸江と云ひ風光明燭にして十勝區あり東岸は五臺山にして西北岸は高知潮江なり其窄小部の兩岬を東孕西孕と云ひ兩孕以南の南江を浦戸港と稱す港中に玉島續島の二嶼あり圖中中央に見ゆるは即ち浦戸港内の棧橋なり

高知城址 (高知市)

市の中央に在り舊名を大高坂城と云ふ南北朝の頃南朝の臣河間光綱大高坂松王丸等か據りて以て北朝の兵と戦ひし所にして長曾我部元親を経て山内一豊の居城たり明治五年開いて公園とす今は纔に城樓成臨閣を存するのみ登臨すれば山河の繁絡邑里の錯綜古今滄桑の變歴歴として指點すべし圖中(C)は成臨閣遠望(D)は千松公園の景にして園は浦戸港畔三里村に在り白沙青松相連り風色絶佳沿岸海水浴に適せるを以て夏季は遊客頗る多し

O	A
D	B

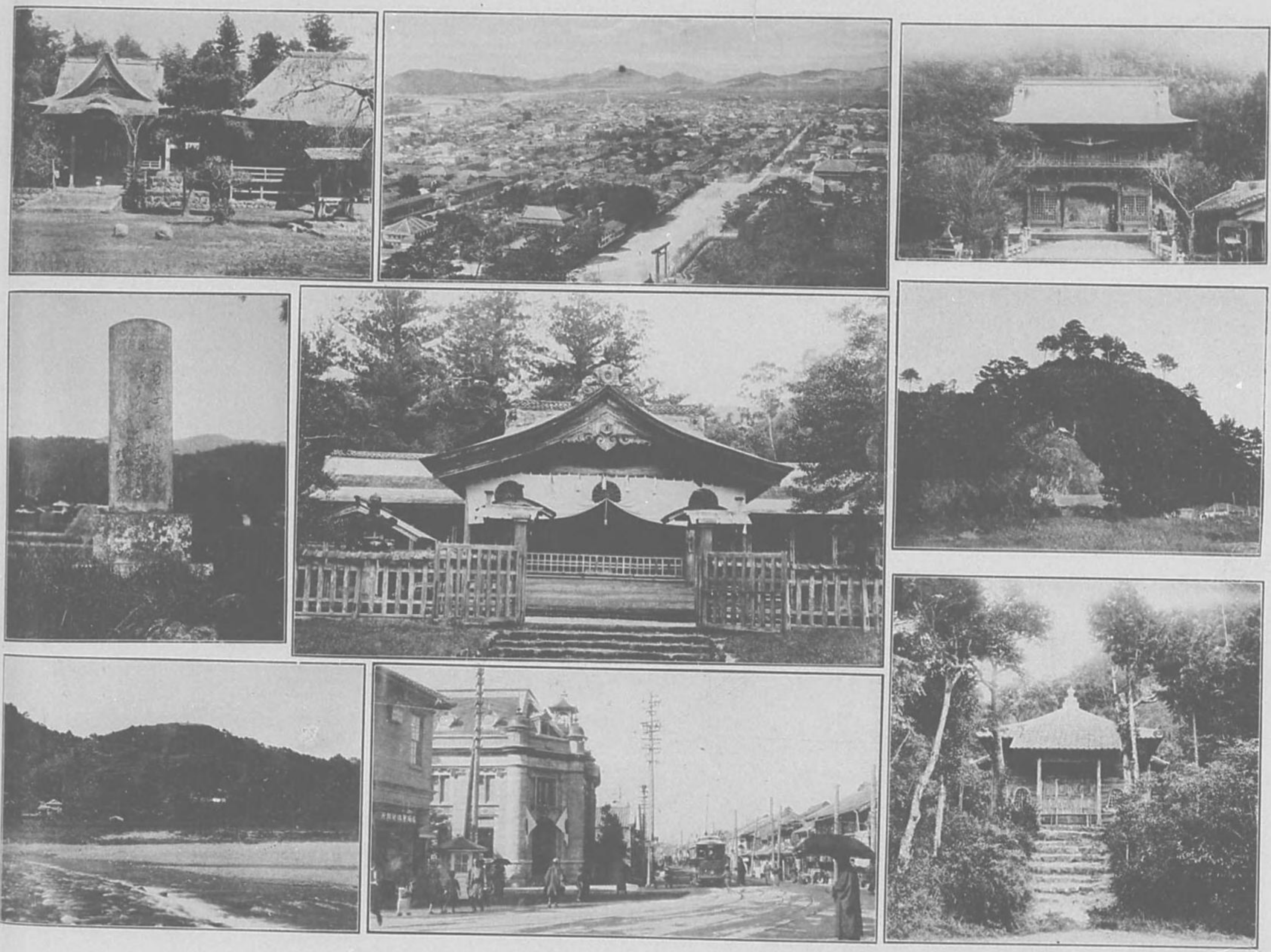


高知縣

高知公園及藤竝神社 (高知市)

公園は市の中央なる高知城址にして維新後の開設に係る園内櫻樹  
 多く又梅園あり四時風光絶佳なり公園の東隣に藤竝神社あり山内  
 一豊夫妻及舊藩主忠義の三靈を祀る四圍樹木鬱蒼たるを以て自か  
 ら神威の嚴然たるを感せしむ

高知縣



A 天満宮 (土佐郡江村)

B 姫倉月見山 (香美郡岸本町)

C 淨眞寺 (安藝郡安藝町三車)

高知市全景

I 岡豊山城址 (岡豊郡豊後町)

II 土佐神社 (土佐郡一宮村)

G 國分寺 (長岡郡國府村)

H 紀貫之舊蹟 (同上)

J 日野實枝

K 日野實枝

O	D	A
H	E	B
I	F	C

延喜元年菅原道真去宰府に遷さるゝ其子高親亦坐せられて土佐守となり潮江村高見山に居れり道真死するに及び松本春彦其遺物を携へて土佐に歸り高親之を祀りしに始まると云ふ其樓門は嘉永年間山内藩主より寄進せしものなりと云ふ

町の南端に在り海に臨み承久三年土御門上皇幡多に遷幸して後阿波に移り給ふ時此の山上にて月を賞せられしを以て此名ありと云ふ山の端を賜の磯と稱し荆棘雜草相交はる處松樹點在して濤聲松韻と相和し眺望亦頗る佳なり

高知市を距る千重安藝町字大黒島に在り中世以降郡領安藝氏の據りし地にして寺内に安藝國虎造に其臣黒岩頼前右澤岩見の墳墓あり

浦戸灣の港首に當り鏡川の末に跨る、往時山内氏の治府たりし地にして一州の首都たり國中(山)は即ち市街の全景(山)は本町通り電氣鐵道通路の景にして西は伊野町より南は潮江の橋に至り水陸相連絡せり

國幣神社にして味担高彦根尊を祀れり長曾我部時代兵燹に罹りて僅に本社のみを残せしか元親之を再興せり現在の神社は足利末世の建築に係り今特別保護建造物たり

聖武天皇御宇の創建にして行基作の千手觀音を本尊とする現在の本院須彌壇は足利時代の建築に係り今特別保護建造物たり

聖德天皇の延長八年紀貫之國守として來任せし時國府のありし舊蹟なり後は出江山を負ひ前は遠く開け西は國分寺を隔て岡豊山を望み東南は青田通に連る所、國分川帯の如く環流して自然の國畫をなす里俗此附近を内裏の田と稱す一碑あり題して「紀貫之舊蹟」と云ふ其下に左の和歌を刻せり

あふく世にやとりしところす遠く 日野實枝 傳へむためとのこす石ふみ

郡の中央に在る丘陵にして南方は遠く平野に望めり山上の城址は長曾我部氏時代の居城たりし所今は村民の行樂地たり

A 高知市遠望

圖は高知市の遠望にして前面に見ゆるは浦戸港、中央に架したるは  
棧橋なり(高知市参照)

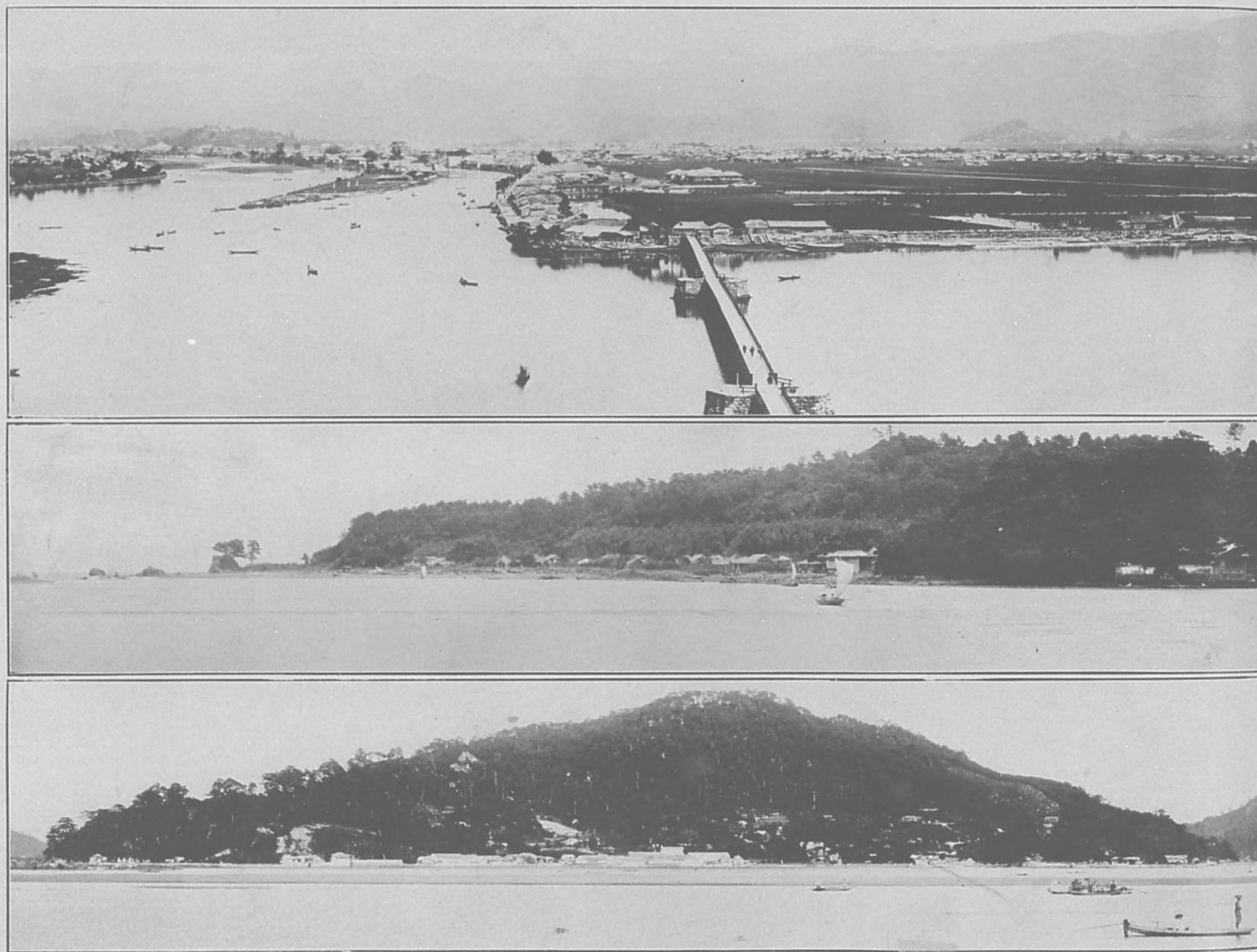
B 浦戸港

高知市の咽喉にして港内岩礁あり風景頗る佳なり内外の貨物は多  
く此處より集散す神戸港より直航約百五十海里

C 五臺山全景

(長岡郡)

文保年間夢窓國師吸江寺に在て附近の十景を定む眺望頗る佳なり  
山上に吸江竹林の兩寺ありて伊達延勝の墳墓を存す



高知縣

A 清瀧寺 (高岡郡高岡町)

僧空海の開基にして四國三十五番の社所なり境内に高岡親王の五輪塔あり國中第一の古塔なりと云ふ

B 入野松原 (幡多郡入野村)

元弘二年尊良親王佐に遷り給ひし時の遺蹟にして此邊一帶の海濱には老松繁茂し四國幽邃なり

C 龍 串 (高岡郡三崎村)

千尋月崎の名勝と相並び雄崖海中に湧起し鞍置石、狎石、月石、大竹石、小竹石、屏風山、男體山、女體山、獅子石、碁盤石、鬼面石、龍門瀧、鯉石、盲石、羅漢窟、千疊石、蓬萊山其他種種の名稱ありて奇観言ふへからず

D 柱 濱 (香川郡)

浦戸港外に在り其東方を龍頭岬と云ふ岬の上は長曾我部元親の城址にして今は此に燈臺を設け東南は太平洋に面し月夜の觀殊に佳なり

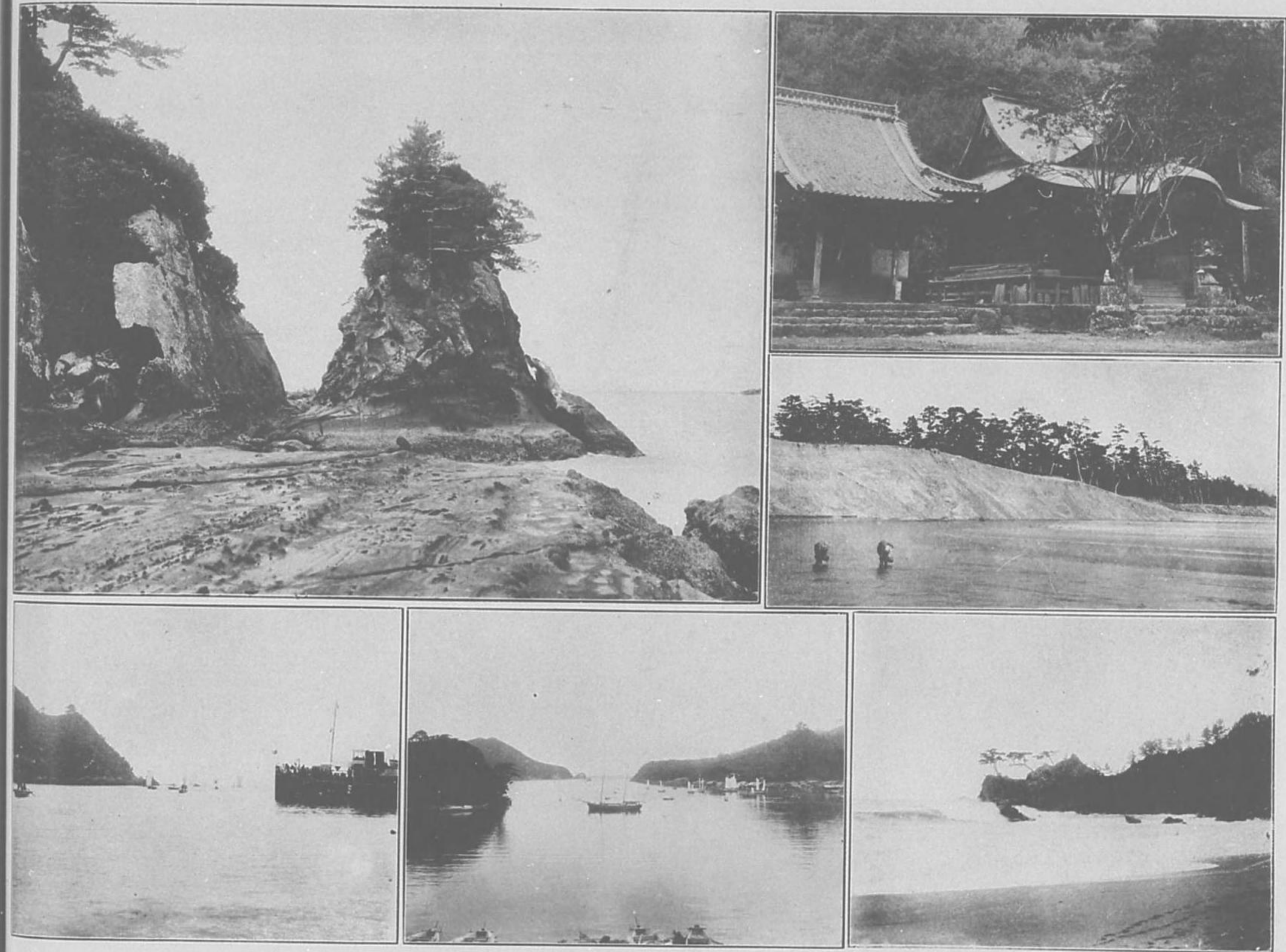
E 清水港 (幡多郡清松村)

清水港は金剛福寺の北方一里半以布利の西加久見の東にあり南西風の外は能く各方の風を防ぐと雖も狹隘なるか故に大船の碇泊に通せず此近海珊瑚を産す

F 須崎港 (高岡郡)

高知市を距ること十里餘四面山脈を以て圍みたるか故に能く各方面の風を遮斷し港内水深く國中最良の港たり須崎村は西濱に位す

	A
O	B
F	E
	D

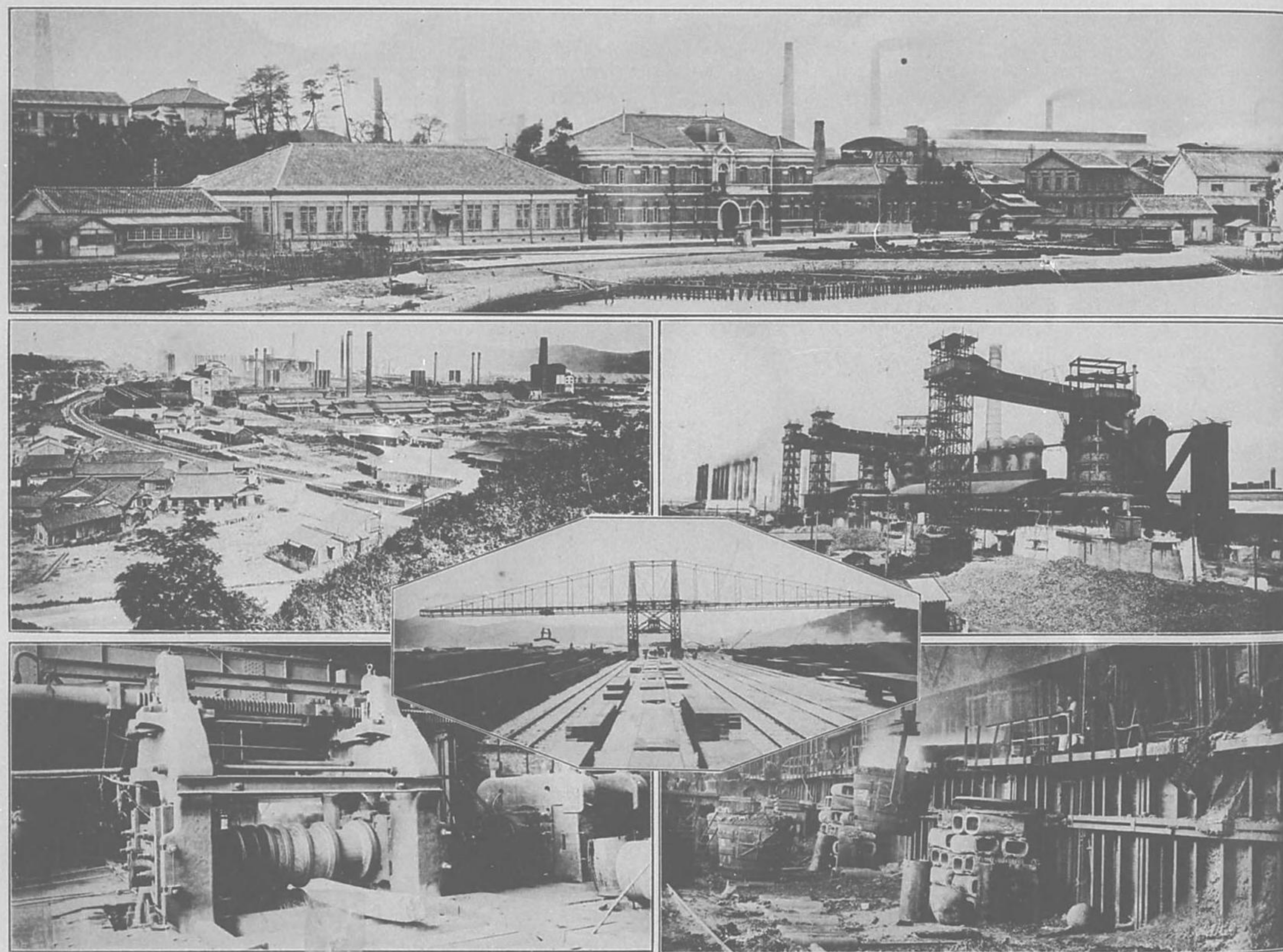
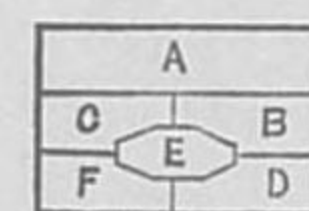


福岡縣

製鐵所

(遠賀郡八幡町)

明治三十年の創設にして敷地構の内外を通して六十三萬二千四百十六坪鐵道延長約五十二哩職工一萬七千七百五十人を使役し生産高一箇年十六萬二百二十九噸に達し其規模宏大にして東洋第一と稱せらる(A)は事務所(B)は熔鑛爐(C)は全景(D)は平爐(E)はカンテリパー式起重機(F)は分塊ローレルなり





**A 宮地獄神社** (佐賀郡津屋崎町) 北六丁  
 二社あり一は思兼命、瑞津姫命、市杵島姫命を祀り一は神功皇后を祀る往昔皇后新羅を征討し給ひし時宮地獄に於て上記三神を招きて戦勝を祈り給ひ凱旋の時報賽し給ひし舊蹟なるを以て後世茲に神功皇后をも併せ祀るに至れるなりと云ふ(A)は神殿にして(B)は社頭の光景なり

**香椎宮** (香椎郡香椎町) 東四丁  
 官幣大社にして祭神は中殿に神功皇后左殿に應神天皇、右殿に武甕槌、中箇男、表箇男三神を祀る當社は日本四宗廟の一に屬し朝廷の崇敬厚く且つ社域は仲哀天皇神功皇后の行宮地にして皇后三輪を征伐し凱旋し給ひし時復鳳雛を駐めさせ給へるの由緒あり境内廣闊、四圍老樹鬱蒼し風景自づから幽邃なり境外海濱に出づれば眺望更に開豁なり

**D 香椎宮アヤ杉** (同上)  
 本社瑞籬の前に在り神功皇后征韓の後兵器を茲に埋めしめ給ひ其標として手つから杉苗を栽え給ひしなりと云ひ老幹腐せしと雖も枝葉尚ほ榮えて其古を語るに似たり千早振香椎の宮の縁杉は新古今集  
 神のみそきに立てるなりけり

B	O	A
F	D	E
I	H	G

**F 甲宗八幡宮** (門司市)  
 清和天皇貞觀元年の創建に係り爾後数回の改造あり神功皇后三輪征討後彼國の朝貢を門司關に收めしかば此地に豐饗開戸命、攝豐開戸命の二神を祀り神功皇后の甲を以て神樂となせりといふ

**F 和布刈神社** (門司市) 北十六丁  
 神功皇后三輪より凱旋の時彦火火出見尊、鰐草尊不合尊外三神を茲に祀られしものにして毎歲十二月晦日の夜海中にて和布を刈り朝廷に奉りし古事等あり早稲海峽に枕める縣社なり

**門司港** (同上)  
 豊前國の北端にして早稲の瀬戸を隔て下關と相對する一大市街にして特別輸出港たり其の海岸一帯石堤相連なり港内常に内外の船艦碇泊し實に吾國交通の咽喉たり殊に九州石炭の輸出を以て其名内外に著るを去る二十年前に一漁村たりし門司村今は有数の一大市街となれり(B)は門司港は同様橋なり

**I 西本町通** (同上)  
 門司市内最稱要の街衢にして著名なる會社前廣此町に在りて同市の中心たり

A 筥崎宮 (糟谷郡筥崎町) 西北三丁

官幣中社にして應神天皇、神功皇后、玉依媛命を祀り本社正面に聳ゆる樓門には聖德天皇の勅額を掲ぐ社域廣闊其の内外は青松白沙散丁に互り幽邃にして眺望甚佳なり世に筥崎八幡宮と稱せらる

B 筥崎一の鳥居 (同上)  
宮崎宮の北方海濱に矗立する石の華表なり

O 帆柱石 (同郡多良村)

世俗名島の帆柱石と云ひ宮崎停車場の北二十五丁の處に在り石は直徑二三尺にして長さ六七尺のもの七八箇あり中に會て鐵輪を籠らしたる如き跡あり神功皇后三輪凱旋の時御船の櫓を此處に捨てられしか終に化石せしものなりと傳ふ

D 東公園 (筑紫郡千代村)

博多に接近せる千代松原の一部を公園となせるもの其面積七萬五千餘坪、白沙塚松長く相連り潮水を洗ふて幽靜快豁海上の眺望亦甚佳なり園内數多の茶店刺店あり園の東方松林中に招魂社北端に元寇記念碑あり著名の公園なり

E 日蓮上人銅像 (同上)

東公園内元寇記念碑の東方松林中に屹立す元寇防禦の由緒あるに因り上人の銅像を此地に建設せしなり

F 龜山天皇銅像 (同上)  
千代の松原元寇記念館の邊にあり、元寇討滅の威靈を傳ふるために奉建せるものにて別園日蓮の銅像も亦此意に因る

G 醫科大學 (福岡市)

明治三十七年の開校にして福岡市街の紅塵を避けて白沙青松の地に在り附屬病院は元の縣立病院なりしが大學設置當時之れを合併せしものなり

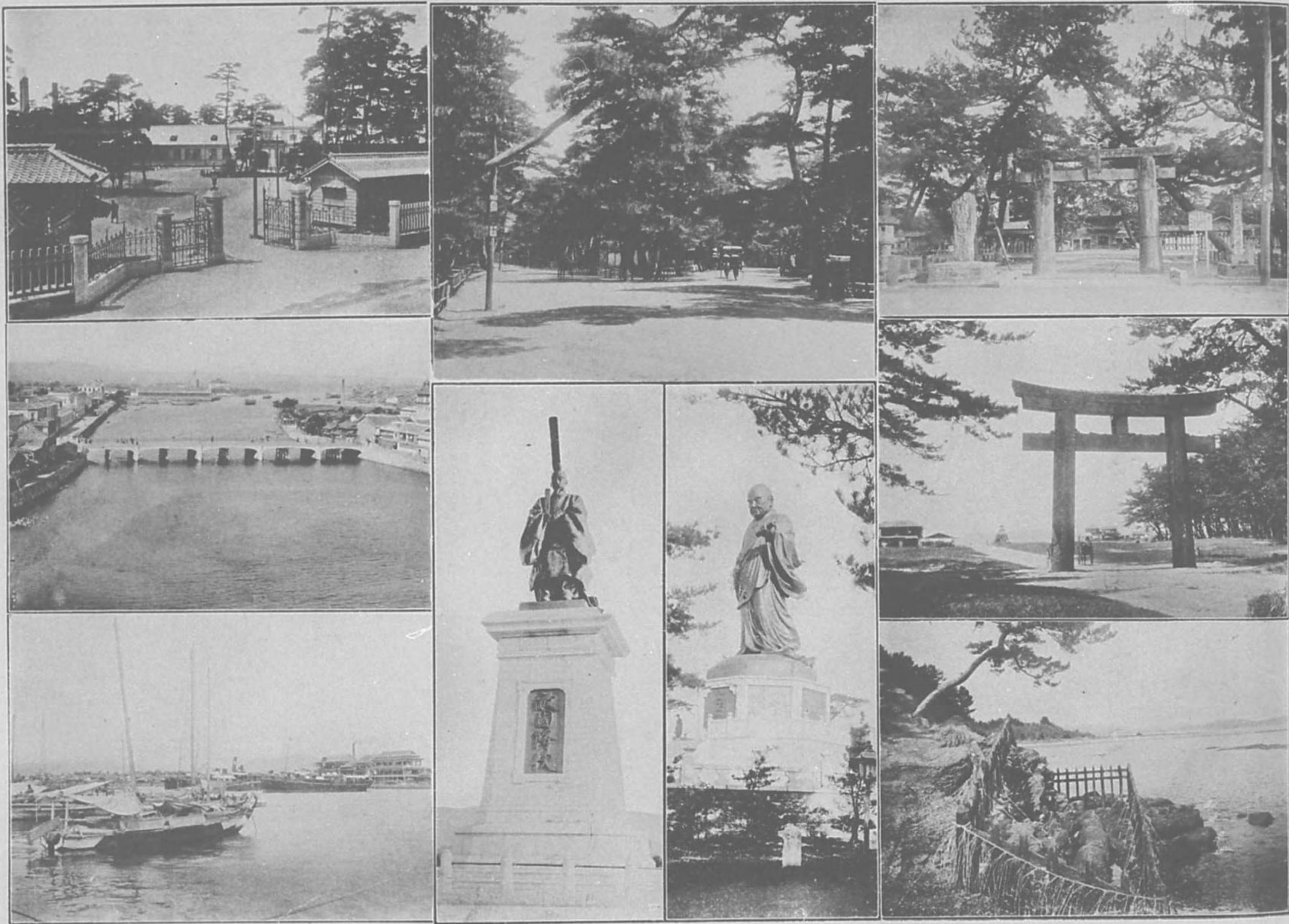
H 博多中島橋 (同上)

市の中央即ち福岡、博多の別を横流する那珂川に架せるものにして橋西を福岡とし橋東を博多とす

G	D	A
H	F	B
I		O

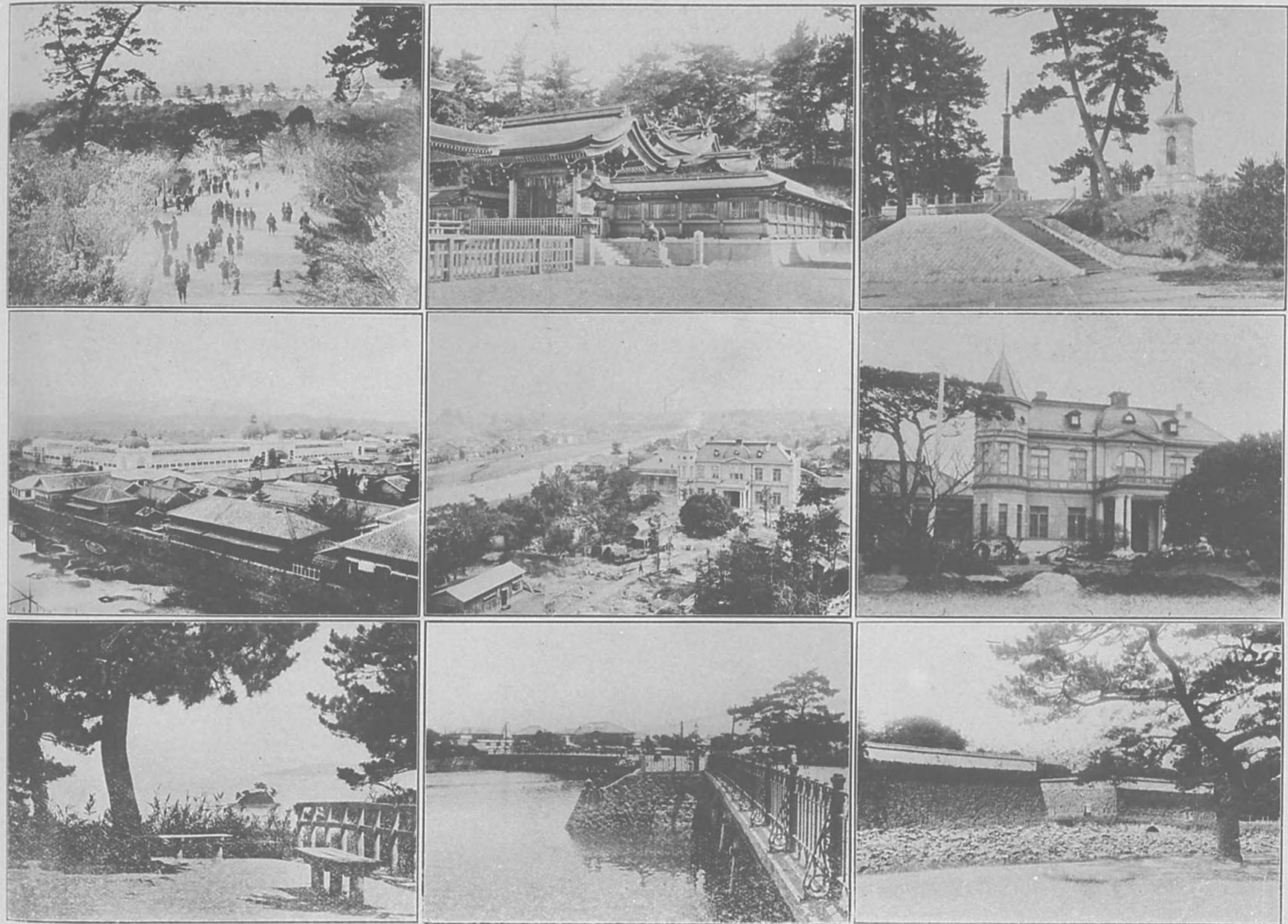
I 博多港 (同上)

福岡市の中央を流る、那珂川の末流海に入る所、其西部を福岡港とし其東部を博多港とす殘島の北端より道切に至る一直線内は即ち博多灣にして港口より玄海灘の島嶼を望み船舶の出入賑るが如く古來東西樞要の地にして我邦最古の貿易港なり





福岡縣



A 西公園記念碑 (福岡市)

明治十四年に開園す波浪岸を洗ひて網すべく釣すへし畔を放ては博多灣の風景一幅の畫圖を開きたる如く後は福岡市街を隔て、遠く肥筑の層層秀峰を望み眺望頗る廣闊なり園内に日清日露兩戰役記念碑あり又、東宮御手植の松樓あり園内櫻樹數百株ありて花時は遊覽者殊に多し

光雲神社 (同上)

荒津山西公園に在り舊藩祖黒田孝高同長政を祀る社殿結構壯麗なり寶物には朝鮮の役長政の用し水牛の兜其他黒田家歴代の武藝を藏す、園中(山)は光雲神社の景にして(山)は同公園より入口を望みし景なり

福岡縣公會堂 (同上)

西中洲に在り那珂川に瀝み絶好の位置を占む明治四十二年の建築に係り建坪二百四十三坪、貴賓の宿舎又は各種の會合に使用せらる(山)は公會堂にして(山)は公會堂附近の遠望なり

F 共進會場址 (同上)

明治四十三年三月十一日より五月九日まで六十日間開設されたる第十三回九州神戶八縣聯合共進會場址にして福岡縣廳背後より佐賀堀を理立て因幡町の一部を合せて三萬坪の地を畫し工費三十五萬餘圓を投して造營したるものなり今は其一部に福岡縣の假廳舎を置く

G 福岡城址 (同上)

一に舞鶴城と云ふ慶長五年黒田長政築前五十二萬石の領主として入國し翌六年福岡の地を相して築城せしものなり、今僅に本丸を存するのみ

H 天神橋 (同上)

那珂川筋西中島橋の上に在り天神町より中島に架せしもの電車其上を通し附近に縣廳、市役所、公會堂等ありて市内樞要の地帯を占む

I 西公園より鷗來島を望む

鷗來島は荒津の海上僅に八丁周圍五丁に滿たさる一小島にして老松數百餘に繞む島内魚介に富むを以て干潮に乗じて來遊するもの多し、圖は西公園より眺望せし景なり

O	B	A
F	E	D
I	H	Q

太宰府神社

(筑紫郡太宰府町)

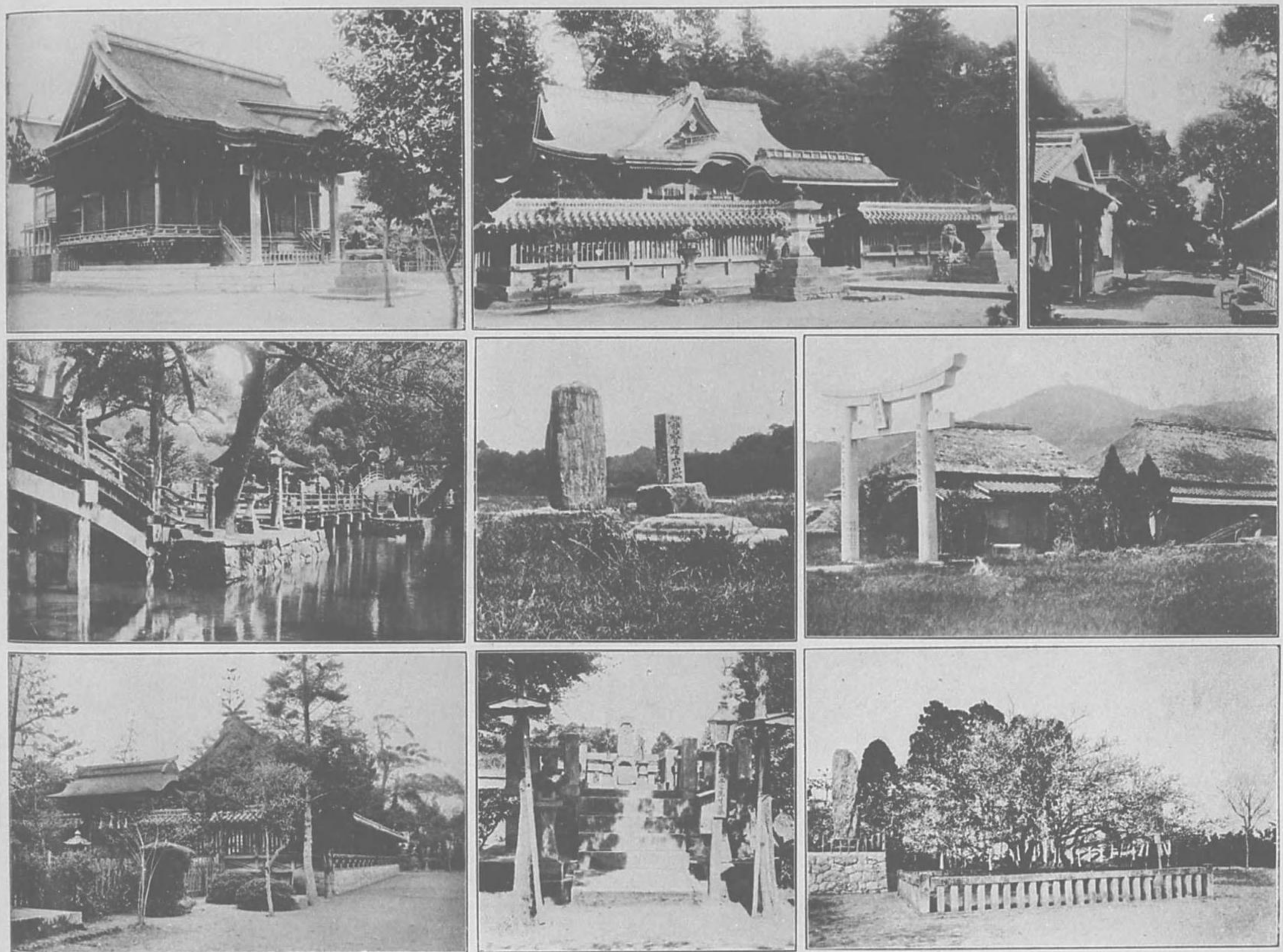
官幣中社にして菅原道真を祀る延喜五年乙丑八月の創建なり唐銅の大華表を入りて甃石の賽路を行くこと數十歩左折して二の華表を入れば心字形を爲したる一大泉池あり架するに二反橋を以てす橋を渡れば正面に樓門あり左右に長廊を回らし門内に巍然として鎮座するもの即ち本社なり社殿は金銀を鏤めす丹碧を施さず素樸にして高潔所謂神寂たる趣きを存し自ら神威の高きを示す社前に有名なる飛梅あり又境内には攝社本社頗る多く額殿には無数の扁額を連掲す社背に一瀑布あり側らに數百株の梅樹を栽え清泉流れて玉盤を洗ひ眞に神域たり本社例祭は八月二十五日にして一月七日には七草の御供あり薄暮よりは駕換の神事を行ひ遠近よりの賽者市をなし境内雜沓を極む

菅公

元人薩都刺

無常說法現神通。千里飛梅一夜松。萬事夢醒雲吐月。觀音寺裡數聲鐘。





**A 武藏温泉** (筑紫郡二日町) 南一丁  
太宰府町の西南に在り無色透明の單錐泉にして外傷脚氣、瘰癧瘰癧等に效驗ありと云ふ口碑の傳ふる所に據れは温泉の發見は白鳳年間にして菅原道真公の來浴せしことありと此地風光の賞すべき無しと雖も交通至便なるを以て浴客常に絶えず

**B 高良神社** (三井郡御井町)  
高良山の麓に在り國幣中社にして高良玉垂命を祀り筑後四社の一に在り社殿壯麗敷多の攝社を有し社背に神籬石なるものあり周圍十餘丁石壁を圍らす其構造の嚴然たること神代の山陵に類似す境内老樹蒼鬱として繁茂し山腹には櫻枝を交へ山嶺には梅花多く眺望其間開豁にして西北に肥後諸山を望み西南には柳河の人家を隔てて筑紫湯を見るべく風景眞に愛すべし

**C 水天宮** (久留米市)  
市の西端瀬之下町に在り祭神は安徳天皇、建禮門院平時子にして建禮門院に奉侍せし宮女伊勢子の創建に傳る其後兵亂相繼ぎ宇津波が各所に移りしか慶安三年國主の命に依りて創建の場所、即ち今の地に復舊せしなりと云ふ東京縣役所の水天宮は永正元年此地より勧請せしものなりと雖社行り來空落日筑東、雪齋平郡津中、飯谷、明、廣、水天宮、映玉、市宮

**D 天拜山** (筑紫郡二日町)  
武藏温泉の西南に在り一に天洞山と云ふ山頂に小祠あり菅原道真を祀る傳へ曰ふ菅公曾て此山に登り冠を天に許

へし所なりと山中小瀑あり傍の巨巖を衣懸石と云ふ碑あり大僧部信聰が詩を刻せり曰く天利峯頭仰彼蒼、關心成瀟放威光、御衣懸石變成塔、五百年來流水香

**E 都府樓址** (國郡水城町)  
太宰府舊址の北方に在り天智天皇御宇の創建にして九州二高の政務を執行し併せて對外の警備を司りし大政廳の址(都府樓址)と稱す觀音寺唯聽鐘聲と當りて菅公の吟詠に入りし處に即ち是れなりや斷礎敗瓦徒らに當年の佛を忍ぶのみ

**F 太宰府神社頭** (國郡太宰府町) 三十三丁  
延喜五年の創建にして菅原道真を祀る大華表を入り左折して二の華表を過れば心字形の地あり反橋を架す池畔に大補あり鑿鑿水に臨み欄を以て近年有志相謀りて社背に遊園を拓けり

**G 將軍梅** (久留米市) 一里  
宮陣神社境内にあり南北朝のとき征西將軍懷良親王、少貳頼尙と大原野に戦ひ陣營の際御手植の紅梅なりと云ふ今尙繁茂し花時枝を曳くもの頗る多し

**H 高山彦九郎墓** (久留米市)  
市内寺町通照院に在り彦九郎は上野の人四、九州巡遊の途次櫻子の志を齎らし此に自及せしより春風秋雨一百餘年墓前常に香華の絶ゆることなし

**I 篠原神社** (同) 七  
篠原城本丸址に在り國主有馬家累代の墓を祀る明治十一年の創建にして今縣社に列せり社域廣闊眺望絶佳なり

C	B	A
F	E	D
I	H	G

A 宇佐神宮

宇佐郡宇佐町(東部)二里十丁  
龜山に鎮座し宮幣大社たり西方を二の御殿と稱して之に  
應神天皇を祀り中央なる二の御殿は比賣大神を東方なる  
三の御殿に神功皇后を祀り境内老樹蒼鬱として一度足  
を踏む内に容るれば心氣清澄にして靈威自ら身に迫る  
を覺えし世に宇佐八幡宮と稱し和氣清澄か神勅を請ひ  
しは即ち此神にして其名史上に著はる

B 森 町 (玖珠郡)

舊久留島氏の城市にして郡役所を初めとし警察署、稅務  
署郵便局等あり

C 竹田町 (直入郡)

舊中川氏の城市にして郡役所、警察署、稅務署、區裁判  
所、葉煙草收納支所、郵便局、縣立中學校等あり市街の  
東南に開墾地あり昔時天下無比の要害と稱せられし名城  
なり今も是は唯、斷壁を葉煙草の中に留むるのみ有名の  
舊竹田は此地の出身なるを以て名を取れるなり

D 富貴寺 (西國東郡田原村)

天台宗延曆寺の末寺たり養老年中僧仁間の創むる所堂の

高四丈五間柱檼等障原等皆佛像を畫き金碧粉煉とし  
て目を奪ふ近年國寶に指定せらる

E 鍋 山 (同上)

奇巖突兀天空に聳え深潭深濶として其影を離し風景頗る  
閑雅なるを以て人呼んで小野馬潭と云ふ

F 下の江港 (大分郡)

臼杵町の北二里に在り天然の良港にして港頭より遙に三  
見島、黒島等を望み風光頗る佳なり

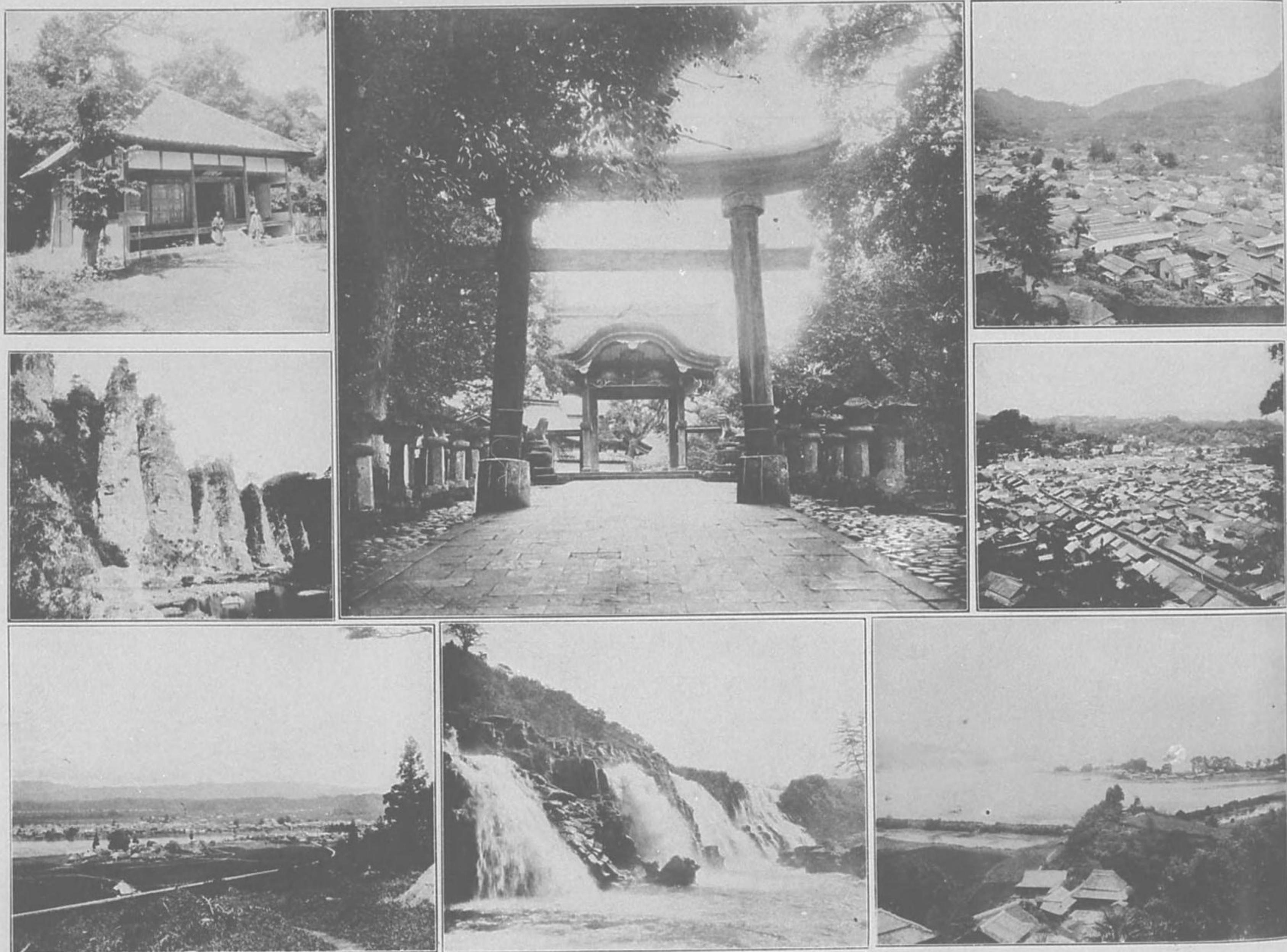
G 魚住瀑布 (直入郡)

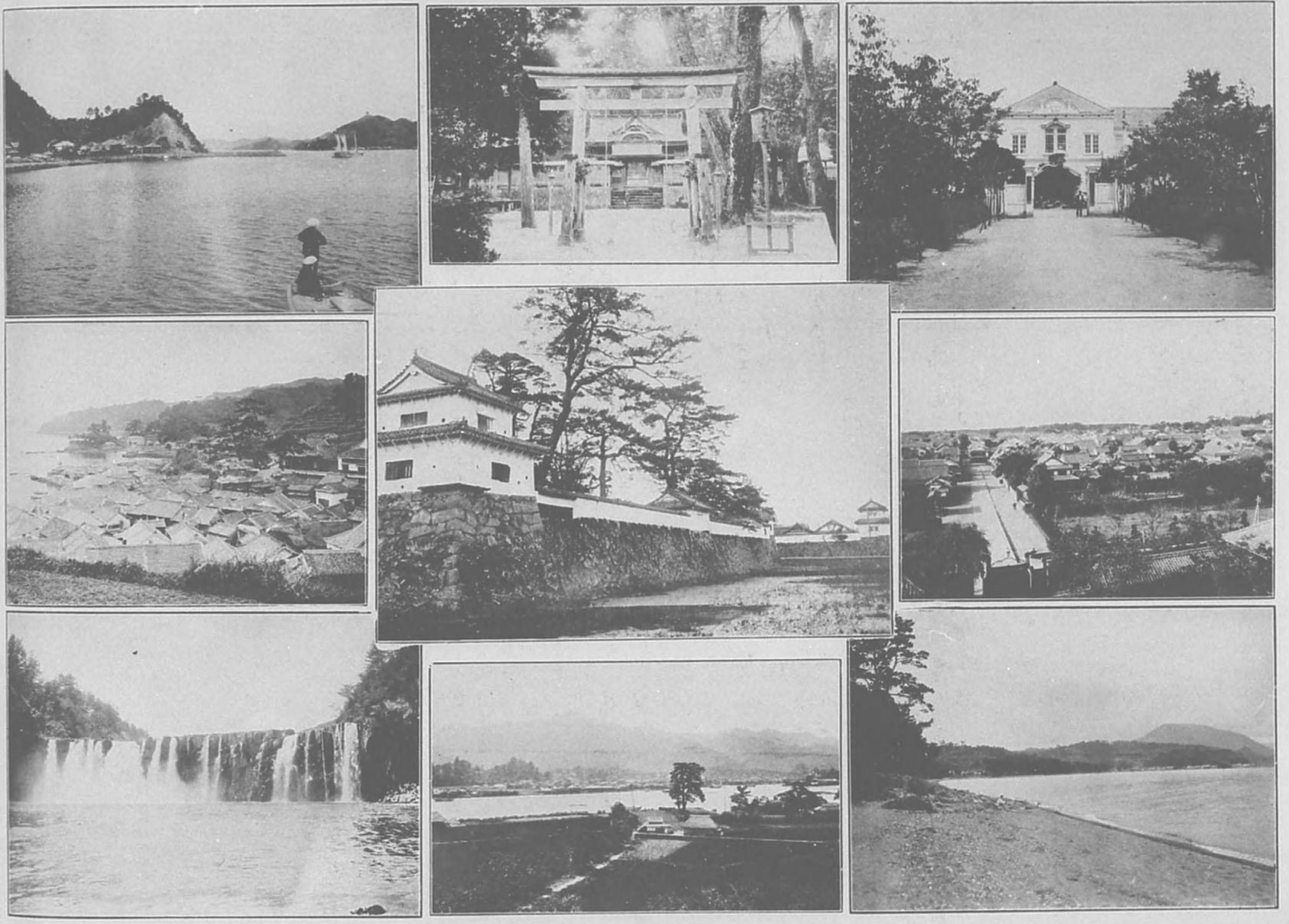
白瀧川の中流に懸り雄二瀑あり高さ各十尺幅八十間に  
及ぶ下流に一橋を架す之を魚住橋と云ふ橋より雄瀑を  
望めば水勢滔滔として落下し實に壯觀を極む

H 日田町 (日田郡)

舊徳川氏直屬の地にして三隈川市街の中央を貫流し西下  
して筑後に入る此川より産出する鮎は風味清香其名遠近  
に高し郡役所、稅務署、小林區署、郵便局、警察署、縣  
立農林學校、區裁判所等あり

D	A	B
E	Q	F
H		





六分縣

A 大分縣師範學校 (大分市)

明治三十三年の新築にして敷地九千四百坪建坪二千六百坪あり背後は直に春日浦に接し空氣清醇にして風光亦明媚なり

B 大分市

大分川の西岸に在り縣廳、縣警署、縣役所、警察署、郵便局、監獄署、師範學校、縣立中學校、女子師範學校、縣立高等女學校、縣立病院、郵便局等市内に散在せり

C 春日浦 (大分市)

四望快園内波靜にして白鷺常に遊波を迫りて游泳す由布、鶴見、高崎の諸岳近く雲際には海岸を帯び白沙青松相連り春日公園其背景を儼れり園内老樹蒼蒼として紫茂し春日神社及蓬萊丘等ありて頗る風致に富み此園有數の勝地たり

D 西寒多神社 (同郡東植田村)

國幣中社にして西寒多神を祀る境内櫻樹多く一條の清泉社邊を遶りて流る土地樹取にして風景頗る佳なり

E 大分縣廳 (大分市)

大分市街の東北舊府内藩の城址に在り慶長四年福原直高の築く所にして爾來甲川、竹中、日根野、大給諸氏の居城たり明治四年改めて大分縣廳を設け豊後一國及豐前二

郡人口約八十五萬を管治す

F 臼杵町 (北海部郡)

町は海濱に在り舊稻葉氏の城址にして郡役所、警察署、郵便局、縣立中學校、稅務署、煙草專賣支店、小森園等あり公園は舊城址に在り遙に津久見島を望みて風光絶佳なり又其港は市街の東方に在り港内水深く船舶常に幅濶す

G 佐伯港 (南海部郡)

一に葛港と云ふ佐伯町の東北二十丁に在り日向大坂間を往復する汽船の寄港するもの日に兩三回を下り港内水深く大入島東北を劃し環濤湖水の如く最も風景に富む港内に海軍貯炭庫の設けあり

H 佐賀關町 (南海部郡)

臼杵町の東北七里に在り天然の良港にして船舶の出入絶えず住民多くは漁業に従事し殊に遠洋漁業は古より盛に行はる港頭に燈臺あり又縣社早岐神社、椎根彦神社等あり

I 沈墮瀑布 (大野郡東大野村)

縣下第一の大野大野川の上流に在り高九丈餘幅百歩に餘れり其の水勢乾坤を震撼し飛沫驟雨の如く壯觀極り無し一丁餘を隔て、其離瀑あり高十餘丈幅一丈一瀉直下して水流に合す

Q	D	A
H	E	B
I	F	O

大分縣

A 高田町 (西東郡)

舊島原藩の所領にして柱川市街の中央を貫流し其河口を高田港となす郡役所、税務署、區裁判所、郵便局等あり

B 奈多八幡神社 (東國東郡奈津江村)

縣社にして境内老樹鬱鬱前面一帯櫻後洋に臨み三十里の沿岸白砂青松遠く相連り海上遙く佐賀關及伊豫の岳田岬を望み風光畫の如し祭神は應神天皇、比賣大神、神功皇后の三座とす由緒ある古祠にして一休天皇の寢室後水尾天皇の勅書傳至書の扁額其他寶物頗る多し

C 日出港 (遠見郡)

舊木下氏の城市にして郡役所、警察署、郵便局、税務署小林區署等あり港は市街の南方にして海水深く灣入し天然の良港を爲す又櫻後灣を隔て、由布、鶴見、高崎の諸山を望み風景絶佳なり

D 觀海寺 (同郡石垣村)

別府町を距る西二千丁に在り石垣原の古戰場を隔て、櫻後灣に接し碧波萬頃帆檣競るか如きもの皆一眺の中に集る是れ觀海の名の起る所以なり湧泉あり浴すべく湯あり沐すべし

E 海地獄 (同郡瀧尾町)

別府町を距る西北一里餘にあり經數丈深き淵るへからず

其色深緑にして蒼海の如し故に此名あり湯登き騰る湯煙は煇燦として潔壯を極め遠く數里の外より望見するを得べし

F 血の池地獄 (同郡瀧尾町)

經十餘丈湧せる熱湯其色朱の如く深汚爲めに血を流すに似たり血の池地獄の左方更に青緑色の湯あり其距離數尺に過ぎず紅綠相對して湧出せる狀一層の奇觀たり

G 柴石温泉 (同上)

御遊町の西方山中に在り今鐵炭酸泉にして貧血の諸症に效あり加ふるに境域頗る幽邃にして山水の泉趣に富み最も病癒に適す附近の磐石を鑿ては木の葉石を出すものあり柴石の地名蓋し是に因るなるべし

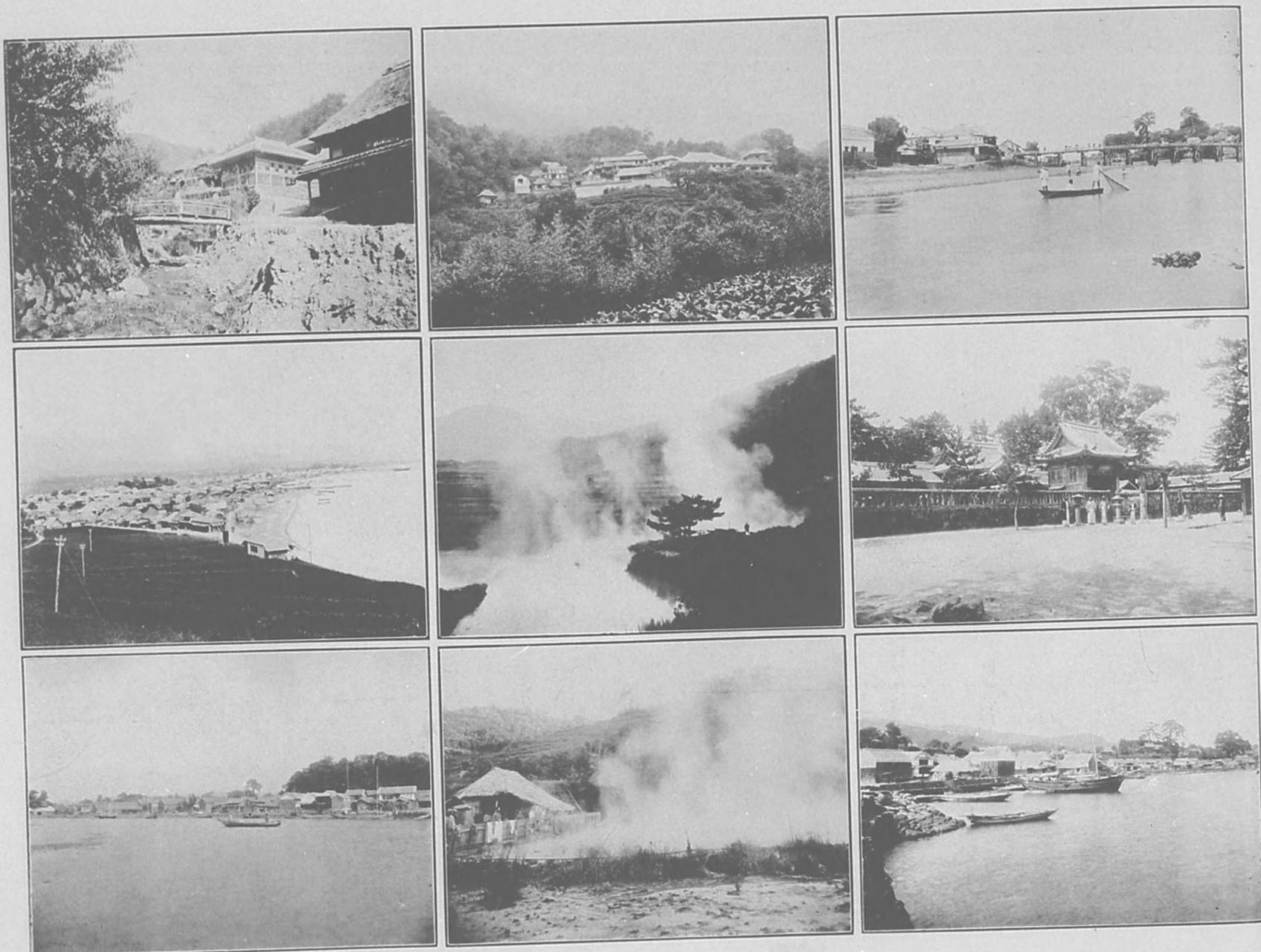
H 別府港 (同郡)

西に鶴見山を負ひ東は櫻後灣に面す市街は南北に亘りて波光風影の間に縱横相映み風光明朗空氣清鮮加ふるに氣候溫和にして到る所温泉湧出大浴場十箇所の多きに及び海陸の交通亦至便なるを以て年浴客七八十萬を下りすと云ふ物産に竹細工其他の工藝品等種類極めて多し

I 杵築港 (同上)

舊松平氏の城市たり北方に杵築港あり盛に青蓮米穀を輸出す縣立中學校、區裁判所、警察署、郵便局等あり

A	B	C
D	E	F
G	H	I





耶馬溪 其一

(下毛郡) 中津驛より南三里

山國川に沿ひたる一帯の溪谷之を耶馬溪といふ往古は山國溪と唱へしか頼山陽一度此地に遊ひ絶世の才筆を以て大に之を賞揚し其詩文中に耶馬の字を用ゐしより愈天下の奇勝として喧傳せられ其文字も亦之に従ふに至れり溪の長さ十五里、支流を合すれば殆んど百里に垂んとす本圖は即ち競秀峰にして所謂青生洞門なり山上に羅漢寺あるを以て又青生羅漢と云ふ溪中屈指の勝景にして奇巖怪石重重累出し淵水屈折、層巒之に枕し幽邃閑雅實に仙境に入るの感あり

頼山陽

峰容面面趁看殊。耶馬溪山天下無。安得彩毫如董巨。生緘一丈作橫圖。

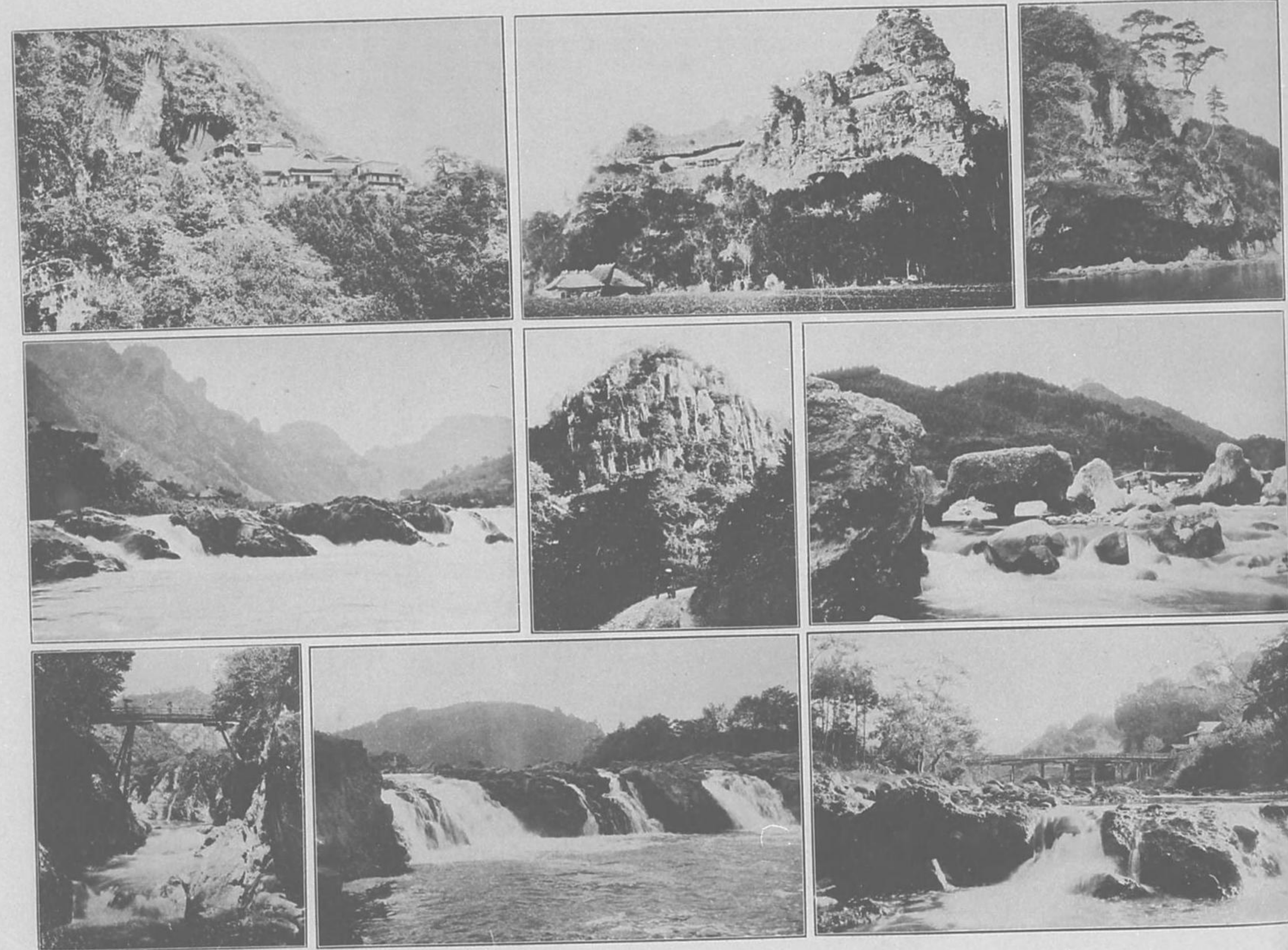
梁川星巖

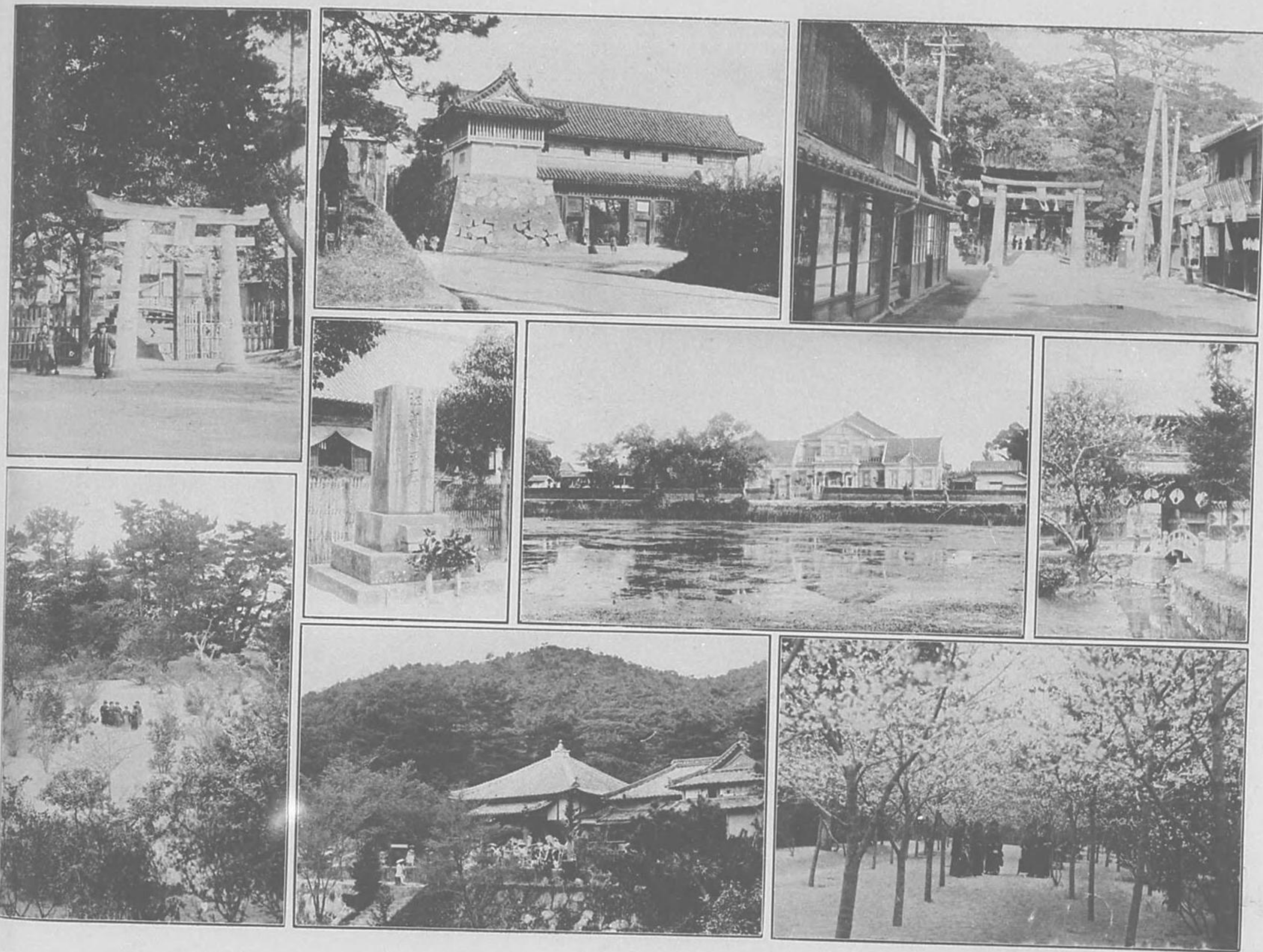
石約峰頭山東溪。煙雲錯錯樹低迷。畫人要闢黃家秘。何不齋糧到鎮西。



耶馬溪の勝は羅漢寺曾木橋より屈知林、柿坂に至る間を最とす新羅漢寺は競秀峰にありて青生洞門より約半里、大化元年法道仙人の開闢に係る斷崖絶壁洞窟あり飛瀑あり又天然の石橋あり而して寺は險崖に懸り樓閣巍然として風光奇絶言ふへからず其内に釋尊、文珠、普賢、五百羅漢等の石像を安置す前面の溪流兩岸巖壁にして一橋あり曾木橋と云ふ對岸に登ゆるは即ち舊羅漢寺にして山腰に一大洞穴あり自ら石門を成す今の所謂新羅漢寺は古昔此地より移したるものなりと云ふ更に上りて柿坂に至れば對岸に山陽投筆巖あり山陽曾て此處に遊ひ路傍の一旅亭に入りて酒を温め猪を炙り陶然として此風光に對し而かも終に隻句を題する能はずして筆を投せしと故に此名あり其他溪中の奇勝擧げて數ふ可からず(A)は山陽投筆巖(B)は犬走り(C)は耶馬橋(D)は舊羅漢寺(E)は鷲巢山(F)は鮎返り(G)は新羅漢寺(H)は五龍の瀧(I)は念佛橋なり

I	F	L
H	E	B
G	D	V





佐賀縣

A 與賀神社 (佐賀市)

郷社にして欽明天皇の朝の創祀に傳り、塚原大明神、蘆原大明神と號し、彦火出現命、應神天皇、市杵島彥命、豐玉姫命、瀧津島彥命、瓊津島彥命、天兒屋根命を合祀す。傳説に往昔松、樟の二樹一夜に蘆原中に生じ、金色の光輝を發せり故に蘆原大明神と號せしなりと後現今の社名に改稱せり。

B 佐賀城址 (同上)

面積凡そ三萬坪大手は町に臨み、搦手は田野に接す。龍造寺家業の經營する所、鍋島直茂代て之を領するに及び更に天守閣を築き、櫓門を堅固にし九州名城の一と爲せしも、維新後全く頽廢し、石垣とを殘すのみ。

C 高傳寺山門 (同上)

國內有名なる禪刹にして、鍋島氏時代の菩提所たり。境内宏闊、結構壯麗加ふるに、門前に多く櫻樹並に蓮を栽植し、花時に至れば頗る美觀なり。

D 佐賀縣廳 (同上)

赤松町舊城内に在り、肥前國、三藩基、神崎、佐賀、小城、村島、藤津、東松浦、西松浦の八郡並に佐賀市を管治す。

E 江藤新平墓 (佐賀市)

松原神社内に在り、正面に「江藤新平墓」と題し、裏面に「爲明治七年諸君建之」と記せり。七年とは即ち後の佐賀の亂を指せるものなり。

神野御茶屋 (佐賀縣神野村)

市の東北停車場を距る半里許に在り、舊藩主鍋島四郎の設くる所、園内庭苑の美を、つくし泉水には、錦鯉游泳せり。小舎あり、無隣青山亭と云ふ市の附近に於て最も幽靜なる地を、求むれば先づ指を此に屈せざるべからず。(F)共に神野御茶屋の景を寫せるものなり。

G 水上不動 (同郡川上村)

水上山萬壽寺の境内に在り、大治五年異僧善任上人の遺營に係ると云ふ。

H 松原神社陶器鳥居 (佐賀市)

縣社にして、中殿に舊藩祖鍋島直茂左殿に龍造寺隆信右殿に直茂の祖直正を配祀す。明和八年十月の創建にして、明治五年に再建す。境内千二百六十餘坪、前に土地名産の磁製の鳥居及燈籠一箇あり。

H	B	A
E	D	C
I	G	F

A 田島神社

(東松浦郡呼子村) 西庚津脚ヨリ四里半

呼子村の對岸加部島に在り國幣中社にして三女神を奉祀し相殿に大山祇神、稚武王命の二神を祀る縣内第一の古社なり境内一萬千四百六十五坪、蒲山松杉鬱蒼として中に數百株の櫻樹を交え花時の美名狀すへからす松浦灣一帶無數の島嶼一眸の中に集りて其風景の佳なる實に縣下第一なり境内に彼の領巾振山の古蹟を殘したる松浦佐用姫を祀れる社あり

B 川上川結築

(小城郡) 小城ヨリ東北二里

加瀬川の上流なる川上川は毎年秋季に入りて鮎魚の盛に漁獲せらるゝ處なり本圖は巧妙なる築を水堰に伏せ鮎を漁獲する所とす

C 脊振廣瀧

(神崎郡) 神崎ヨリ北三里

脊振山は肥前、筑後兩國の間に跨かり山中に神祀僧房あり本圖の廣瀧は同山の一部なる廣瀧山の溪谷を横流するものなり

D 岡山神社神苑

(小城郡小城町)

舊小城藩主鍋島元茂及同直能を祀る郷社にして社殿は神殿、拜殿、繪馬殿等壯麗を極め殊に境内宏闊にして風致に富む本圖は其神苑の一斑を示すものなり

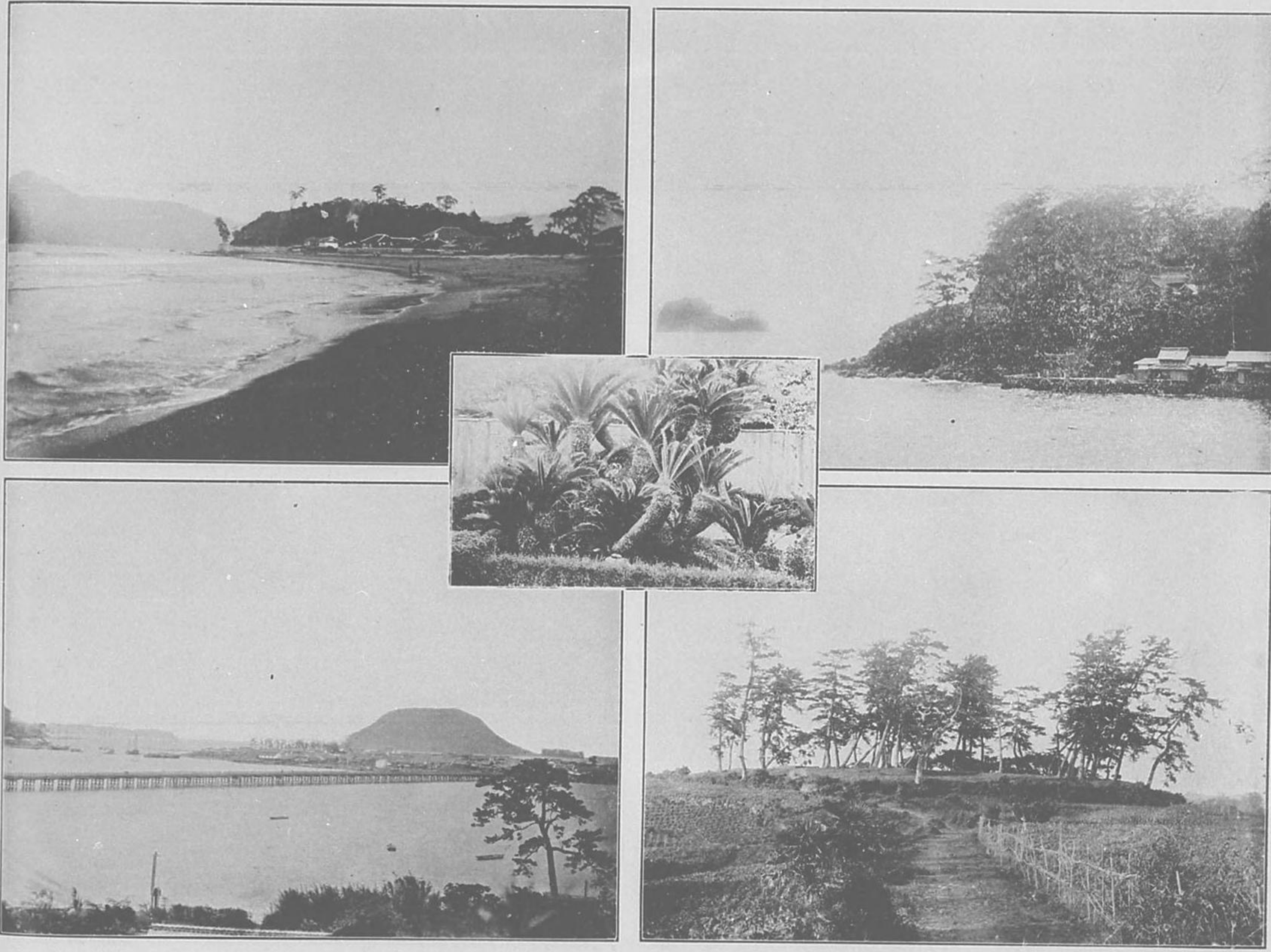
C	A
D	B



佐賀縣

A 田島神社全景

本社の説明は既に前叙に盡せるを以て茲に記せず本圖は同社周囲の景及び遠く海面漂渺の中に島嶼を望む所なり



名護屋城址

（重松浦郡唐津村）西唐津驛より西北四里八丁  
 郡の北端呼子と織に小海峡を隔つる處にあり豊臣秀吉征韓の時其本營を置きたることは史に詳かなり其舊址は海岸一帯の平地にあり此附近所謂松浦灣にして前には捕鯨を以て有名なる小川島、加唐島を控へ遠く壹岐の山岳を雲煙の間に望み風光極めて佳なりBは名護屋城址Cは豊臣秀吉手植の蠶織にして當城址中にある

D 舞鶴公園遠望

（同郡唐津町）  
 舞鶴公園は唐津町の東北に在り町は佐賀縣屈指の良港にして百貨輻輳し市街亦殷賑を極め郡役所の所在地たり公園は文祿年間征韓の役豊臣秀吉の城きし舞鶴城の址にして山に據り海に面し礎石を以て之を疊み植るに梅櫻を以てす舊本丸址は地高燥に松浦灣内の風光指顧の間に在り園は唐津西灣より舞鶴公園を遠望したるものにて山海の絶景言ふへからず

E 唐津松浦橋

（同上）  
 松浦川に架したる長橋なり川は嚴木村の東なる佐禮嶽に發し曲折相知村に至りて桃川を合せ鬼塚村に於て波多川を容れ虹の松原の西を過きて海に入る流域凡十里、圖は其河口唐津港に注ぐ所にして中央に横はれる橋は即ち松浦橋なり橋上眺望頗る佳にして松浦灣の白帆、領巾振山の翠微一眸の中にあり

沈めけん鏡の影やこれならん松浦の川のあきの夜の月 定 家



A 伊萬里港

(西松浦郡)

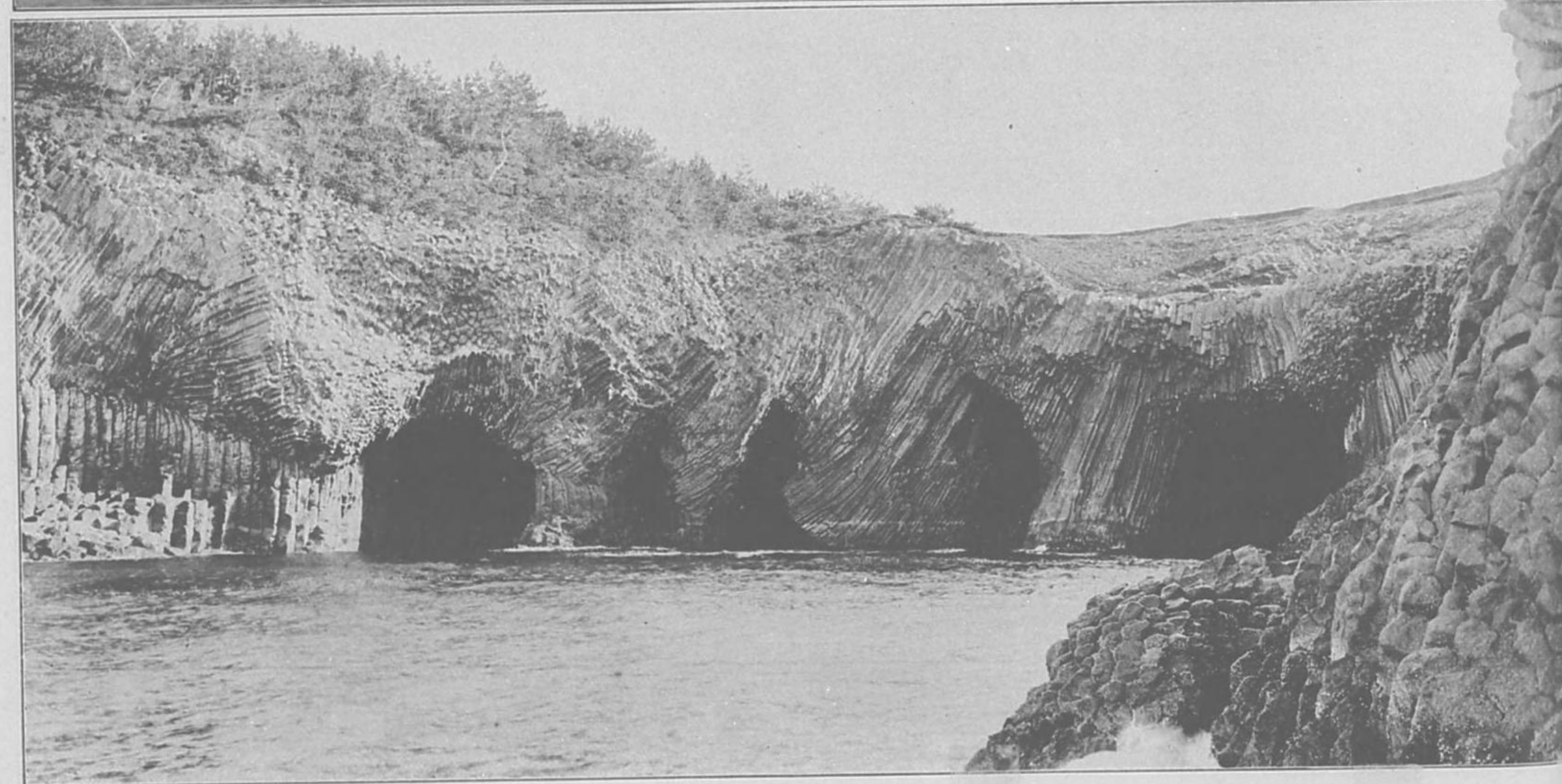
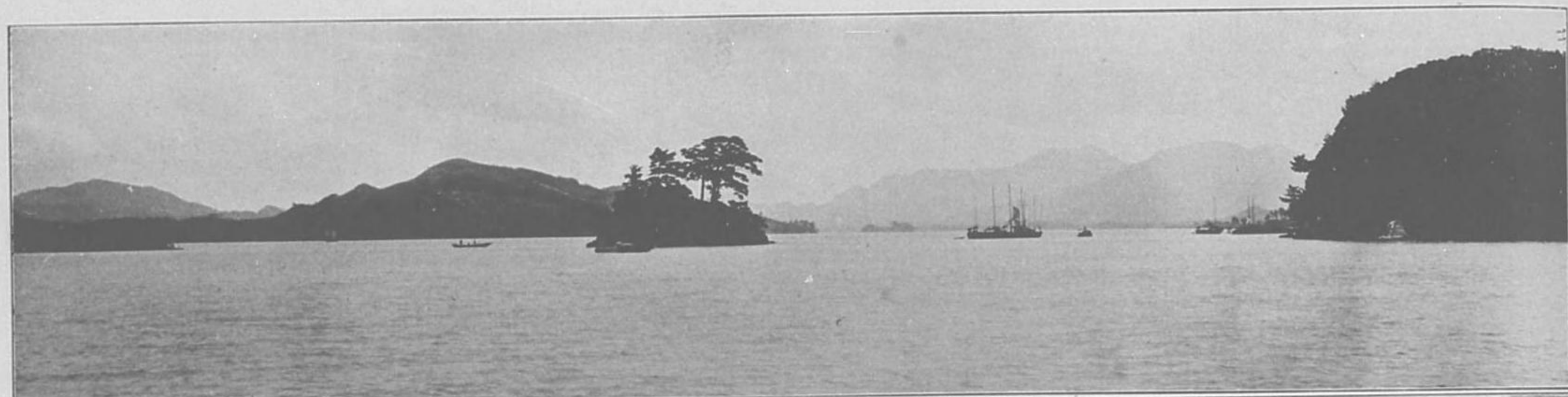
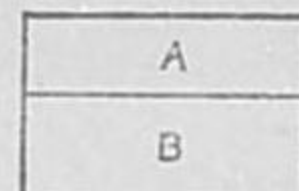
唐津の西南七里西松浦郡の中央に在り南は山に接し西北は海に連り有名なる伊萬里港の産地なり市街稍狭小なれども曾て縣廳を置かれし地にして今郡役所の所在地たり地は伊萬里内灣を控え又鐵道支線の有田に通するあり水陸の運輸頗る便なり

B 七

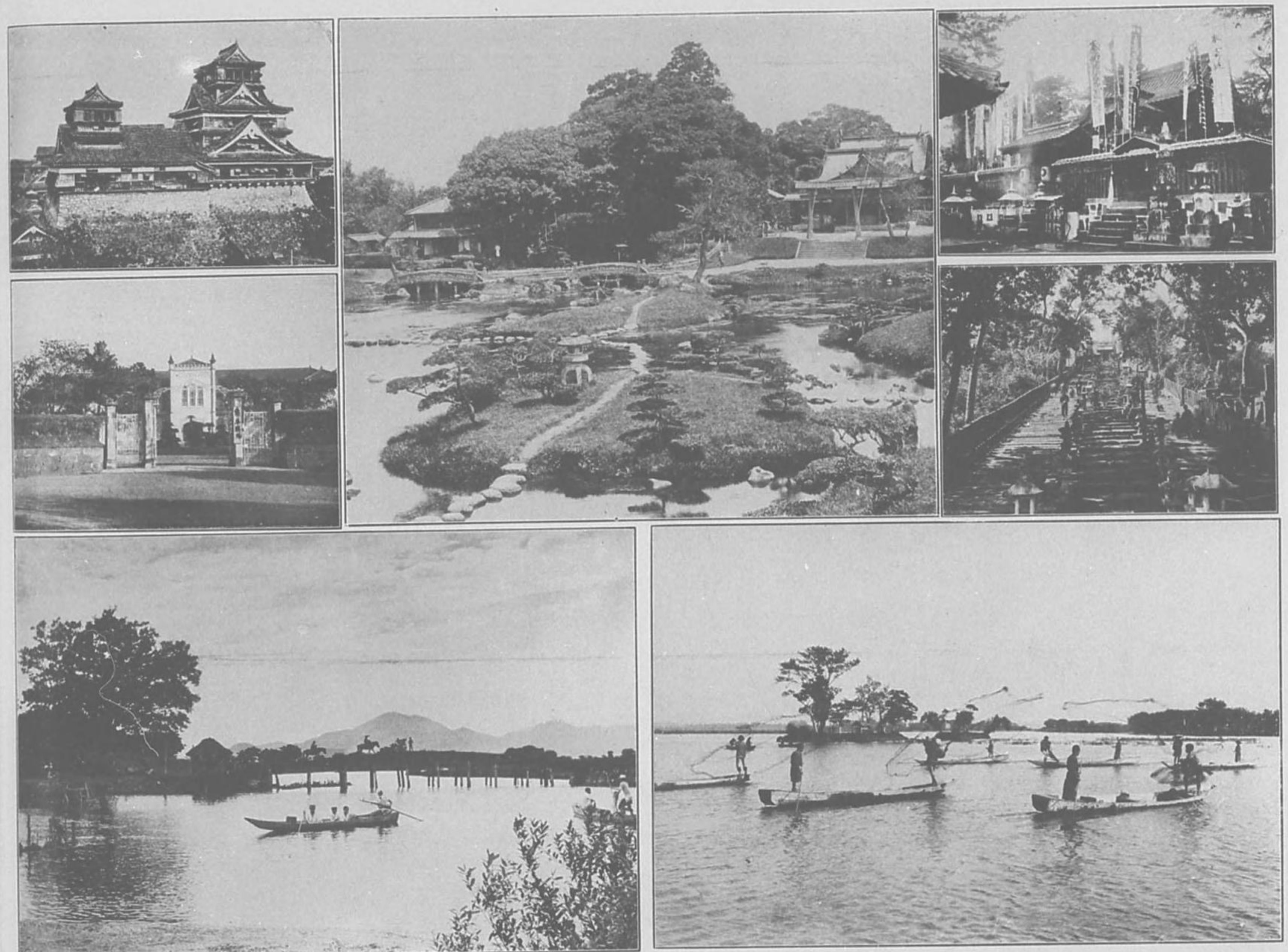
釜

(東松浦郡 西唐津郡ヨリ二里)

湊村の海岸神崎と稱する小岬に在り全岬玄武岩より成り斗壁峭立先端分岐して稍三叉狀を呈し其東なる又の基脚に七箇の横洞竝列して竈を列へたるか如し是れ七釜の名ある所以にして風無く浪靜なるの日は舟を洞中に容るを得へし西なる又の基脚亦二洞竝列して内相通せり及側尙二三洞あり神工鬼斧能く筆舌の盡す所に非らず蓋し宇内の絶觀なるへし



熊本縣



本妙寺

(熊本市花園村) 上熊本驛より西八丁  
京都本國寺の末寺法華宗の大伽藍にして發見山と號す開基は眞上人にして加藤清正の廟此所に在り堂宇宏壯結構華麗賽人常に境内に充ち題目の聲夜を徹す園中(A)は廟所(B)は境内の大道にして兩側には寺院相連り又多數の櫻樹を植栽す

成趣園

(熊本市出水村) 熊本驛より約二里  
園は世に水前寺と稱し昔時諷利水前寺のありし所にして後嘉善王細川氏の別業たりしか今は遊園地となれり清冽なる泉水湧出し假山泉石の觀兼も及はず地の秀なる九州第一と稱せらる藩祖の祠廟たる縣社出水神社あり其東方に八丁馬場あり往昔加藤清正が軍馬を調練せし所なりと云ふ

熊本城

(熊本市)  
一に銀杏城と稱す市の中央に在り慶長年中加藤清正の城きし所にして堅牢無比天下の名城と稱せられしか王政維新後廢棄を置かれ明治十年の役谷干城が軍要守すること五旬滯の如く空せ來りし陸軍の銳鋒を支へしも實に此の城にして爲めに樓櫓焚毀し板時の壯觀を失ふ所ありと雖も却て又幾多の閱歴を増し來りし今第六關團の營所たり

熊本縣廳

(同上)  
城東白河の西畔千反畑町に在り肥後一州即ち十二郡一市を管治せり現在の廳舎は明治二十一年の建築に係る

江津湖

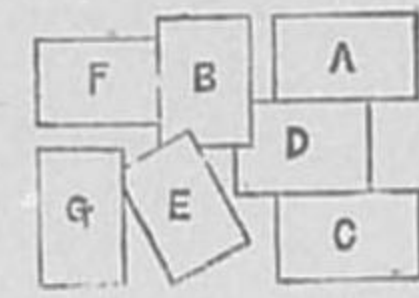
(熊本市區花園村)  
湖は田迎の東出水の南に在り一に畫園湖に存る源を水前寺池に發し南流數町にして江津湖となる東西十六町南北十二町下流は南に注ぎて加勢川に歸す湖中に小島あり竹樹密生し酒涼の勝地にして夏時に至れば遊人踵を接す湖中鯉、鯽及び水苔を産す共に佳品にして膳に上すに足る園中(H)は網打ちの景にして(G)は湖の全景なり

D	C	A
E		B
G		F

熊本縣 阿蘇山

(阿蘇郡) 熊本縣東十二里

阿蘇山は九州の中央に在る活火山にして白川の水源地たり山上の噴火口は直徑七里短徑尙ほ四里に及び其絶大なること世界曾て其比を見すと云ふ此山盤踞數里分れて五峯となる所謂阿蘇五岳にして高岳、杵島岳、箱岳、中岳、楢尾岳是れなり今現に噴火しつゝあるは中岳にして硫黄の蒸氣濛濛として昇騰し悽愴慘澹言語に絶す殊に一天將さに明けんとする時遠く之を望めば濃淡黄白の煙霞山嶺を籠めて美觀言ふ可らず山北に阿蘇神社あり官幣中社にして健甞龍命を祀り阿蘇比咩神を配祀す社殿の結構總て古代の建築を模し素樸古雅徒に丹朱青碧を施したるものと異れり樓門に掲けたる扁額は故有栖川宮熾仁親王の御筆に係る大祭は毎年七月二十八日にして田植祭と稱し古風なる儀式他に其類を見ず本圖中(A)は阿蘇神社の全景(B)は同山門(C)は阿蘇山遠望(D)(E)(F)は共に噴火の光景なり





熊本縣



A 人吉大橋

人吉は相良氏の舊城地たりし所今球磨郡役所の所在地たり球磨川其中央を貫流して市街を東西に分り川中古來岩石多くして舟を通せず不便少からざりしか林正盛なる者之を浚渫し後又一木架橋の成りてより交通漸く頻繁に市街も亦今日の盛況を見るに至れり

菊池神社

菊池氏の舊城址にあり明治三年の創立にして南朝の忠臣菊池武時を祀り武重、武國、武光、武政、武朝を配祀せり境内には本社、神樂所、祭器庫、社務所、繪馬堂等あり近くは芙蓉、鞍ヶ岳の二山に對し遠く阿蘇山の雲煙を望み菊池通間の兩川蜿蜒として左右を流れ眺麗園殊に櫻樹多きを以て花時には賽者絡繹として織るか如し園中(B)は社殿(C)は社頭の景なり

D 山鹿温泉

泉質硫黄を含みて風疾、痛風、微毒等に效あり口畔に宇野親治此地に關して温泉に關するを聞き始めて之を發見したるは保元二年十二月十日なりと云ふ今も毎年十二月二十日には湯祭を行ふ湯場清潔に且つ宏大なること九州第一と稱せらる

E 三角港

宇土郡の天草諸島と相連續して遠く海中に突出したる處を三角港と稱す北は筑紫海を隔て、肥前の島原半島を望み南は不知火海を畫りて天草諸島の翠色を指點し風景佳

F 林温泉

林温泉は球磨川の沿岸交通極めて不便なる僻地にあるを以て昔く世に知られざりしか近來肥後縣道の開鑿と共に鐵道開通し又明治四十三年今の繁華様主か河岸最も風光明媚の地を下し新湯を穿ちしより九州屈指の温泉場となるに至れり泉質硫黄を含み瘡癩、皮膚病及び婦人病等に效ありと云ふ

G 五家莊

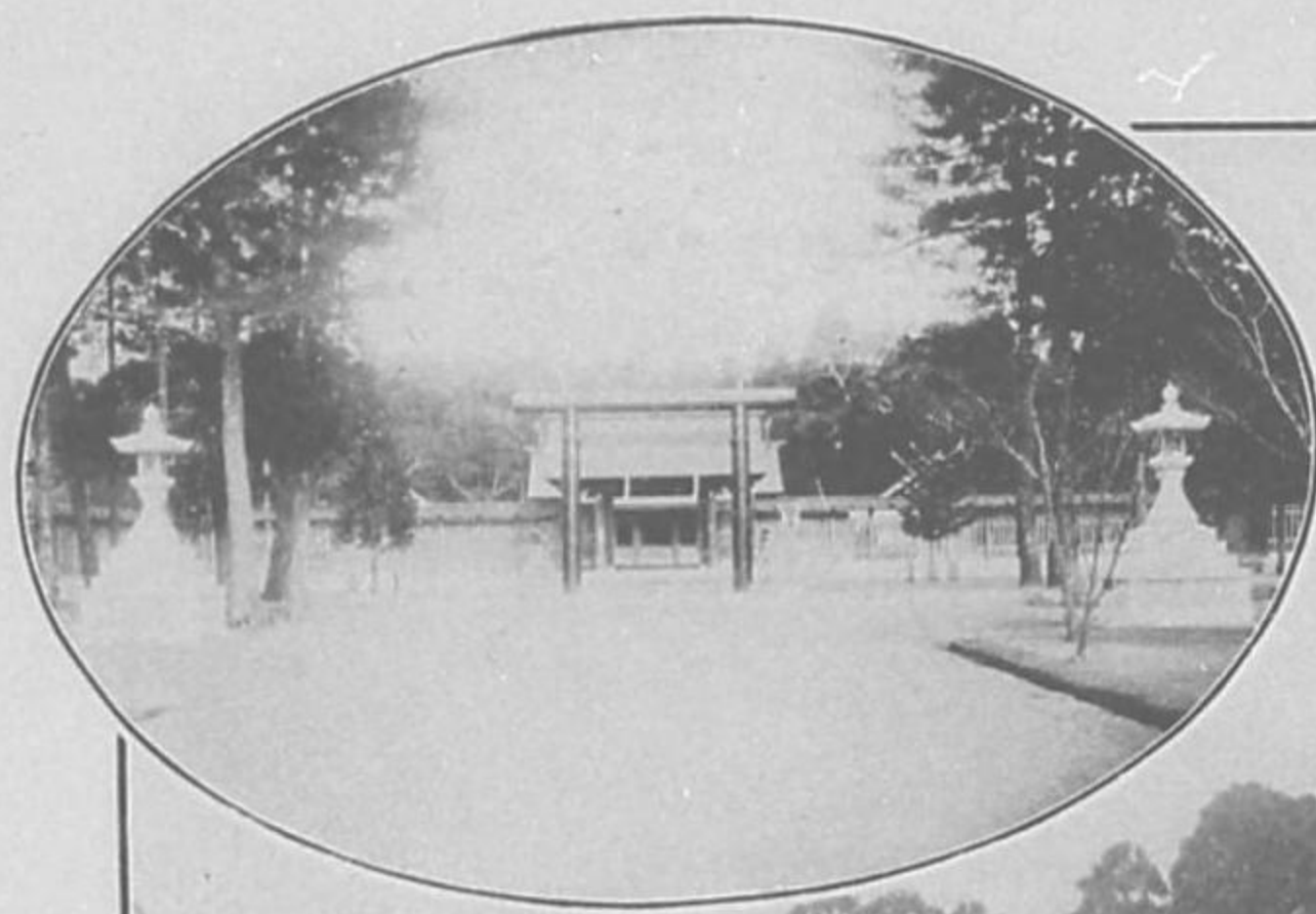
郡の東南球磨川の源なる深山窮谷の間に在り一に五箇庄とも云ふ往古古氏の殘黨か逃匿して人と交通せず子孫今に至れりと傳ふるは即ち此地にして廣袤約五里、四面崖峭を以て畫り白鳥嶺高く東南に聳る俣口岳、六本杉山の二嶺西方を繞り九州第一の奇境なりと云ふ今椎原、久連子、樅木、葉木、仁田尻の五箇村となれり

H 球磨川

球磨川一に熊川に作る水源二あり一は五箇庄谷樅木村白鳥嶺に發し一は五箇庄の東南江代村なる片尾山より出づ而して二水人吉の東に於て相會し更に萬江川を合せ流域二十八里にして海に注ぐ人吉以下急灘奔流にして舟を通ずる所僅に十六里に過ぎず

A	B	C
D	E	F
G	H	

水色如銀月色流。砲聲漸絶表懸空。雷風一陣吹塵去。古得求磨川上秋。 庄田空齋



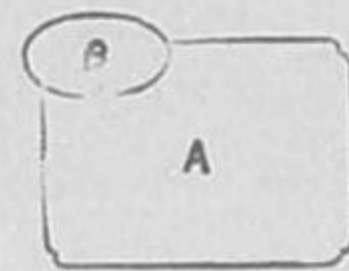
宮崎縣

宮崎

宮

(宮崎郡大宮村)

縁起に據れば神武天皇の皇子神八井耳命の御子天健磐龍命、神祖神武天皇宮居の址に祠を建て天皇を祀ると云ふ明治十八年官幣大社に列せられ近年社殿を改造し結構壯麗神威益赫灼たり圖中(A)は社頭の景にし(B)は本殿の景なり



宮崎縣

A 狹野神社 (西諸縣郡高原町)

霧島山の麓にありて神武天皇御降臨の靈地なりと傳ふ天皇の御幼名を狹野尊と云ふ即ち御名に因て地に命ずるか地に因て御名に負ふか未だ詳ならず境内の老杉周圍概ね一二丈森として天を摩し崇高の氣自ら充滿するを覽ゆ

B 青島

宮崎を距る四里に在り滿洲には即ち島となり干潮には即ち半島をなす周圍半島中茂生する樹木は概ね熱帯植物に屬し就中檳榔樹亭宮島を覆ひ四時青島に青島の名に負かず詞あり彦火出見尊、豐玉尊、瓊瓊杵命三柱の神を合祀す

C 内海港

皇太子殿下宮崎行宮の際御上陸の所にして宮崎を距る五里二千丁港内廣からされとも本縣沿海の略中央に位し物資集散の要地たり

D 宮崎縣廳 (宮崎町)

明治六年都城、美津津一縣を廢し初めて本縣を置かれし

か同九年一度之を廢して鹿兒島縣に合し同十六年再び日向一國八郡を分割して本縣を設けられ現今人口約五十三萬を管治す

E 鶴戸神社 (南那珂郡鶴戸)

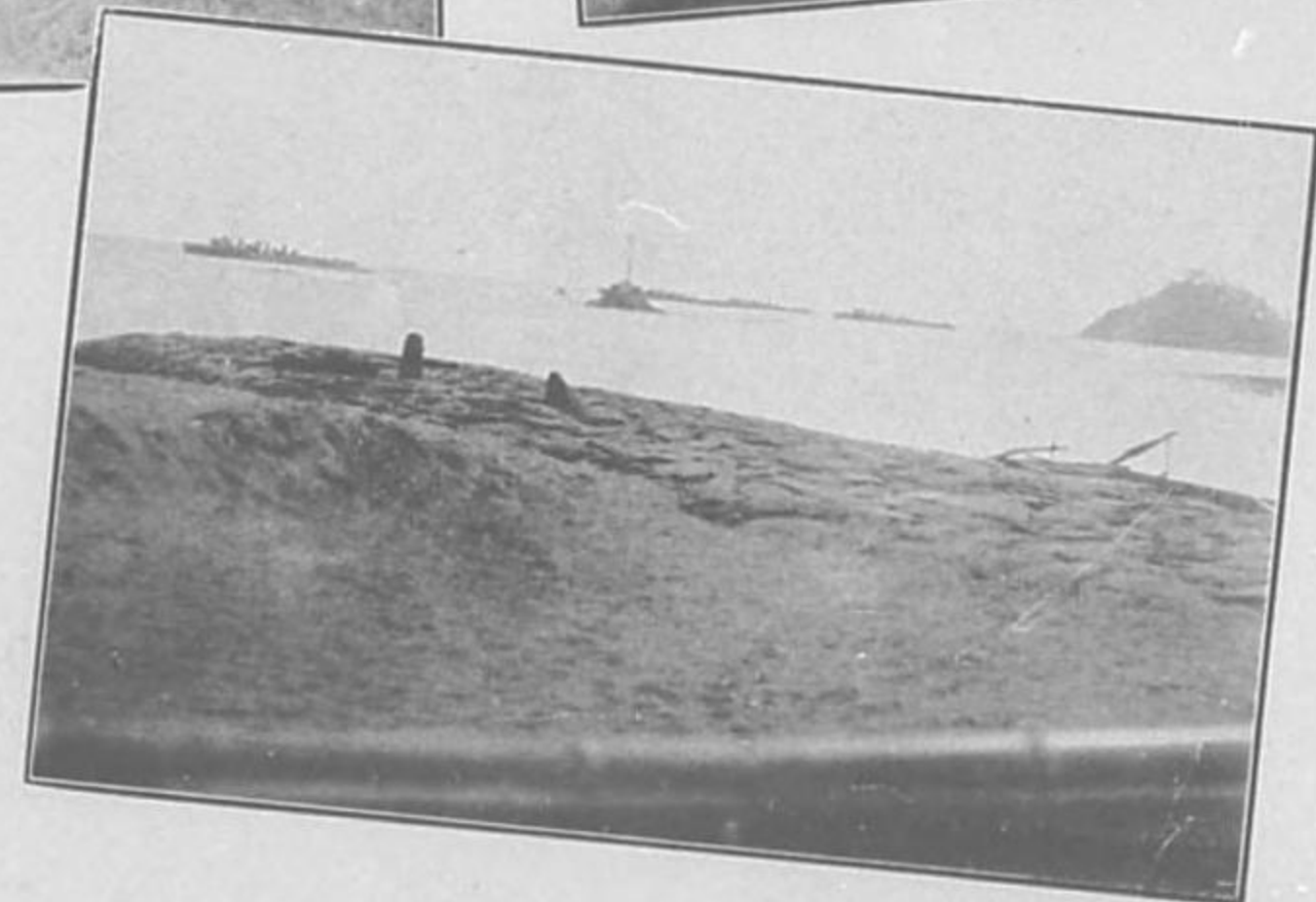
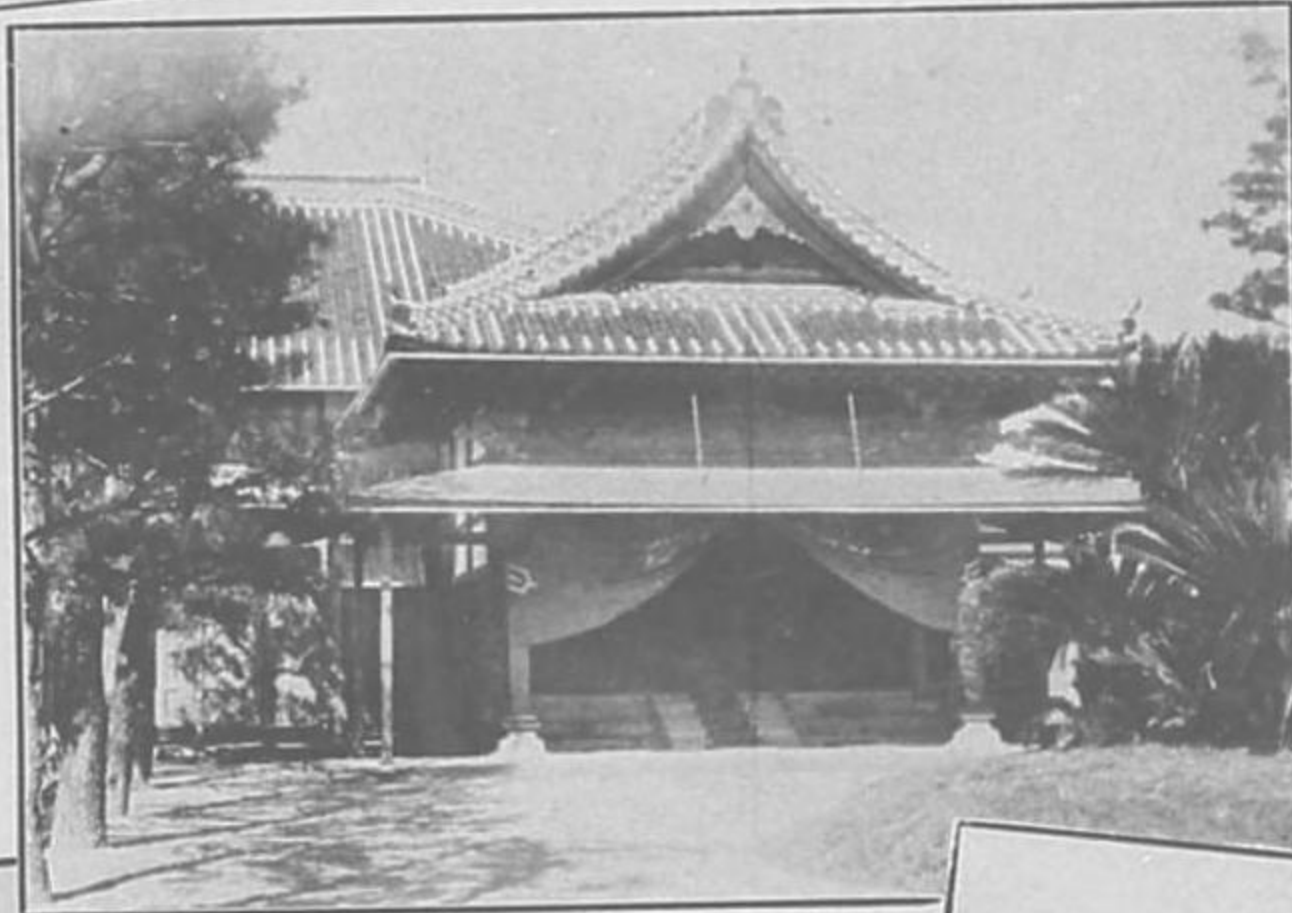
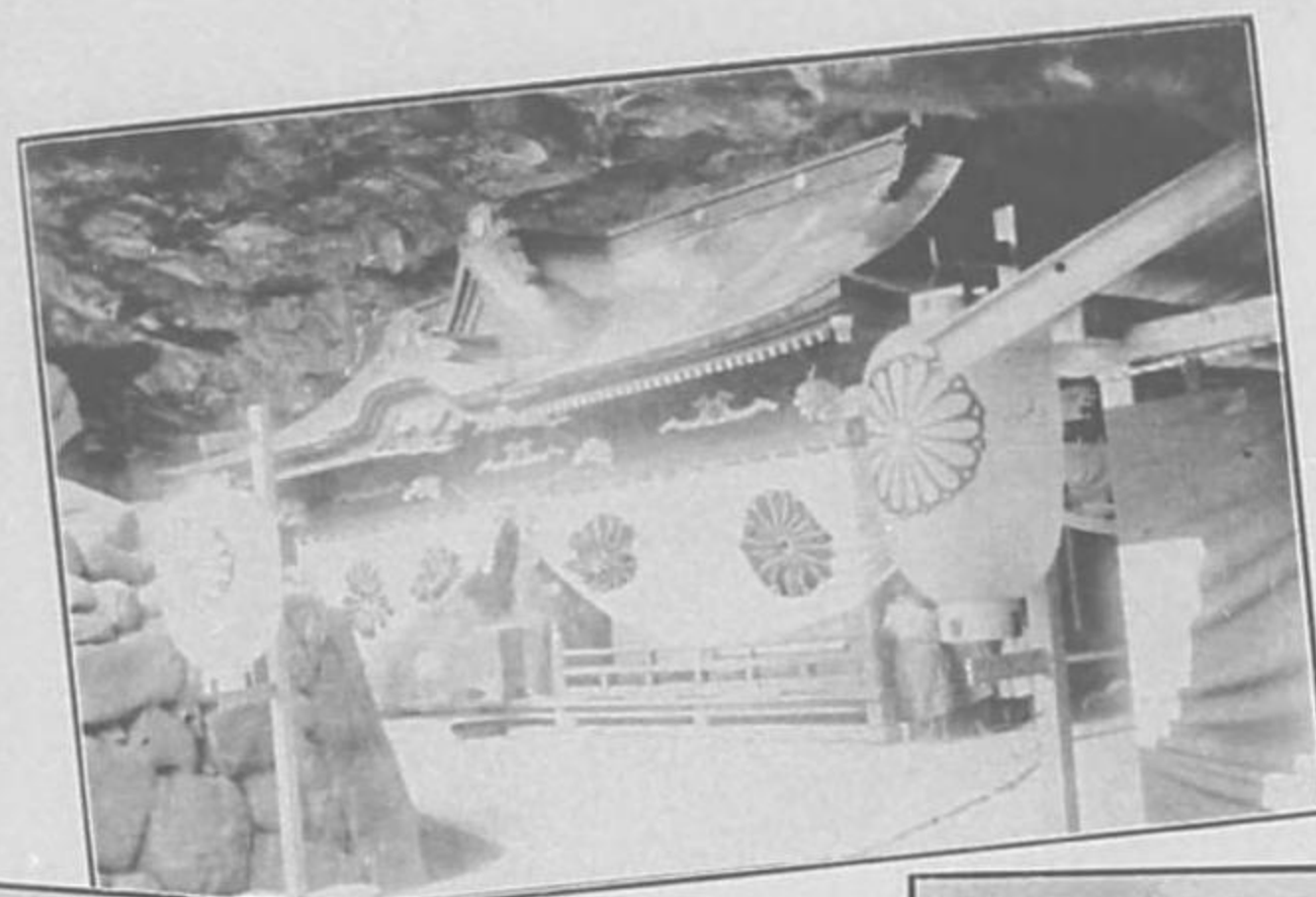
宮崎大社にして鶴草尊不合尊を祀る崇神天皇の御宇之を創祀し後桓武天皇の朝に之を再建せられたりと云ふ境域六萬七千六百五十七坪内に一大廣岡あり尊御降臨の地なりと傳ふるを以て本宮を此岡内に造營す海岸には巨巖聳立し奇態異狀殆ど名狀すべからず境内には老樹繁茂し背後は崖壁重疊して風光頗る壯絶なり

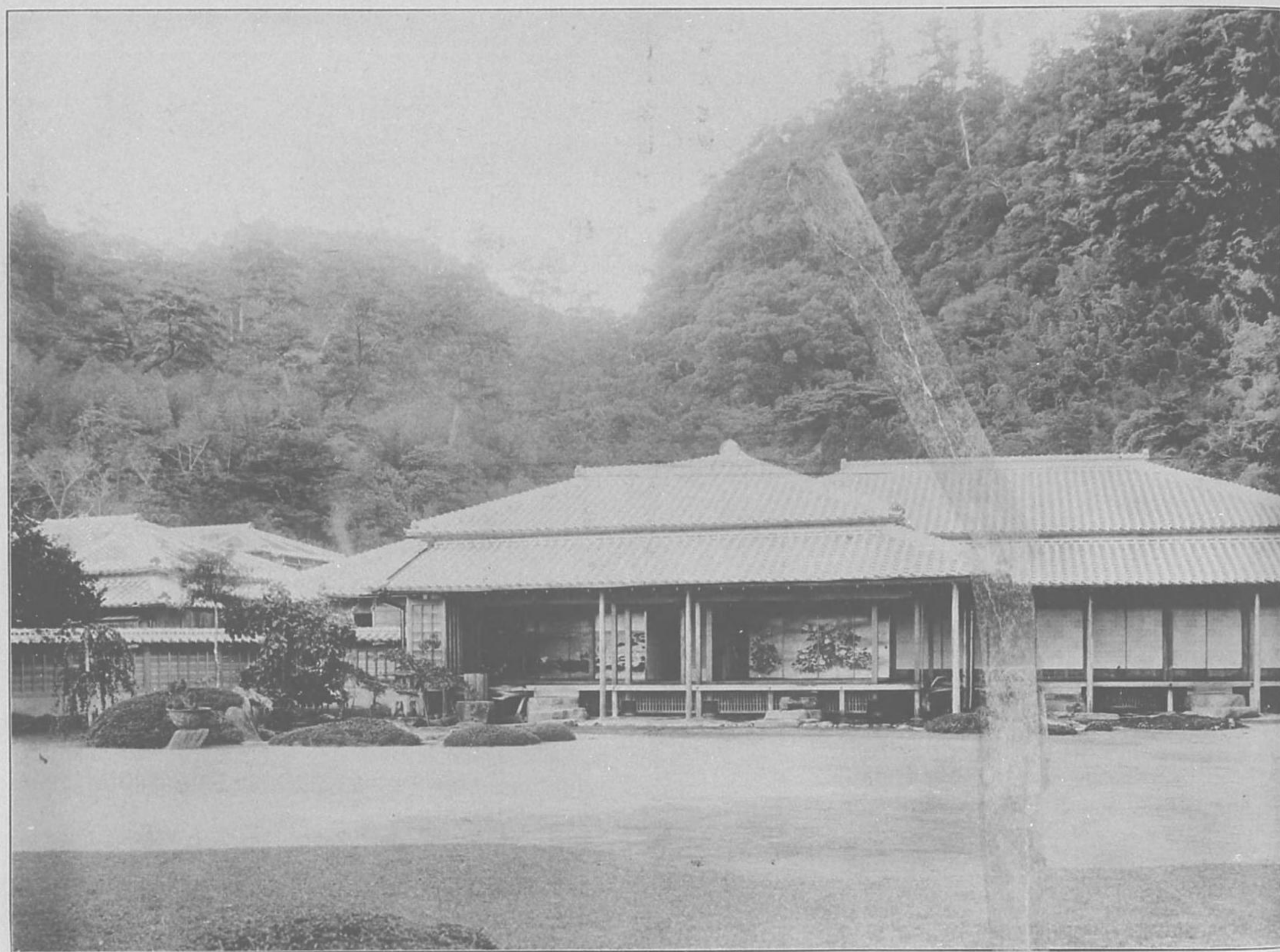
F 宮崎縣師範學校 (宮崎郡大宮村)

宮崎中學校と相並び明治十八年の創立にして同四十年より更に女子部を新設せり

G 油津港 (南那珂郡)

細島鹿兒島間に於ける一の要港にして汽船航路の出入頗る頻繁なり漁業亦盛にして精良の産物を産す會て皇太子殿下御乗艦の碇泊せし所なり

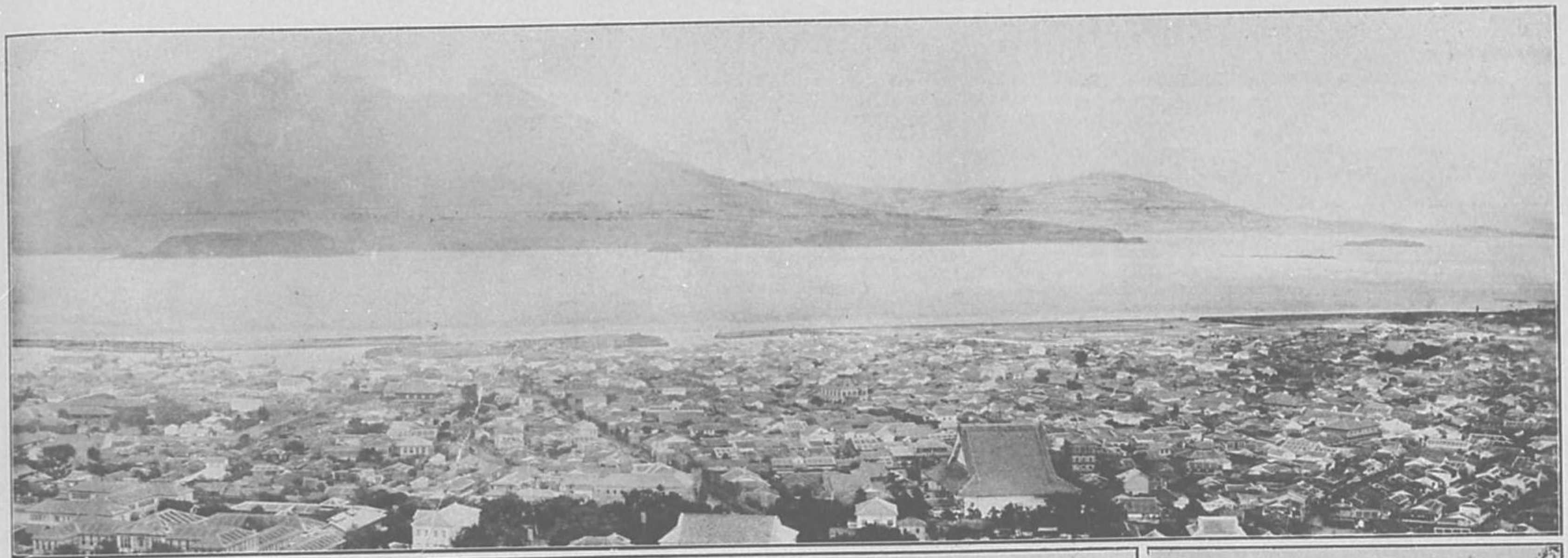




後に翠巒を擁し前は櫻島に對す西南遙に開闢嶽を望み煙波十里其  
風景秀絶なり

磯島津邸 (鹿兒島郡吉野村)

鹿兒島縣



鹿兒島縣

A 鹿兒島市街

鹿兒島市は後に老樹鬱蒼たる城山を真ひ前は鐘江灣に臨み櫻島と相對す國中左方の上部に巍然たるは櫻島岳にして右方遙に起るは高嶺連山なり市街は年繁盛の狀あり二十七八年戰役後臺榭路の中心と爲り次で聯隊の設置あり近來又鐵道の布設あり日を追ふて樞要の地となれり

B 鹿兒島縣廳 (鹿兒島市)

市の西北に在り明治十一年の建築に保り薩摩國七郡一市及び大隅國五郡を管治す

C 照國神社 (同上)

別格官幣社にして薩摩主斯從一位島津大隅守齊形を祀る齊形の新築の際に倭功ありし事は昔く人の知る所なり

D 鶴丸城址 (同上)

老松鬱蒼として風景甚だ佳なり萬砲臺のありし所又久年開英艦の來襲せる時此砲臺最も激しく砲撃せしか敵艦も亦此に集中し遂に全く破壊せらる其後明治十年の役官軍戦死者の墳墓地となりたり

F 祇園洲

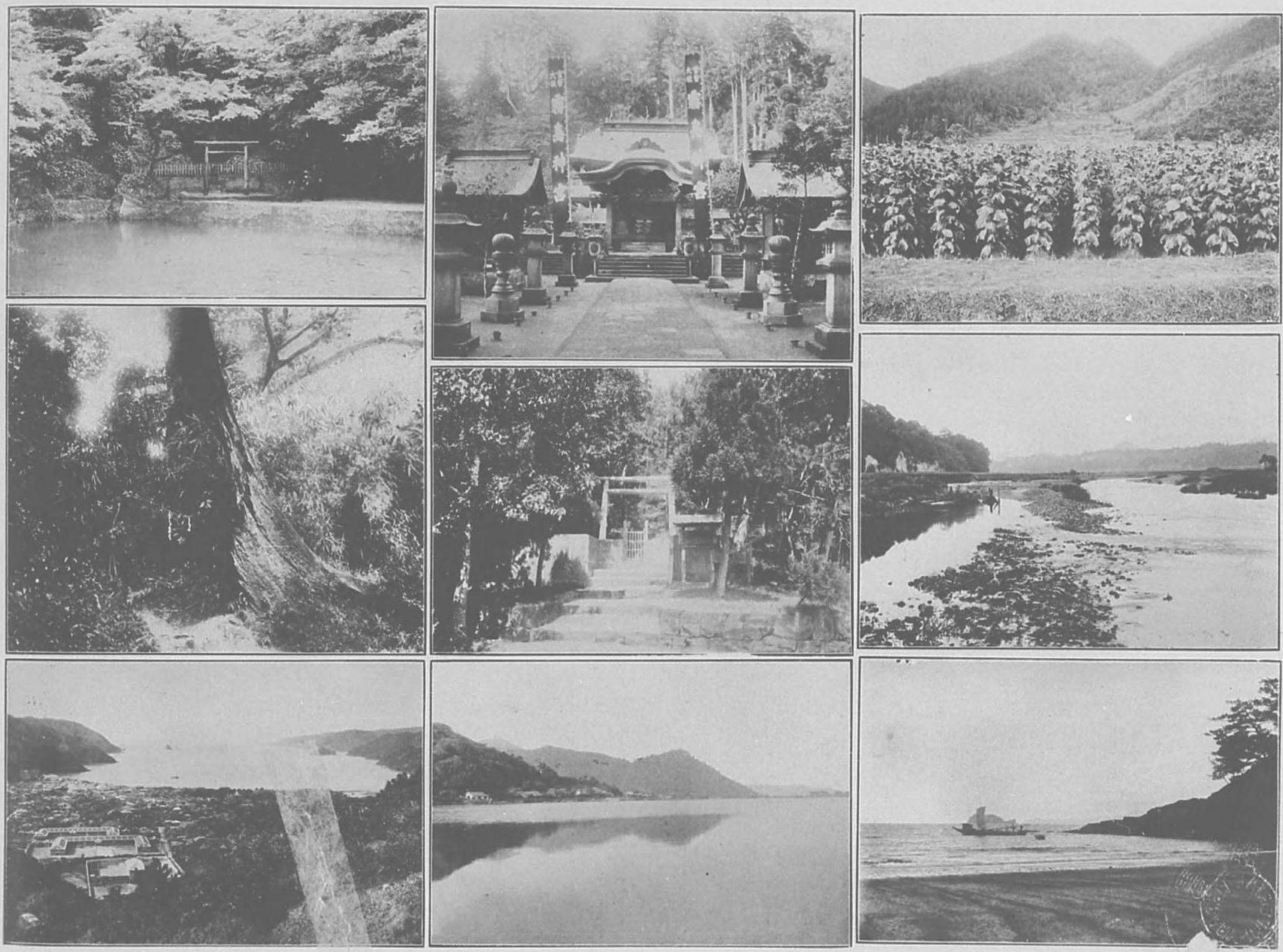
鹿兒島港内移橋附近は明治三十四年度以後三十八年度に至る數年間の經緯事業として經費を以て改修工事したるもの様橋成以來汽船の發着に多大の便利を與ふるに至れり

E 鹿兒島港内棧橋

古への鶴丸城即ち鹿兒島城は鶴丸山麓に在り全山老樹鬱蒼として全市を蔽下し形勝の地を占むふるに鐘江灣を隔て、櫻島に對し遙に霧島開關の諸嶽を穿み風氣名狀すへからす西南の役西郷隆盛が戦歿したる岩崎谷は山後の狭谷にして當年潛居せし主殿今尚存す城址には第七高等學校遺土館あり近來公園を設けて遊園地とせり

A		
E	B	C
F		D





鹿兒島縣

A 國分煙草畑 (益真郡國分村)

日本國中有名な煙草生産地なり本國は其煙草栽培地にして方に收穫前成熟の景なり

B 霧島神宮 (同郡霧島山村)

官幣大社にして瓊瓊杵尊を祀る霧島山腹に在り正月元日の祭式に米を撒くを故事とすと云ふ山は東西の二峯に分れ神社より頂上まで一里半なり

C 吾平山上陵 (肝屬郡益真村)

鶴巻草薙不合尊の御陵にして山中の洞窟内に石を積みて壘となし上に小祠を建つ其東方に玉依姫の御陵と言傳ふるものあり

D 櫛原 (同郡東吉村)

日本開闢の始め伊弉諾尊此處の小門の櫛原に至りて上津瀬中津瀬下津瀬に祓除し九神及諸神を生出し給へる神代の靈跡なりと云ひ傳ふ然れども學者の説一ならず

E 高屋山上陵 (益真郡津邊村)

彦火出見尊の御陵なり樹木蒼鬱幽邃高麗にして神威人砂糖の産地なり

をして自ら標を正さしむるの感あり

F 奈毛木社 (同郡國分村)

村社蛭見神社の境内に屬す同社は蛭見を祀る傳説に蛭見は伊弉諾御尊の御子蛭見神三歳になるまで脚立たざりければ天磐楯の船に乗せて給ひしか爰に漂着し磐楯は枝葉を生じ巨木となりしと神代よりの同樹は枯朽せしも尙其形跡を止む

G 有明浦

宮崎縣下都井岬と鹿兒島縣下との間なる方形の海灣を有明浦と稱す如上人の「たぐひなや春も名残の月の影浪白妙の有明の月」の吟あり灣口は東南に面し風景絶佳なり

H 波見浦 (肝屬郡高山村)

肝屬川の河口に在り背面は山を控へ前面は海に臨み有明灣變味の間に開き其風光絶佳なり

I 大島名瀬港

鹿兒島港を距る二百五海里の所に在り島嶼所在地にして砂糖の産地なり

C	B	A
F	E	D
I	H	G

A 藤川天神 (薩摩郡上東郷村)

郷社にして菅原道真を祀る境内に梅樹あり公の手栽なりと傳ふ其幹一株にて枝四方に廣かり地に達しては根を生じ孰れか木幹なるを知らず

B 川内川

源を日向國飯野に發し伊佐薩摩の二郡を貫流して海に注ぐ全長約四十六里舟楫を通すること十六里に及ぶ川岸なる隈の城村東水引村間の國道に鐵橋を架設す天正十五年豊太閤の本陣と爲せし泰平寺の古蹟は東水引村大小路に在り

C 吹上濱 (日置郡)

日置郡西海岸一帶の地にして南は萬瀬川の南より北は西市來村の海濱に至り其間約十里廣漠たる沙浜にして青松處處に茂り其白沙の吹き上げて高く積る處老松僅に梢を露して恰も稚松に似たり

D 曾木瀑 (伊佐郡太真村)

川内川の上流に在り大巖巨石鑿時し瀑聲雷の如く其壯觀言ふへからず近年巖石を破碎し魚道を開き又木曾電氣會社の發電所を設けたり

E 山川港 (揖谿郡山川村)

鹿兒島灣の門口を臨み港内水深くして且麗し巨船大船を

入る、の良港たり慶長十四年島津家久薩府の命を奉り兵を發して琉球國を伐つ時軍船を本港より發し家久自ら此處に來りて軍事を畫策したりと云ふ

F 坊津 (川邊郡西水引村)

灣内大船を出入るに足らざれども頗る風景に富あり古唐港と稱し次敷年間近衛信輔此地に配流せらる此處に近衛藤と名ぐる手植の藤あり今尚ほ存在し花時甚美觀なり

G 京泊港 (薩摩郡西水引村)

川内河口の南岸なり藩主東武に朝する時此津より出帆し又昔時唐船の出入ありて此津に繫泊せりと云ふ此地眺望絶佳にして八景の勝あり對岸の地を久見崎と稱す眺望亦佳なり

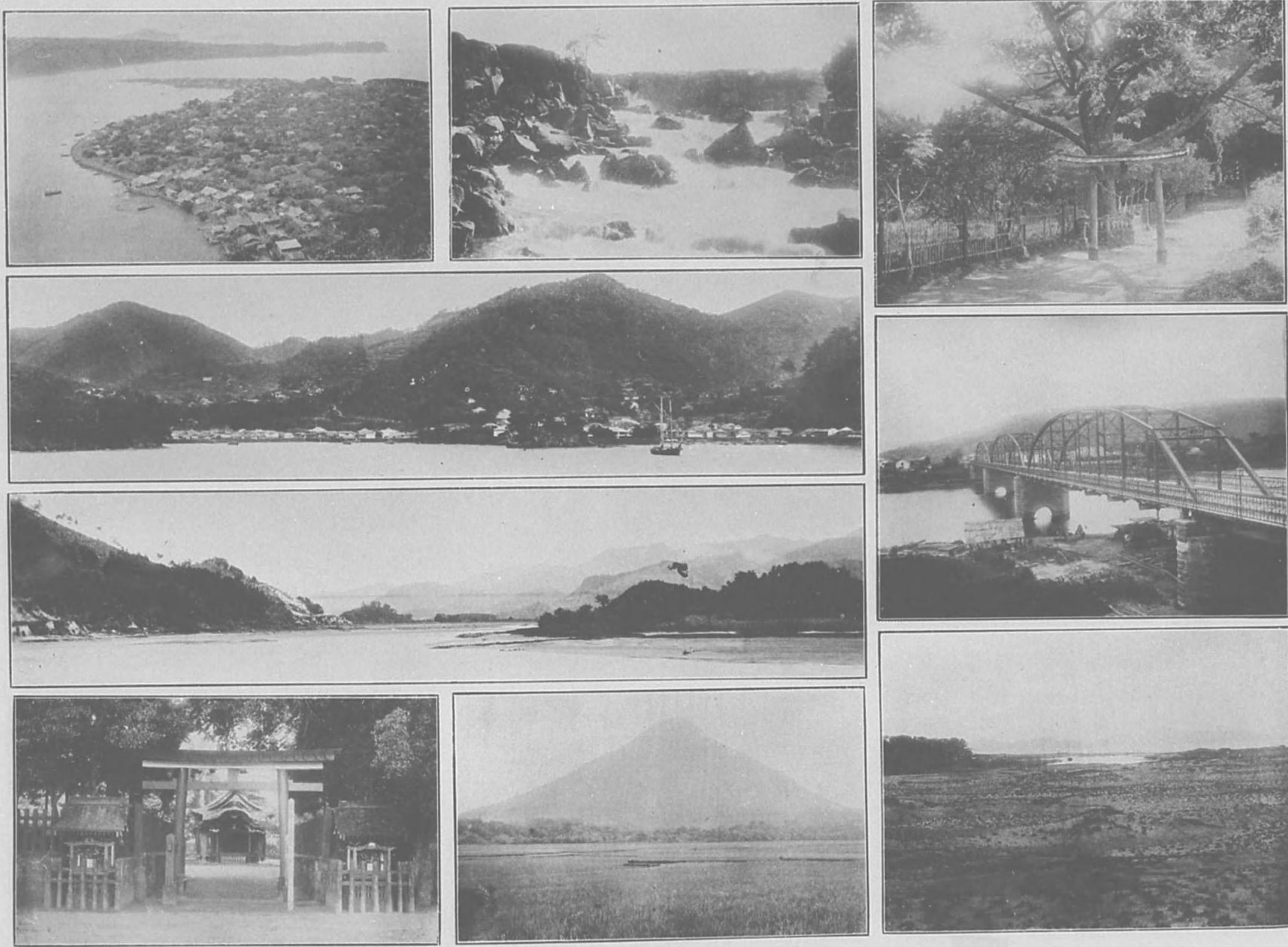
H 開聞嶽 (揖谿郡嶺村)

海拔三千七十八尺山頂に噴火口の址あり形狀富士に酷似せるを以て薩摩富士の稱あり近衛信輔の「さつと浪波の上なるうづほ島これや筑紫の不二といふらん」の歌あり其他曠著島空徳島等の古名あり

I 枚聞神社 (同上)

開聞嶽の北麓にあり國幣小社にして大日靈貴命を祀る往古開聞嶽突上の時祠を此地に遷し假殿を建てしに由りて此社の建立あり即ち舊揖谿郡中の總社たり

E	D	A
F	G	B
I	H	C





沖繩縣

A 舊王城正門 (首里區)

舊琉球國王城の前面にして西に向へり左右に石の獅子像を置き上に扁額を掲げ題して歡會門と曰ふ尙眞王の創建に係り俗にあまへ御門と稱すあまへは琉球古語よるこひほこるの意なり

B 首里城 (同上)

昔時琉球國王尙氏の居城にして首里區最高の丘上にあり周圍凡そ十町石垣の厚さ二間高さ二丈大門三小門八あり園中遙かに丘陵の上に聳ゆるは即ち首里城にして前方に見ゆるは師範學校なり下は即ち龍潭にして清遊登遊魚數ふへし往昔重陽の節龍舟を此處に浮へて册封使を饗するの例なりしと云ふ

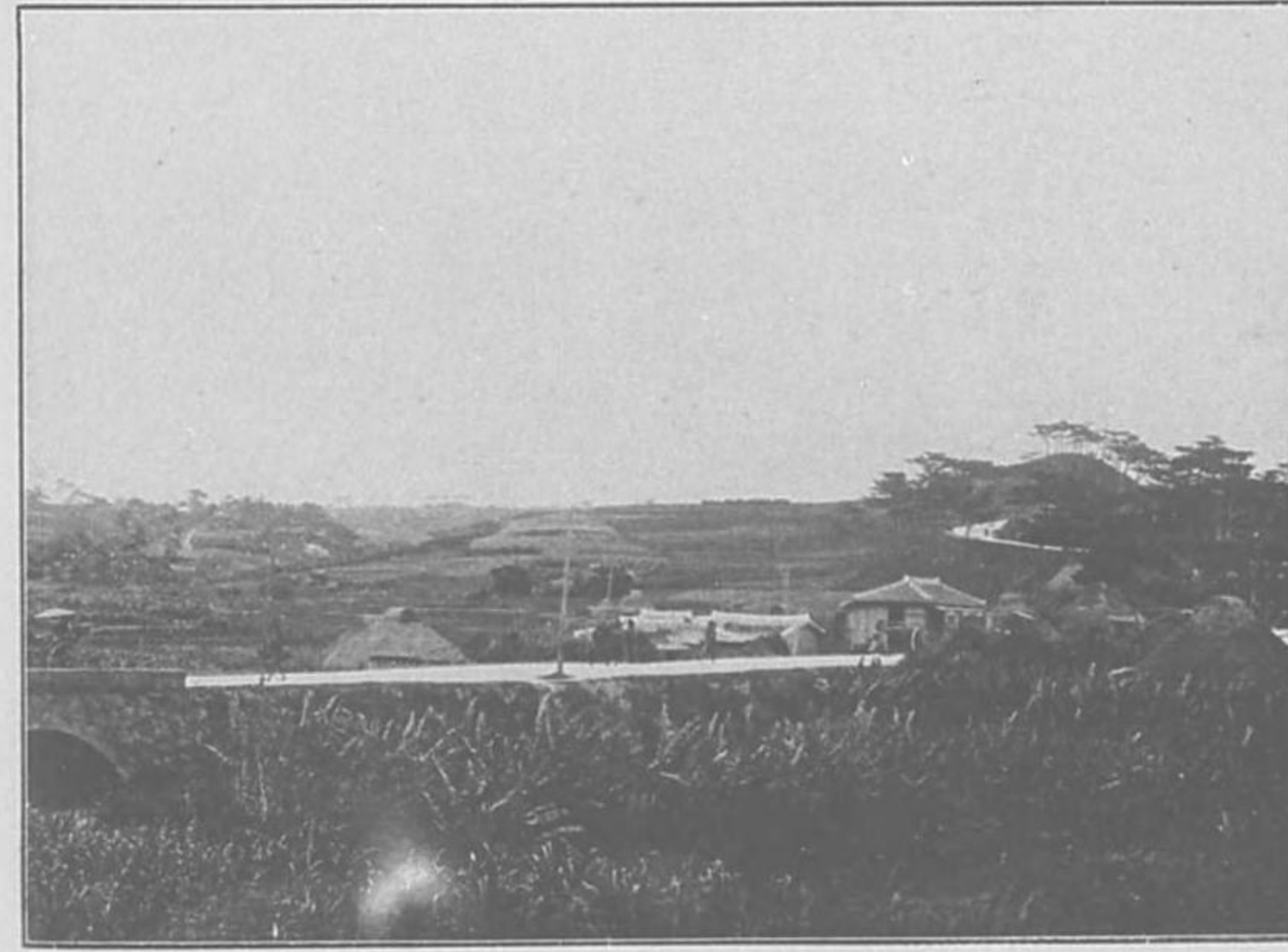
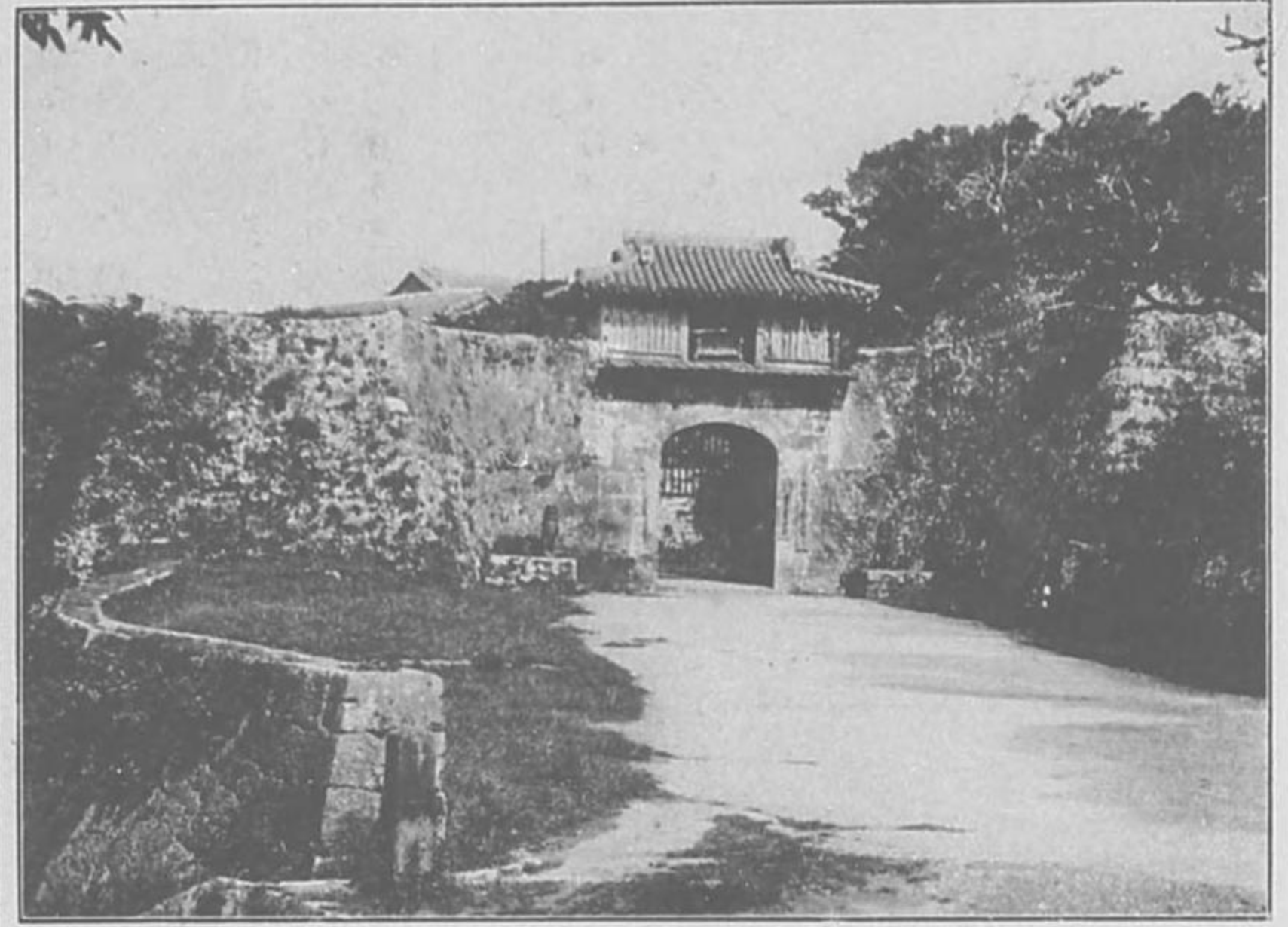
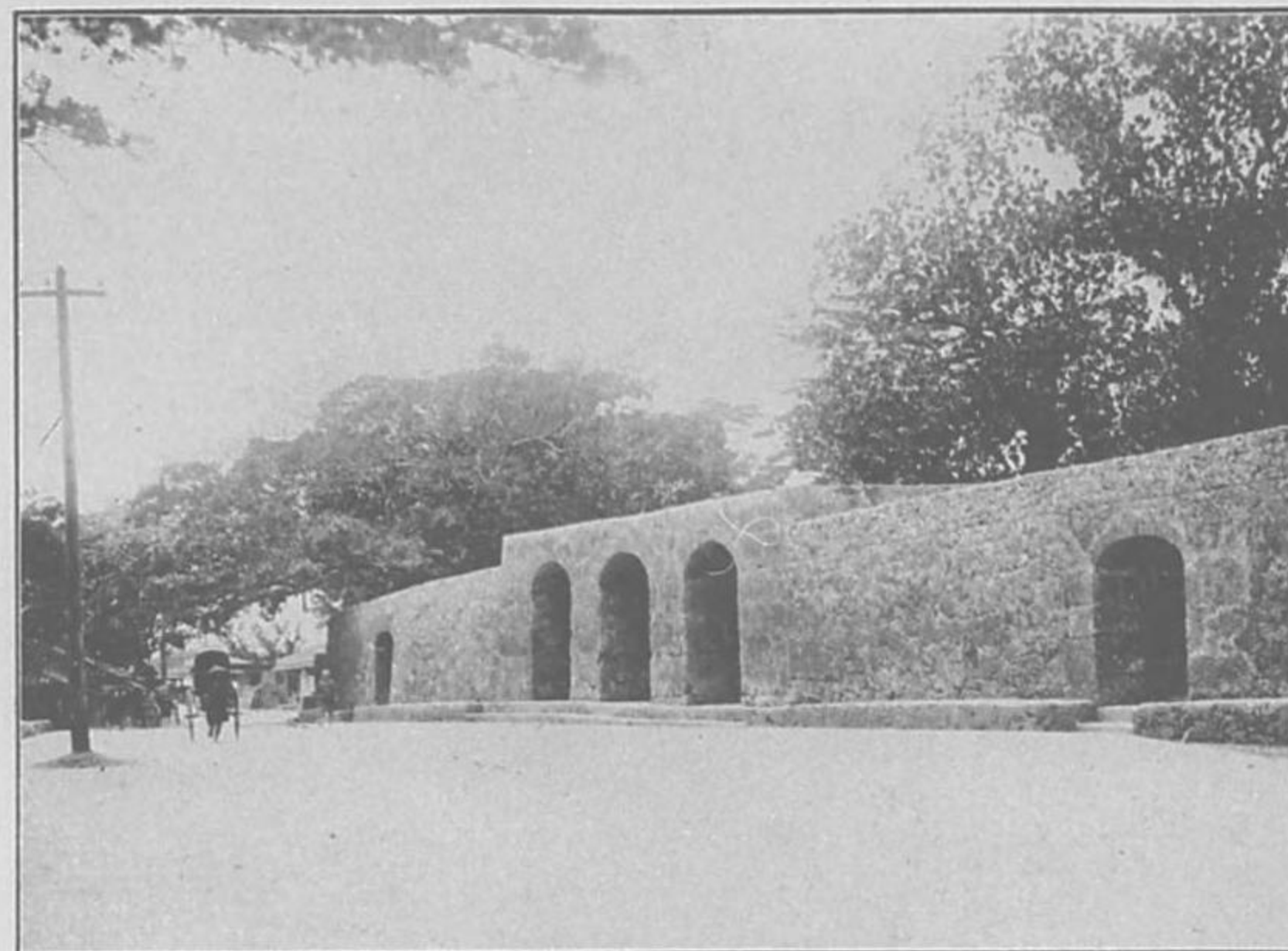
C 崇元寺 (那覇區)

臨濟宗に屬す古寺領三十石を有し境域千二百三十餘坪尙氏歴代の廟所にして舜天王以下の靈位を祀る其開基は尙志王或は尙眞王又は尙眞王時代とも云ひ未だ詳ならず堂宇前後六楹、傍の三楹を僧厨とす其西に先王廟あり安里川其西を流れ安里橋に依りて首里那覇間の交通に便す

D 首里坂下より首里市街の遠望

首里は舊王城の所在地にして那覇港の東方一里に在り廣袤東西二十丁南北十六丁人口凡一萬五千首里區役所、中頭郡役所、師範學校、中學校、高等女學校等あり其他の名所舊蹟も亦到る所に散在し土地高燥閑雅なりと雖も道路凹凸坂多しして歩行甚だ不便なり有名なる泡盛は多く此の地に産す

C	A
D	B



A 波の上宮 (那覇區)

護國寺の後に在り伊弉諾尊、事解男命、連玉男命を合祀す古護國寺附屬の小祠にして荒涼を極めたりしも今は官幣小社に列せらる社内に國寶の朝鮮式梵鐘一箇を藏す

B 那覇港

市街の南方に位し東西十九丁南北十三丁あり臺灣航路内地往復の汽船及び縣下各航路の諸船常々に輻湊し縣内第一の埠頭たり

C 三重城 (那覇區)

那覇港口に在り所謂南北砲臺中の北砲臺にして古海賊を防禦する爲めに築きしものなりと云ふ今は其上に望樓を設く創建の年代は詳ならず

D 大門通 (同上)

久米を東西に貫通する街道を久米大道と云ひ其東口を大門又久米大門と稱す大門以南那覇區に至るの間は大門前通りにして商賈最も盛賑を極む

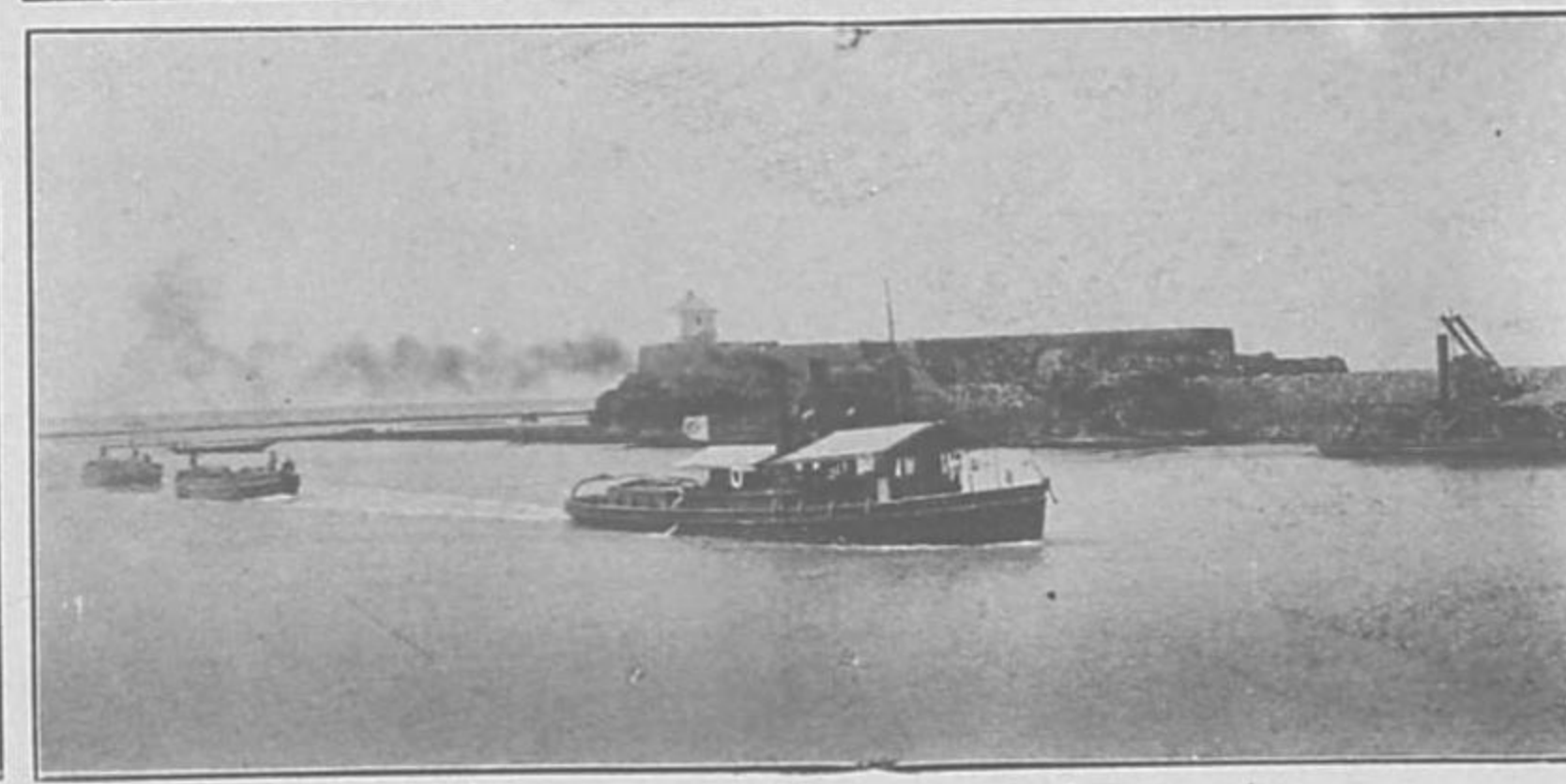
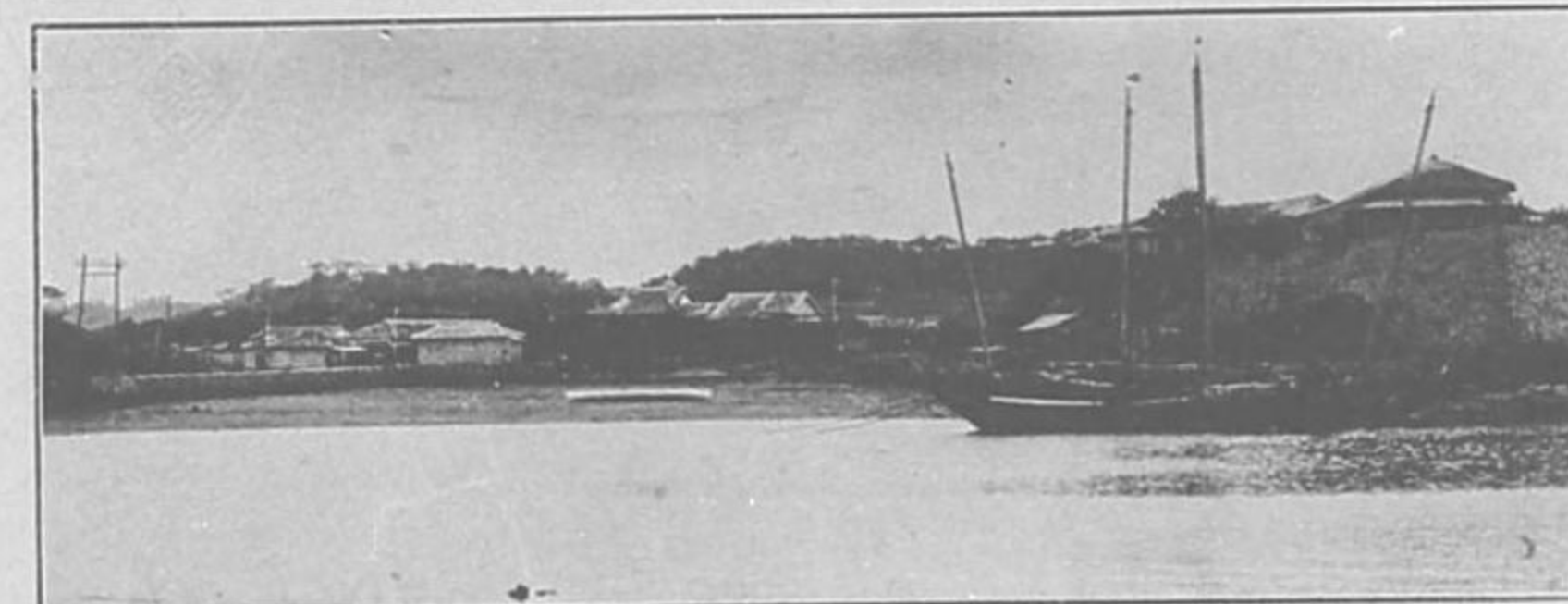
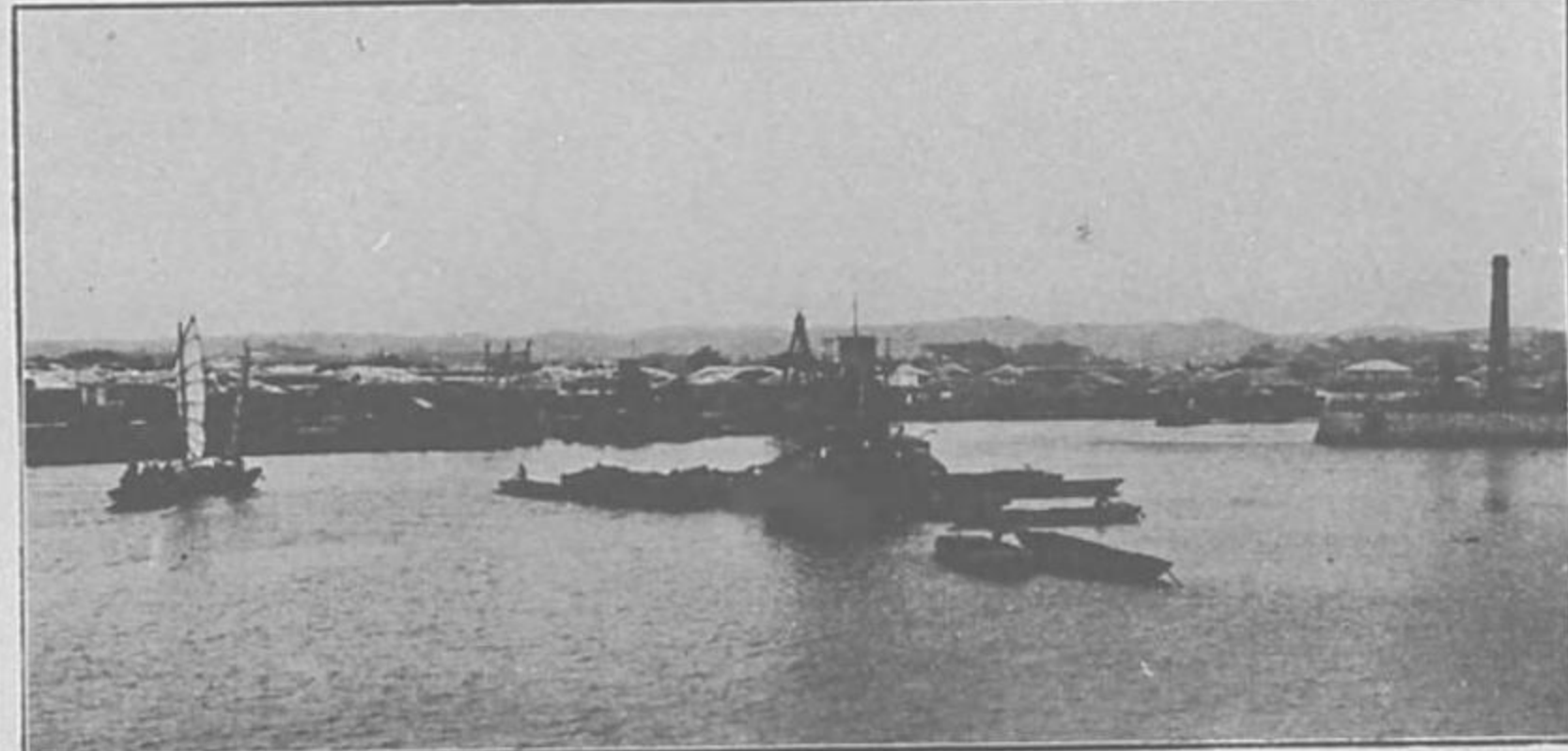
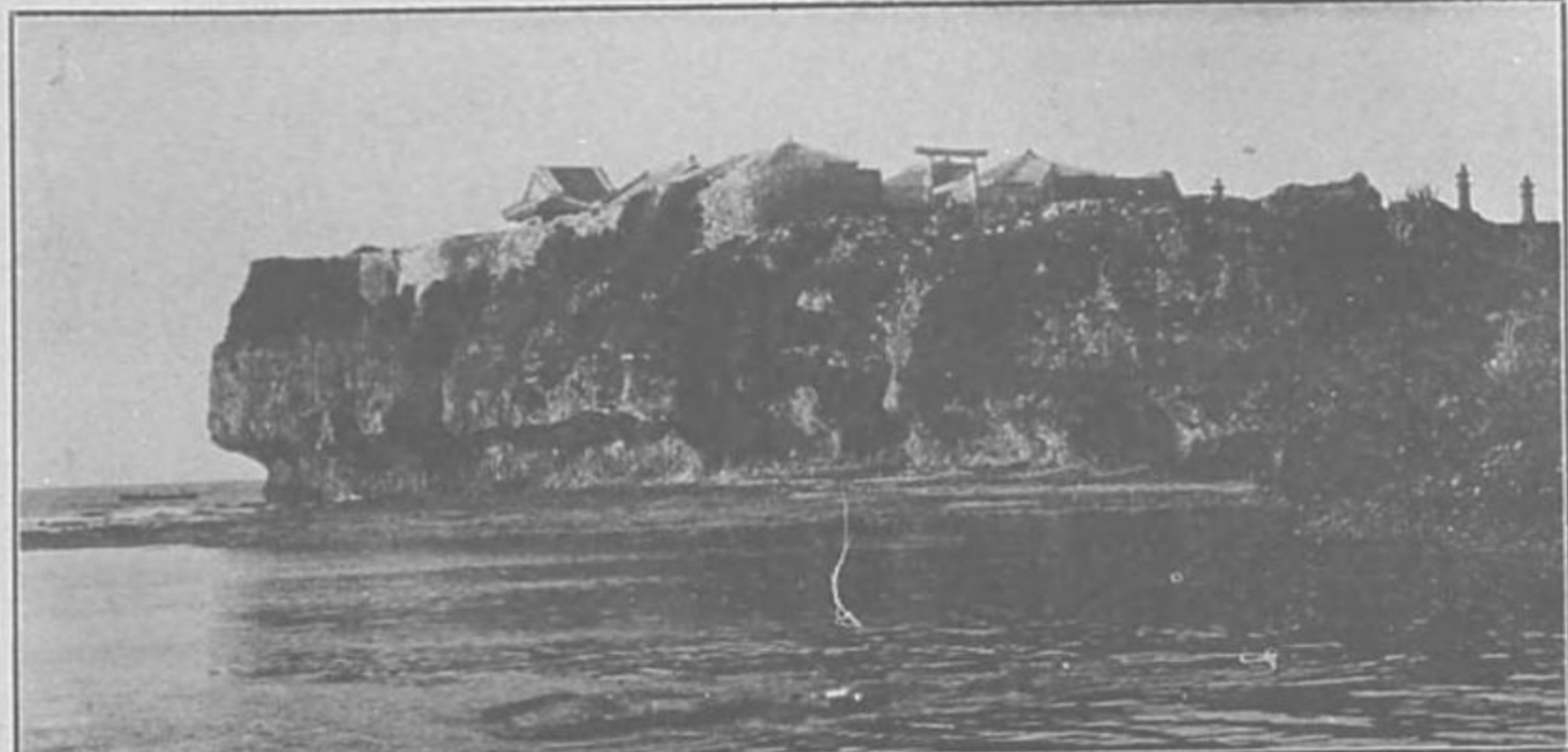
E 石筍崖 (同上)

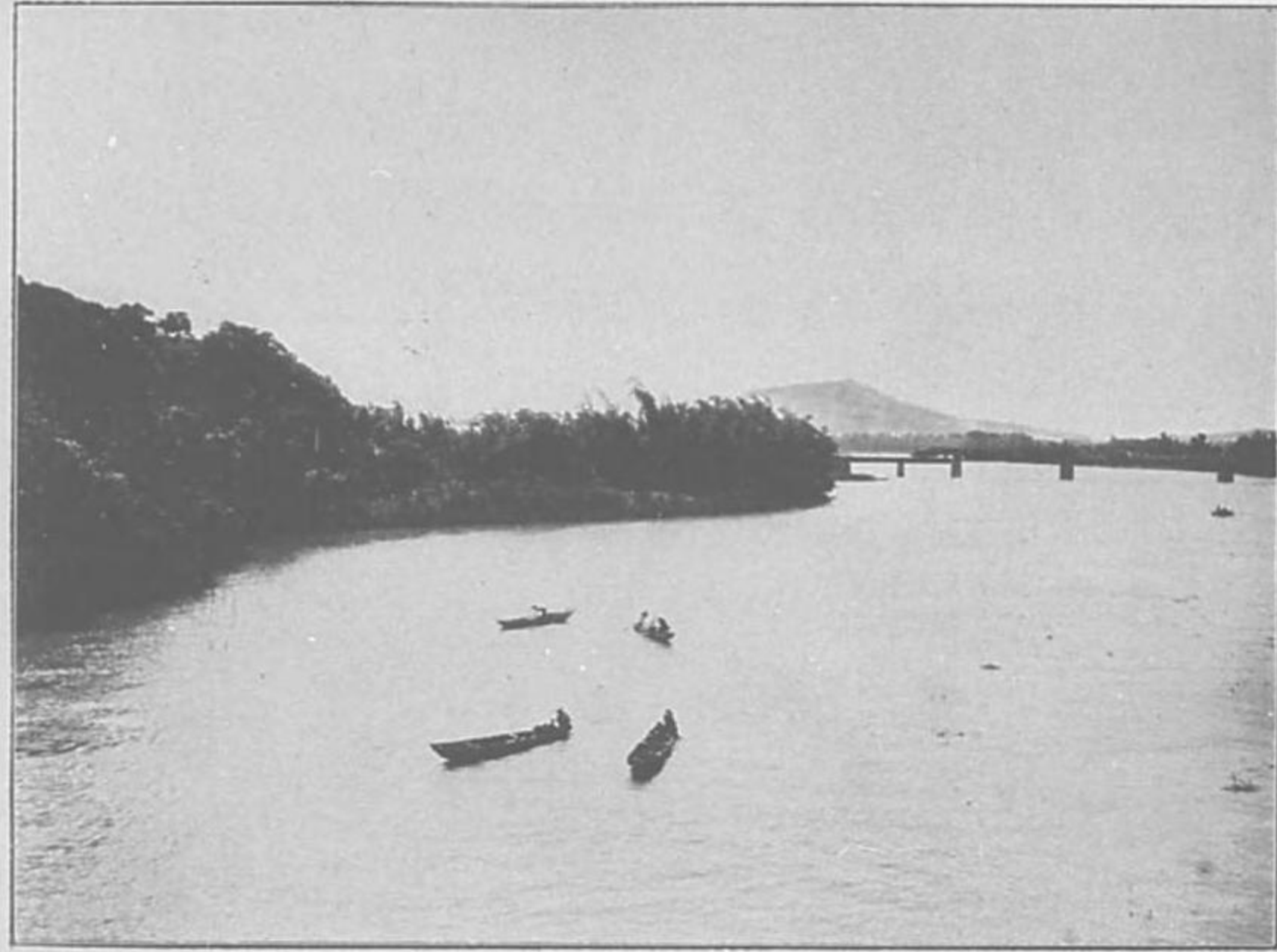
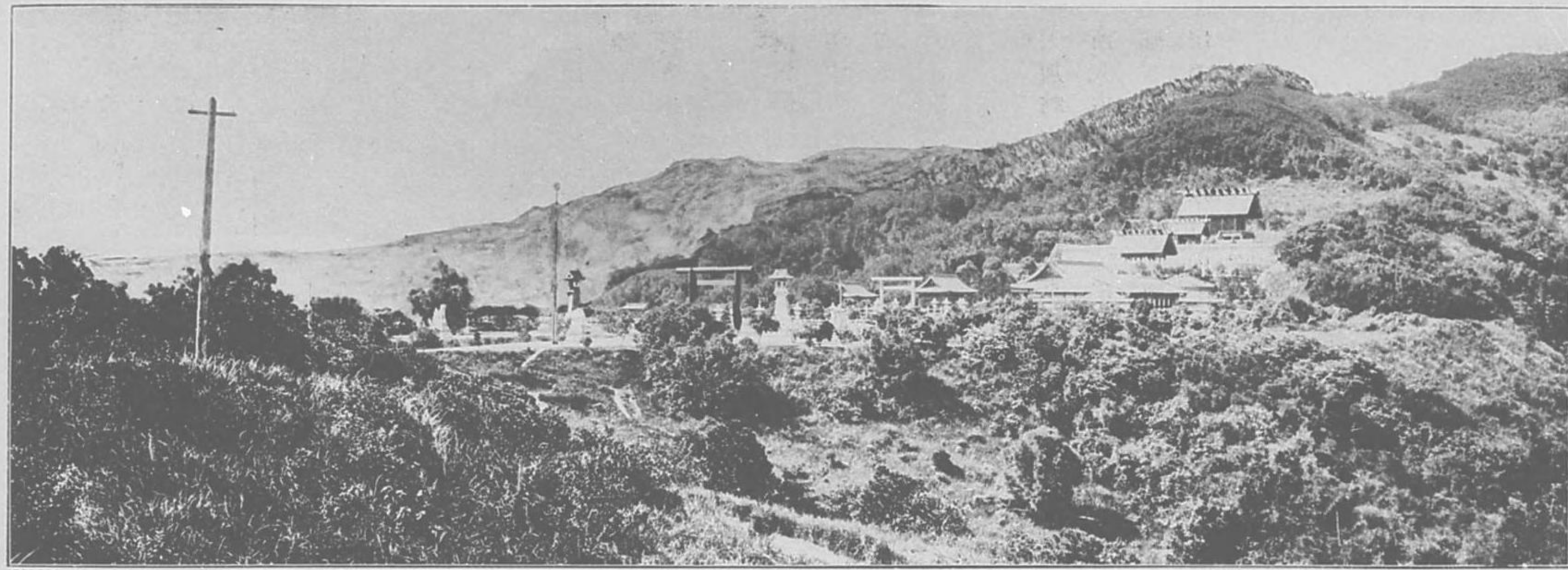
波の上宮に隣接せる古王家の墓地たりし所に在り其地三面海に瀕し斷崖十餘丈巖巖皆も竹筍に似たるを以て此名あり上部は平坦にして香西一面に繁茂し宛然青氈を敷けるか如く下部は斷崖絶壁にして白浪岩角に碎け壯觀言はん方なし

F 御物城址 (同上)

奥武山の西端に在り舊海外貿易の物産を收むる公倉なりしと云ふ創建の年代明ならずとも外廓尚ほ存し上に一酒樓あり風月樓と名づく一望開展四時の眺望管に風月のみに非ず

D	A
E	B
F	C





臺灣

A 臺灣神社 (臺北)

芝蘭一堡大直庄なる劍潭山に在り天國魂命大己貴命少彦名命竝に北白川宮能久親王を合祀し現に官幣大社たり明治三十四年の創建にして毎年十月二十八日に例祭を行ふ

B 明治橋 (岡山)

臺灣神社に通ずる大直山と圓山との間を貫流する基隆川に架設せり明治三十四年十月を以て竣工し九萬一千餘圓を要せり橋梁の長さは三百尺中央を車馬道左右を人道とす欄干には桐葉を鏤め頗る美觀を極む昔時此川より靈劍を得たりと云ひ因て一に劍潭と云ふ

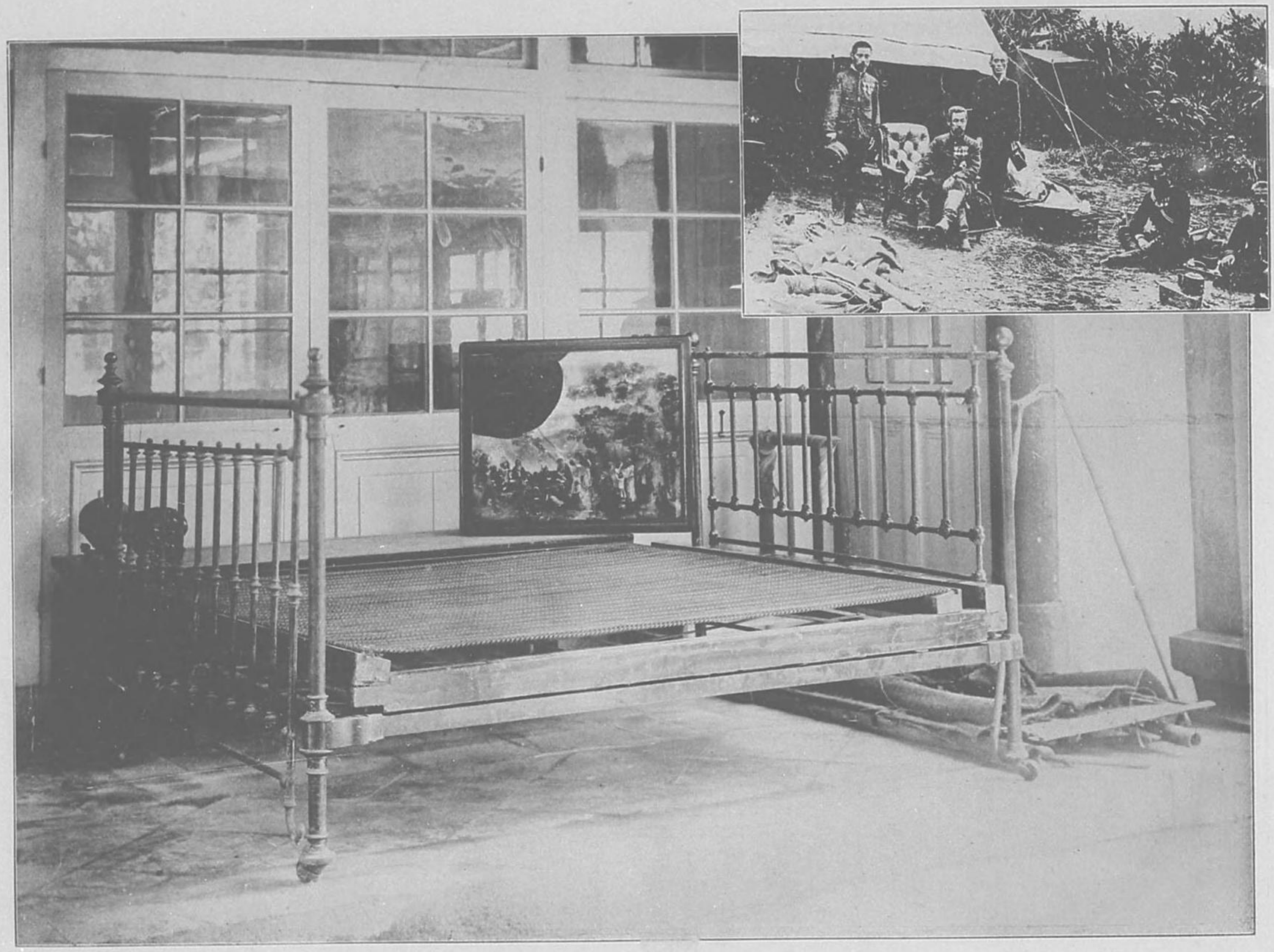
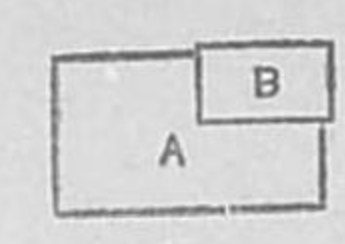
C 圓山公園 (岡山)

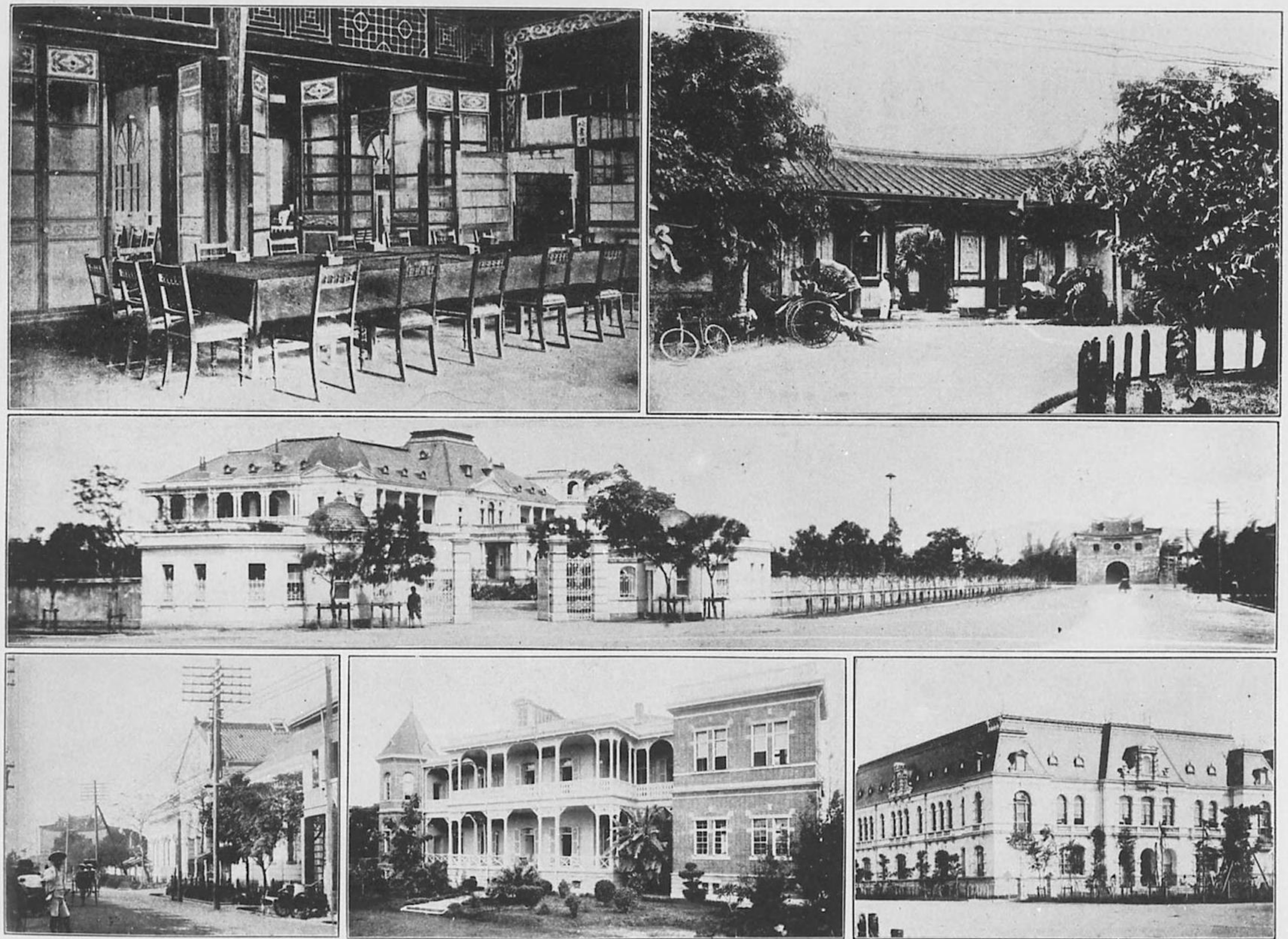
大加納堡山仔脚庄なる基隆溪畔の丘陵に在り地は曩に土豪陳維英の別業ありし所太古巢或は圓山仔と呼べり園内廣闊樹木鬱茂し奇巖其間に起伏して遠望亦甚佳り我領臺後收めて公園となせり丘麓に一寺あり鎮南山臨濟護國禪寺と稱す明治三十二年時の總督兒玉源太郎の建立に係る

A	B
0	B

北白川宮殿下御遺物

殿下の御遺物は御遺跡地たる臺南城内様存林街の神庫中に保存せらる神庫は阿里山中の檜材を用ゐて造營せるものなり初の日清の役能久親王殿下は遼東より臺灣に向はせられ明治二十八年五月基隆を砲撃して御上陸あり臺北に留り給ふこと三四月時に南部方面に於ては土匪黒旗軍なるものを組織し劉永福軍長となりて我に反抗す同年八月殿下は愈々軍を進めて南下し給ふ山根旅團長は山側より川村旅團長は海岸より行行土匪を勦討す當時恰も雨季に入り降雨止む時なく道路泥濘行軍困難を極む且つ氣候の劇變に遇ひ我軍病死者多く土匪の勢亦侮るへからざるものあり將士勇奮大に努め臺南に向つて進軍中山根旅團長先づ風土病に斃れ嘉義に至る頃殿下亦病に罹らせ給ふ然れども軍中供御の輿なし乃ち附近の竹を用ゐて椅を造りて之を附し藤蓆を敷板に代へ上に赤毛布を敷きて擔架を急造し蓆を束ね白布を巻きて御枕に供へ藤蓆を附して昇き奉る殿下御病褥にあらせらるゝも寸時も御職務を離れ給はず擔架上より常に軍を指揮し給ふ之を見聞する將士如何を感奮せざらんや十月二十一日乃木中將東方より先づ臺南に入り翌日高島中將西方より臺南も亦御入城あり土匪蔡氏の家を御旅館ごなじ御加養あらせられしも遂に十月二十八日を以て薨去あらせらる噫竹の園生の尊き御身に於て親しく蕃地に入り給ふさへ畏れ多きことなるに内に病魔の狂ふあり外に兇賊の荒るゝあり千辛萬苦職務を完うして戦地に薨じ給ふ我等臣民豈に甘懐の念に堪ふけんや是に於て御遺物の保存あり國中(A)は御病中臥させ給ひし組造の御寢臺にして其傍にあるは當時御使用の擔架なり(B)は戰爭當時の御肖像にして椅子に凭らせられたるは即ち殿下なり





總督府

臺灣に於ける行政機關の中樞にして明治三十年十月勅令第三百六十二號の官制に據りて設置せらるる現在の建物は舊政府時代の布政使衙門及行臺にして構内甚だ廣しと雖も行政事務官廳としては不便尠ならずを以て現に新築の議あり(Aは總督府前にして(B)は其内部公室なり

C 總督官邸 (同新北門街)  
 明治三十二年起工し三十四年竣工す工費二十一萬七千二百六十餘圓にして構造は煉瓦石材混用の二階建ルネサンス式なり

D 博物館 (同襄陽街)  
 其建物は元總督府彩票局に於て建造したる所にして三十九年起工し四十一年竣工す工費實に十二萬五千圓を要せり工事中偶、彩票を中止するに至りて之を以て遂に之を博物館として使用することとなり

E 民政長官官邸 (同石門街)  
 明治三十三年起工し三十四年竣工す工費五萬九千餘圓にして構造は煉瓦石材混用の二層閣なり臺北公園を隔て、總督官邸と相對す

F 郵便局 (同北門街)  
 一等局にして本島通信機關の中心たり臺灣に於ける郵便事務は二十八年七月臺北に野戰郵便局を開きたるを初めとし二十九年四月郵便令の施行以來漸次發達して今日に及へり

B	A
O	
F	D

A 臺北停車場 (臺北門外)

煉瓦石造の二階造りにして規模宏壯本島第一の停車場たり明治三十四年八月を以て竣工し工費七萬三千餘圓を要せり近年構内を擴張し噴水池を作れり

B 專賣局 (南門外)

阿片、樟腦、食鹽、煙草の四專賣を實施す同局の沿革は二十九年三月製藥所を設置して阿片の製造を開始し三十二年五月鹽務局を置き尋て三十二年六月樟腦局を置き三十四年六月に至り之を統一して專賣局を設置し三十八年三月より煙草專賣を加へたるものなり

C 中學校 (南門街)

舊國語學校の一部として中學校と稱せしか四十年四月獨立して總督府の直轄となり新築せり又高等女學校の附設あり

D 基隆新停車場 (基隆)

直ちに基隆港橋と接し臺灣縱貫鐵道の起點なり

E 鐵道ホテル (臺北門街)

宏大なる建物にして臺北中有數のものなり

F 臺北門街

臺北中最も繁華を極むる街道の一にして街中に郵便局、停車場、鐵道ホテル等あり

G 基隆港

基隆は臺灣の咽喉にして内地交通の關鎖を爲し本島第一の要港たり港口の右側には社寮島あり左口には仙洞の奇巖突出し南方海水の滲入する所即ち内港なり

H 臺北醫院 (臺北)

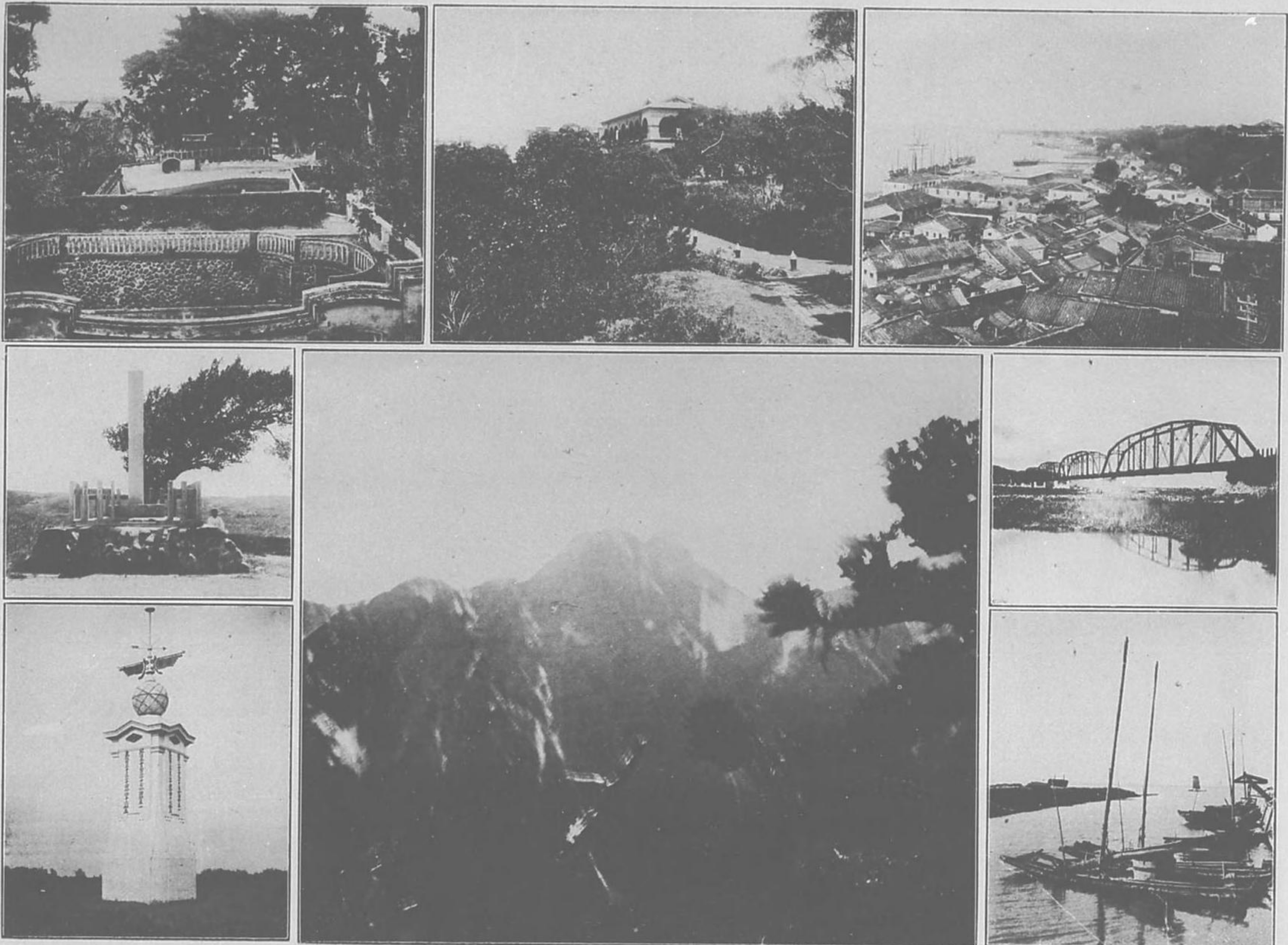
總督府に隸する官立病院にして明治三十年より起工し三十一年七月竣工開院し爾來漸次増築修繕を加へ工費約三十萬圓を要せり病室は九棟にして約二百名の患者を收容するを得へし

I 支那劇場 (同上)

建築の宏大なる彩色の美觀なる正に支那式にして一異彩を放てり

Q	D	A
H	E	B
I	F	C





**A 淡水港**

一名滬尾街と稱し本島重要の對外貿易港にして淡水河口の右岸に在り

**B 濁水**

源を中央山脈に發し郡天、陳有蘭、清水の諸溪流を併せて彰化、斗六の兩縣境界を貫流せる臺灣中部第一の大溪にして一に虎尾溪と稱す鐵橋の延長は二九百十七呎工費約百萬圓臺灣縱貫鐵道全線中最長の橋梁なり

**C 安平港**

一に臺江と稱し臺南の西方約一里餘に在り往時は港口深く現在臺南の市街地附近に灣入し大船巨艦を碇泊するに便なりしも今は港口は全く陸地となり安平の孤嶼と一帯の平地となり船艦は常に海岸を距る約一里の海上に碇泊す

**D 英國領事館 (淡水)**

此地西曆一千六百二十九年西班牙遠征隊の占領する所となり棄城して北部臺灣の經營を企て頗る開發の緒に就きたりしか一千六百四十二年和蘭人と衝突の結果之を放棄したり現に英國領事館は其遺址なり

**E 新高山**

臺灣第一の峻嶺のみならず實に本邦第一の高山なり絶頂は三峯に分れ一を嘉義新高一を臺東新高一を斗六新高と稱す共に海拔一萬三千尺以上にして嘉義新高最も高し往時支那人は之を玉山と稱し歐人は之をモリソン山と稱したりしか領臺の後名を賜ふて新高と稱す

**F 林家庭園 (枋橋街)**

林家は臺灣第一の富豪にして枋橋街の大半は其邸宅なり建築の宏壯なること人目を驚きに足る殊に庭園は佳麗にして支那式の粹を鍾め阿房宮の賦を現實に見るか如し園は即ち庭園の一部なり

**G 枕頭山御遺蹟地**

枕頭山は新竹を距ること約三十丁にあり領臺の後龍久親王殿下の三軍を統て露營し給ひし遺蹟なり

**H 回歸線境界標 (嘉義廳下)**

嘉義鐵道線路側に建設せられたる高標なり圖は北回歸線境界にして北緯二十三度半に當る地點を標するなり

F	D	A
G	E	B
H		C

A 阿里山 (臺東)

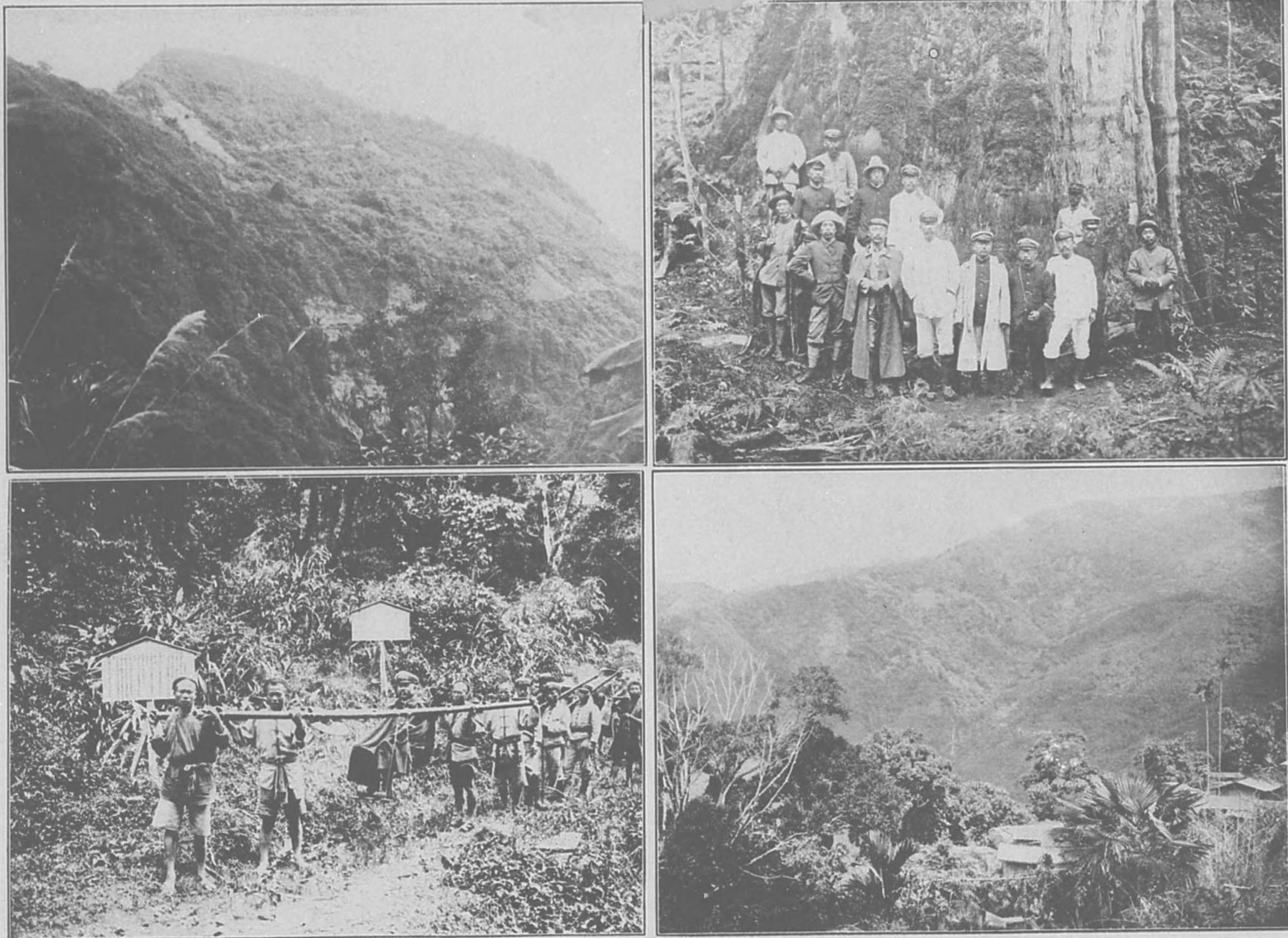
阿里山は新高山の西方に連る山脈の總稱にして所謂阿里山大森林は此山中に在り森林は海拔約四千五百尺乃至八千二百尺の間に於て面積約一萬一千町歩に互り檜の純林を成す樹數僅に二百萬、材積、二千八百萬尺を有す云ひ樹形の完全且美幹を成すこと彼の著名なる木曾山と雖も見る能はざる所に於て其巨大なるものに至りては直徑三開一樹以て八百尺の材積を得るに足るものあり云々臺灣總督府は明治三十六年以來阿里山の伐木事業に關し種種經營する所あり圖中(A)は阿里山神木にして(B)は金獅寮より紅南方面を望み(C)は樟腦寮より見たる獨立山(D)は十字路峠を寫せるものなり

鳳麓飛煙 陳世烈

翱翔千仞集高岡。聲應和鳴兆瑞祥。彩綉霞明滄海碧。光含雪霽暮山蒼。

雲中日出煙騰樹。雨後風清日照篁。縹緲晴嵐生色相。東來紫氣鳳朝陽。

C	A
D	B







**A 鹿港**

(彰化廳)

彰化西方約三里の海岸に在り中部臺灣の輸出入港として對岸廈門、泉州、汕頭との船舶の往來最も頻繁を極め往時は臺灣に於ける一應二應三艇の名あり全島屈指の大市場なりしか近來港口一帶堆砂の爲め淺となり巨船を容るゝに便ならざるに在り市街は所謂「ネル」式の構造にして兩側の屋瓦相接し全く間隔なきを以て市中を通行するに白晝尙は燭を要すへし眞に奇構なり

**B 北白川宮御遺蹟**

(臺南廳林圯港)

邱は舊同地の豪族蔡某の所有家屋にして近衛師團長能久親王殿下臺灣御征討の際旅館に充てられたる遺蹟なり、領臺の後御遺蹟の保存を企畫し神殿を遺棄して當時御使用の遺物を保存す

御靈はも島にとまりて島人の  
あらし心をしめますらん

**C 臺南官邸**

(臺南)

臺南停車場の南通に在り領臺後臺南縣知事官邸として新設したりしか現今總督府の官邸となれり其建築宏壯庭園亦老樹鬱蒼として頗る風趣あり臺南第一の建築物とす

**D 輕便鐵道の螺旋橋**

(同上)

縱貫鐵道の未だ完成せざるや伯公坑、葫蘆墩間は輕便鐵道に依りて本線の聯絡を取り其中間に新店坂と稱する急坂ありスパイラル式の線路を以て之を通せり此線路は

日露戦役に際し敷設せる軍事運成線の一部にして大安溪の南岸より後里庄高臺に至り全長千二百二十一呎橋梁八基延長五百五十一呎六時最曲線半径三十三呎勾配八分一乃至二十分一にして大瀨小瀨を過ぎ遠くを望めば恰も蛟龍の天に昇らんとするの勢あり四十二年五月縱貫鐵道の全通により之を撤去す

**E 打狗**

(鳳山廳下)

臺灣縱貫鐵道の南部終點にして鳳山鐵道の起點たり打狗は後の二山海角に對峙し兩山の迫る所自ら港口を爲し南部臺灣唯一の良港として商船雲集帆檣林立し風光佳絕にして兩岸の市街また繁華なり

**日月潭と丸木船**

(南投廳埔里社)

水社湖又龍潭・龍湖と稱す風景の奇勝を以て聞の其周囲約四里中央に一小丘あり珠仔山と云ふ山の北方は日月潭は月字の形狀を爲せるを以て日月潭の名あり康熙中藍開元遠く此地に遊び紀水沙連の著あり中に其景勝を讚賞せり此地番人の習俗は尙依然として舊慣を脱せず日月潭に浮へる獨木舟は彼等か大古以來用し來れる形式を存して頗る趣味に富なり (F)は日月潭の景にして (G)は丸木船を浮へたる景なり

**H 鷺鷥鼻**

(恒春廳下)

一に南岬と稱す我日本領土の絶南端にして遠く馬且海峡に向て突出せる地角の崖頭に燈臺あり鷺鷥鼻燈臺と云ふ光緒元年清政府の時建設したる所に標高五十九尺燈臺は六角にして不動白色五重心を用ひ光達距離二十浬にして東洋第一と稱す舊砲二門を備ふ

C	B	A
E	H	D
H	G	F

△ 織 機

臺灣には従来紡績織の工業極めて幼稚にして衣服用の綿布の如きは多く之を對岸福州の輸入に仰ぎ居れるか獨り婦人の躡足に使用する白脚と稱する細帯狀の細長き布片は之を簡短なる織物機械を以て織れり

B 阿片吸煙

阿片を吸煙するは概ね七八歳より始む一度吸煙の習慣に染まれば終身之を止むること能はず終に癮症に陥り構むべき廢人となり終るを常とす之を吸ふ者は大抵肉落ち骨高く顔色土の如く一旦其健康體にあらざるを知る

演 戲

臺灣の寺廟は多く儒佛道三教の混淆にて其祭典は概ね神駕を昇き金銀紙を焚き爆竹を鳴らし佳味珍羞を堆く供へ彩燈、水灯を點し演戲、人形演戲等を演ず 圖中(C)は美

聚せる少女を閉台に載せ昇き歩く様にて(D)は異形の列なり

E 轎

臺灣にては竹輿を轎と稱す其内地の籠と同じく村落山間を旅行するに唯一の機關なり其構造は全部竹と藤とを用ひ四方に窓あり前面より乗降す

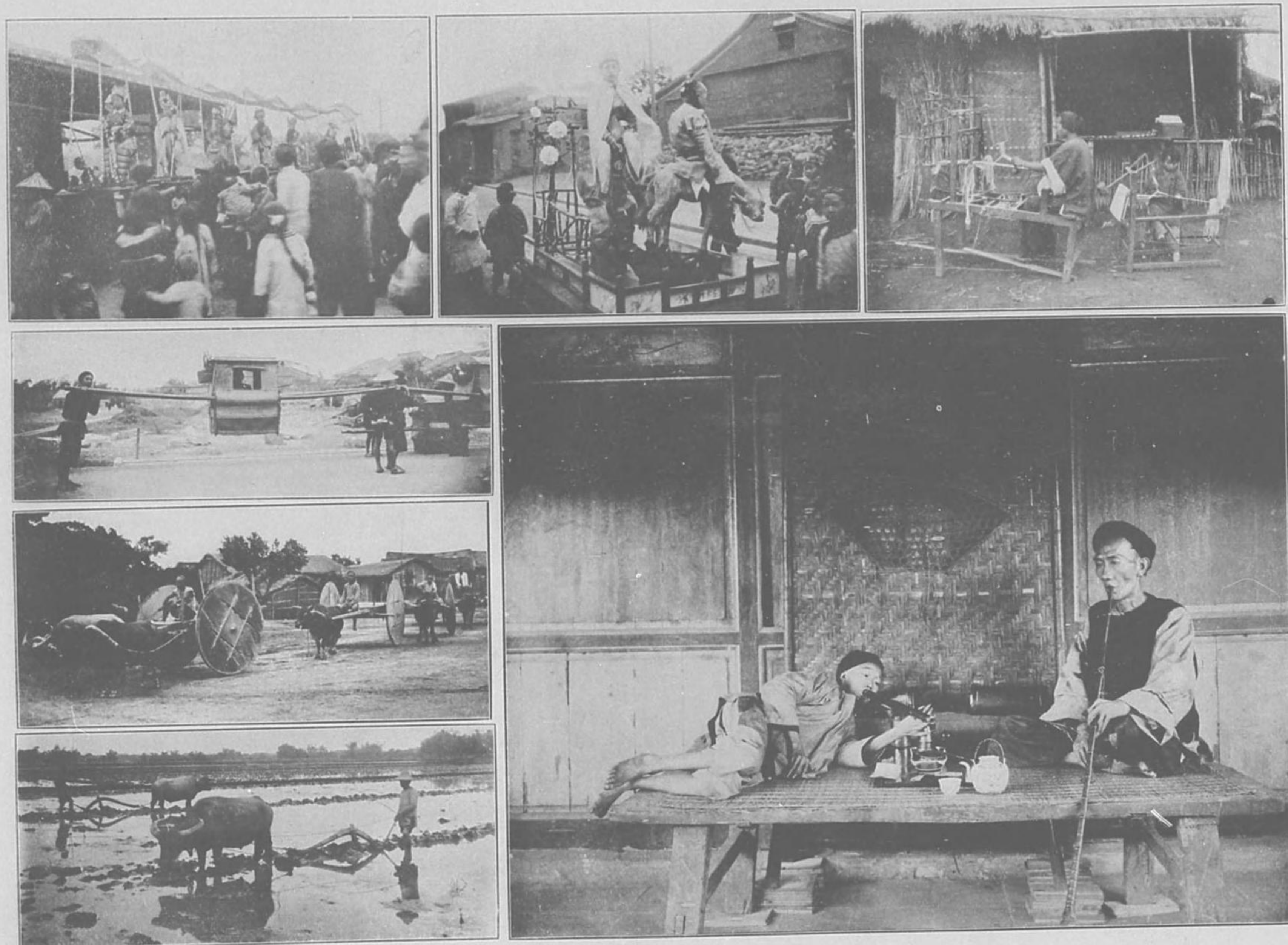
F 牛 車

極めて頑固なる木製の二輪車にして車輪は極の厚板を以て之を造り水牛を役使して之を曳かしむ

G 耕 作

臺灣の水田は全島の平地に於ける殆んど全面積を占め之か灌溉は多く車引に依れり耕作には水牛を役使し植付の後も一定の除草を爲す

D	O	A
E		B
F		
G		



山口縣



A 臺灣蕃人の機織

生蕃人は機械的工業は殆んど之れを解せざれども唯簡單なる織物機械を以て一種の蕃布を織り以て防寒装飾の用に供す蕃布は細き通の如き麻絲を以て海を編むか如くにして織る幅一尺五寸長さ一間乃至一間位の極めて粗製なるものなり圖はアタイヤル蕃の機織なり

B アタイヤル蕃

一に北蕃と稱し蕃族中最も兇猛にして殺人饒首を本分とす男子は額及頬に短直線の刺墨を爲し女子は額及耳下に細狀線より成れる刺墨を施せり男女自ら配遇を求めて結婚するも二男同時に一女を娶らんとする時は異族人を饒首して持來れるの早き者之れを榮るを常とする風あり圖中Bはアタイヤル蕃人男子の風俗にしてCは同女子の風俗なり

D 霧社蕃人

圖は明治三十六年卓萬蕃人が霧社蕃人百四名を殺害し其首級を携へて埔里社支廳に來れる光景なり

アミス蕃

臺東縣の平地蕃人にして各蕃族中頗る長大にして且つ最も進歩せる種族なり故に子弟の公學校に教育を受くるもの夥なからず尙進んで高等の學術を修むるものあり隣接部落をなして刺墨狀の風習なく只耳朶に孔を穿ち耳飾を嵌入するのみ(E)は臺東パラン社分教場に於ける生徒にして(F)は花蓮港方面なる臺灣社の蕃族なり

G 首 棚

蕃人の多くは異族人種の頭顱を饒首し其數の多きを以て勇者の標識となす故に眞・出草して首級を飾り新舊の頭顱を並べて首棚に陳列す首首の最も盛んなるはアタイヤル蕃にして時に一壘三四十級を饒首することあり凱旋の後祝宴を開き蕃歌を歌ふを例とせり

H ツアリセン蕃の住宅

ツアリセン族は蕃屬蕃阿蘇・臺東の三縣下に住し家族制の一步を進め村族制にして土目は血統上の子孫繼承す家は多くは土造にして僅に風雨を避くるに過ぎず比較的構造に意を用ゐたるは彼の首棚と骨堂とのみなり

D	C	B	A
G	E		
H			

A ウオヌム族蕃人 (臺東)

璞石閣タヒラノ關上流のソキノ社なるウオヌム族蕃人の住居及び其風俗なり

B アタイヤル族蕃人

木瓜蕃社のアタイヤル族蕃人の風俗なり

C 籐の釣橋 (臺東)

ウオヌム族蕃人が深淵に架したる籐の釣橋にして彼等も時に此の技工を爲すことあり。

D ウオヌム族

南投斗六蕃寮臺東の四廳下に棲み人口約一萬四千あり概ね山腹に占居し蕃族中最高地に棲み殺ハ賊首の舊態を持續せり生業は農耕にして山地を新墾し地味衰ふれよ去て更に新なる土地を墾す(D)はウオヌム族蕃人の風俗(E)は其住居竝に小兒の風俗なり

B	A
E	C





A 檳榔樹林

檳榔樹は棕櫚科に屬する熱帶植物にして南部臺灣殊に嘉義地方の村落到る所に栽培して森林を爲す所多し直幹亭亭として高さ三四十尺毫も屈曲せず又一枝を生せず四時綠葉を戴き頗る風趣に富めり材は粗糖にして加工するに便ならずと雖も直幹にして強靱なるを以て建築材として之を使用するものあり

B 波羅密樹

元來印度地方の産にして臺灣には極めて稀なれども蕃薯寮廳管内新尾庄に一老樹あり往昔閩人其種子を傳ふと云ふ(B)は波羅密樹にして(C)は其果實なり

D パナナ

芭蕉の實は終年絶えず成熟し黄色を帯ひ味甘美なり土語之を香蕉芭蕉牙蕉甘蔗等と稱す

E 胡蝶蘭

一に風蘭と稱す其花白色にして形態恰も胡蝶の舞ふか如きを以て此名あり主として臺灣の南端恒春紅頭嶼等に産す

C	B	A
E	D	

A 福山城址

(渡島松前郡福山町)

城は慶長十六年松前重直の築く所にして市街北方の高地を占む城地廣袤二萬坪往時は巍然として壯觀を呈せしか今は幾かに樓閣遺蹟の存するあるのみ城址に松城小學校あり會て鶴鳴馬蹄を聞きし所、今春半晴の聲となれり近年松前神社を建立して舊藩祖を祭祀す

B 函館八幡宮

(函館市)

松前藩政の時崇敬最も厚く其後箱館奉行の祈願所たり明治十年國幣小社に列し二十九年國幣中社に昇格せり茂林社頭を繞り風景頗る佳なり

C 大沼公園

(渡島茅渚郡軍用村)

村の西境に在り沼は南方の小沼と水道相通して周囲八里餘、其形孤の如く地頭を「バット」と稱し茲に鐵橋を架して汽車を通す中に百四十餘の島嶼三十二の灣あり東北には駒ヶ嶽の雄姿望むべく天然の景に加ふるに人工の妙を以てし風光明媚仙境に入るの感あり園内に大山東郷兩大將の銅像あり爲めに一段の光采を添ふ

D 五稜郭

(函館市)

蘭學者武田成章の設計に成る安政四年起工元治元年竣工す箱館奉行の治所たり明治元年箱館府廳を此に置く維新の役徳川の脱徒之に據りて官軍に抗せしは人の知る所なり五年廳舎を毀ち空郭を存す圖は郭の現状なり

E 函館公園

(同上)

明治七年新設し十一年官民協力修築を加ふ眼界廣闊風光絶佳なり園内に水産陳列場圖書館あり

F 碧血碑

(同上)

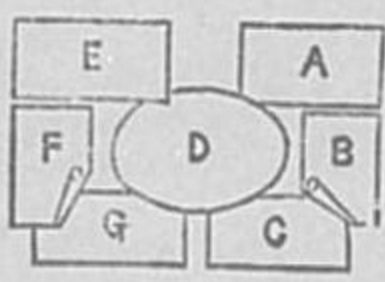
函館市街の南端公園内に在り、明治維新の際五稜郭の激戦に於て戦死したる東軍將士の爲めに建設したる記念標にして、官軍の招魂祠と共に長く行客の涙を誘ふ

展碧血碑 子爵 榎本武憲 義勇忠肝不可移 孤城奮闘擲生時 秋風蕭瑟黃昏雨 昔冷除瘴碧血碑

G 連絡棧橋

(同上)

本州と北海道との鐵道連絡汽船に便する爲め建設せしものにして函館港内に在り橋下水深く自由に船隻を駛留せしむるを得



欠

# 欠

## 北海道

### A 後方羊蹄山

(後志國虻田郡) 俱知安驛より東南二里二十五丁

死火山にして蝦夷名「マツカリヌブリ」と云ふ美麗なる圓錐狀をなすを以て又蝦夷富士と稱す海拔六千二百二十九尺實に本道の名山たり

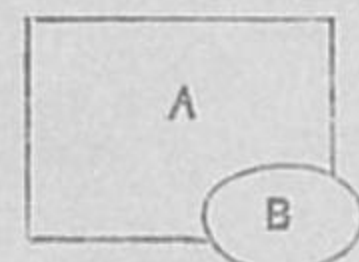
### 三條相國

あつま路の富士の姿に似たる哉雲に聳ゆるしりへこの山

### B 利尻山

(北見國利尻島)

島の中央に屹立する死火山にして海拔五千七百四十八尺山頂四時白雪を戴く其形圓錐狀を爲し美麗なるを以て又北見富士の稱あり



A 東北帝國大學農科大學 (札幌區)

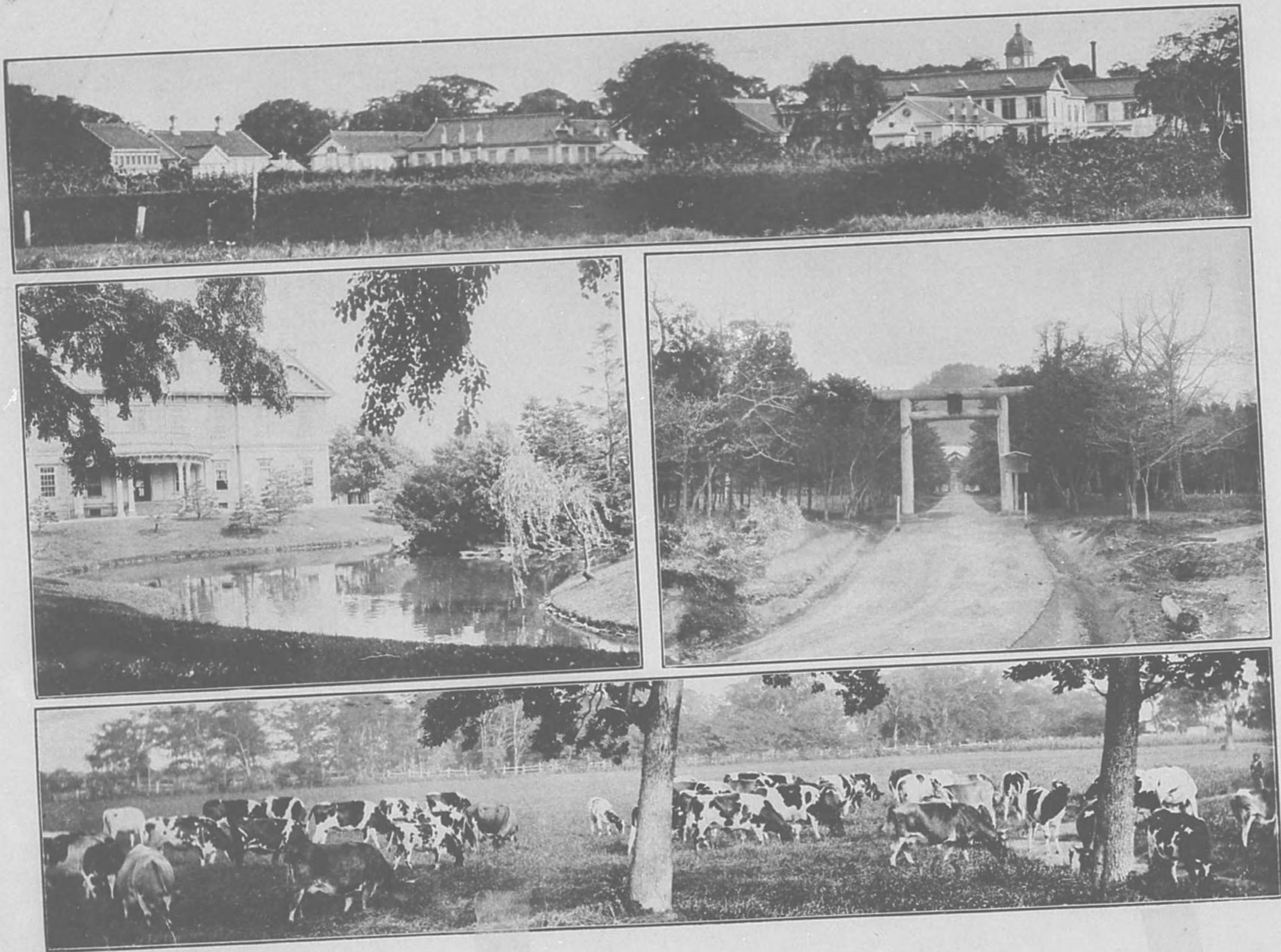
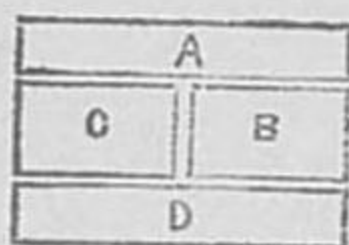
北八條に在り初の札幌農學校と稱し明治五年四月開拓使に於て東京に設立し八年八月札幌に移す四十二年六月組織を變更し今の名に改む本科卒業者のみを擧るも既に五百餘名に達し本道の拓殖に貢獻せること鮮からず圖中(A)は大學全景にして(D)は附屬牧場なり

B 札幌神社 (石狩國札幌郡山手札幌驛ヨリ西約一里)

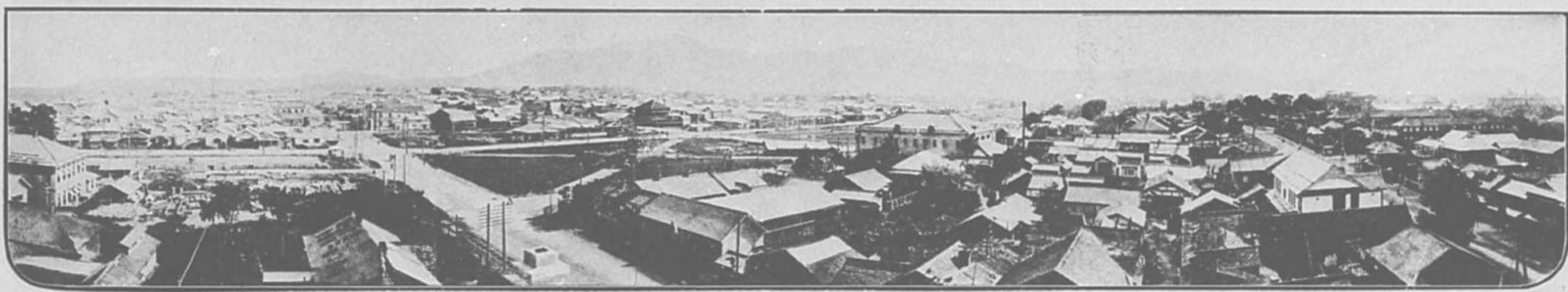
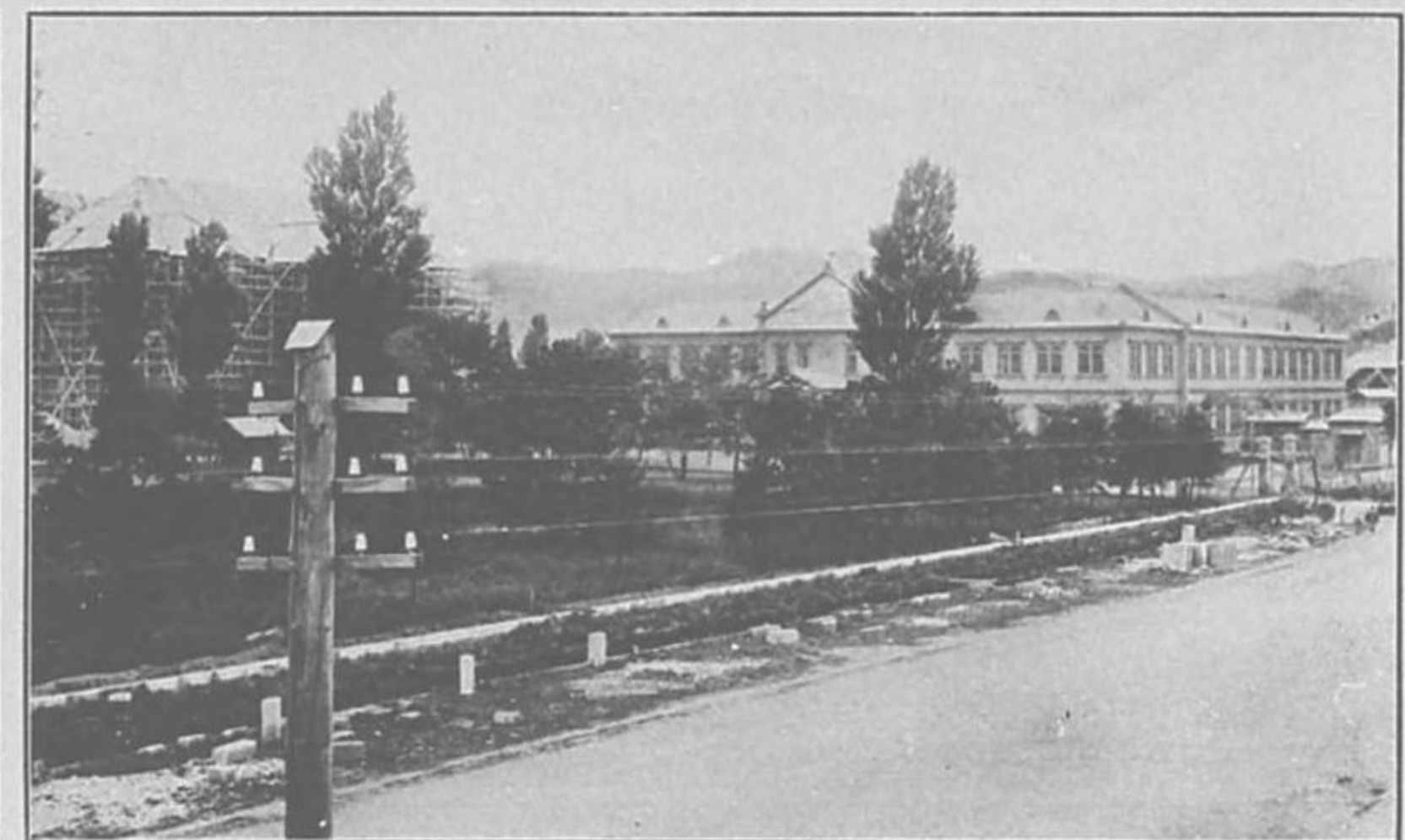
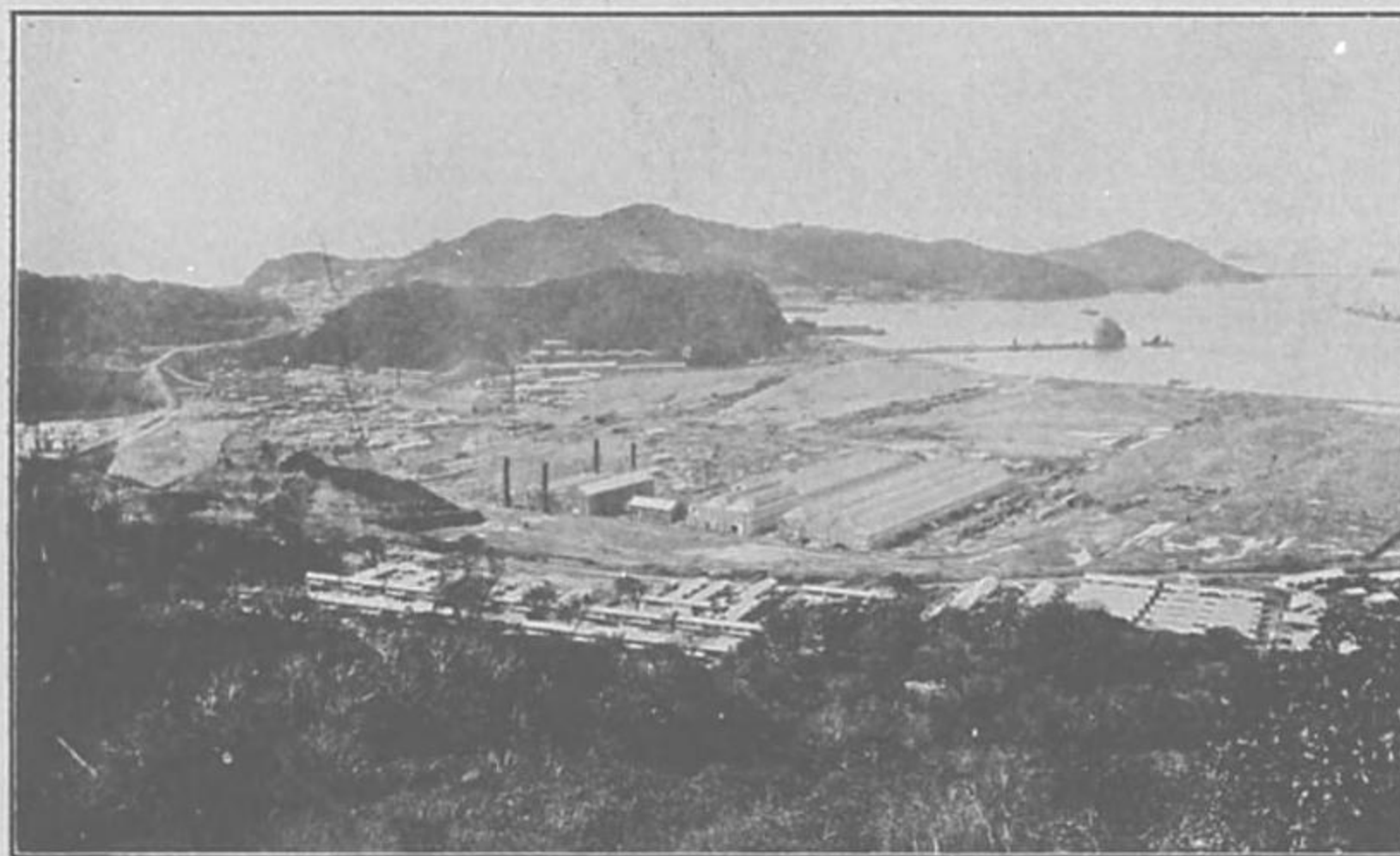
大國魂命 大日貴命、少彥名命を祀る明治二年九月 今上陛下の御宣命を以て神祇官に於て鎮座式祭典を執行せられ神鏡幣物を札幌に遷し假殿を建て奉祀し四年現地に遷坐し五年官幣小社に列し二十年官幣中社に三十二年官幣大社に昇格せらる

C 豊平館 (札幌區)

明治十三年開拓使に於て建築し十四年八月落成す其構造は壯麗なる二層洋館にして建坪二百十五坪餘床下は總て石室なり構内三千六百坪、庭に池を鑿り山を築く明治十四年 聖駕行幸の際行在所に充てらる後御料局の所管に移る明治十四年九月 東宮行啓の時亦御旅館に充てらる







北海道

A 小樽港全景 (小樽港)

小樽は明治元年戸數四百四十四を有。一漁村に過ぎざりしか開拓使設置以來漸次發達し今や戸數一萬六千餘人口九萬二千餘に達せり本道西北海道地方釧路大釧路原野の貨物を集散するに樺太來往の要津なるに由。商業繁盛を致せり區役所税關支署高等商業學校其他諸學校商業會議所木材會社等あり

B 北海道廳 (札幌廳)

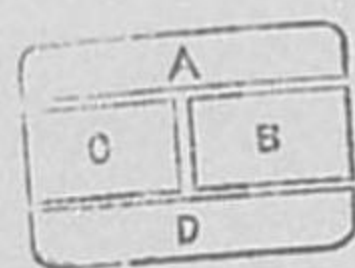
明治十九年新築に着手し二十二年落成す煉瓦石造建坪五百五十一坪餘床下共二階二十五室あり。頂上八角塔を設く高さ百八尺六寸二十九塔を撤す四十二年一月火災に罹り燒燬す八月構内に町事務室を新設す本圖は即ち是なり本廳舎は現時修理中にして左方に見るもの即ち是なり

C 室蘭港 (廳機關署圖部)

明治五六年の交函館札幌間の道路を開鑿するに方り始めて此地を開き埠頭を築く二十五年鐵道開通してより更に樞要の地となり石炭木材等の輸出多し室蘭支廳稅關支署日本製鋼所等あり近年の發展殊に顯著なり

D 札幌市街

明治二年本道の首府を此地に定め同年冬開拓判官島義勇來。て地を相し官舎を建設す同三年判官岩村通俊之に代り四年市街を劃し商賈を移し經營頗る力の附後年年來住者を増し今や人口八萬有餘に達せり



A 移住民上陸

移民の小樽港に上陸したる光景にして左方の建物は移民  
休養所なり

B 移住民入地

未開地に於て新來の移民に對し吏員が開墾衛生等に關す  
る條項を説示する實況なり

C 小屋掛

移民到着して笹小屋を構へ居所を造る實況なり

D 原野測量 其一

土地測量準備として先づ見透し線の際草木を伐倒し測線  
を定むる所なり

E 原野測量 其二

測線列分の後トランシットを以て測量する所なり

F 標杭埋設

殖民地に區畫を量定したる後線路の交叉點に番號を記せ  
る標杭を埋設したる所なり

G 殖民地開墾 其一

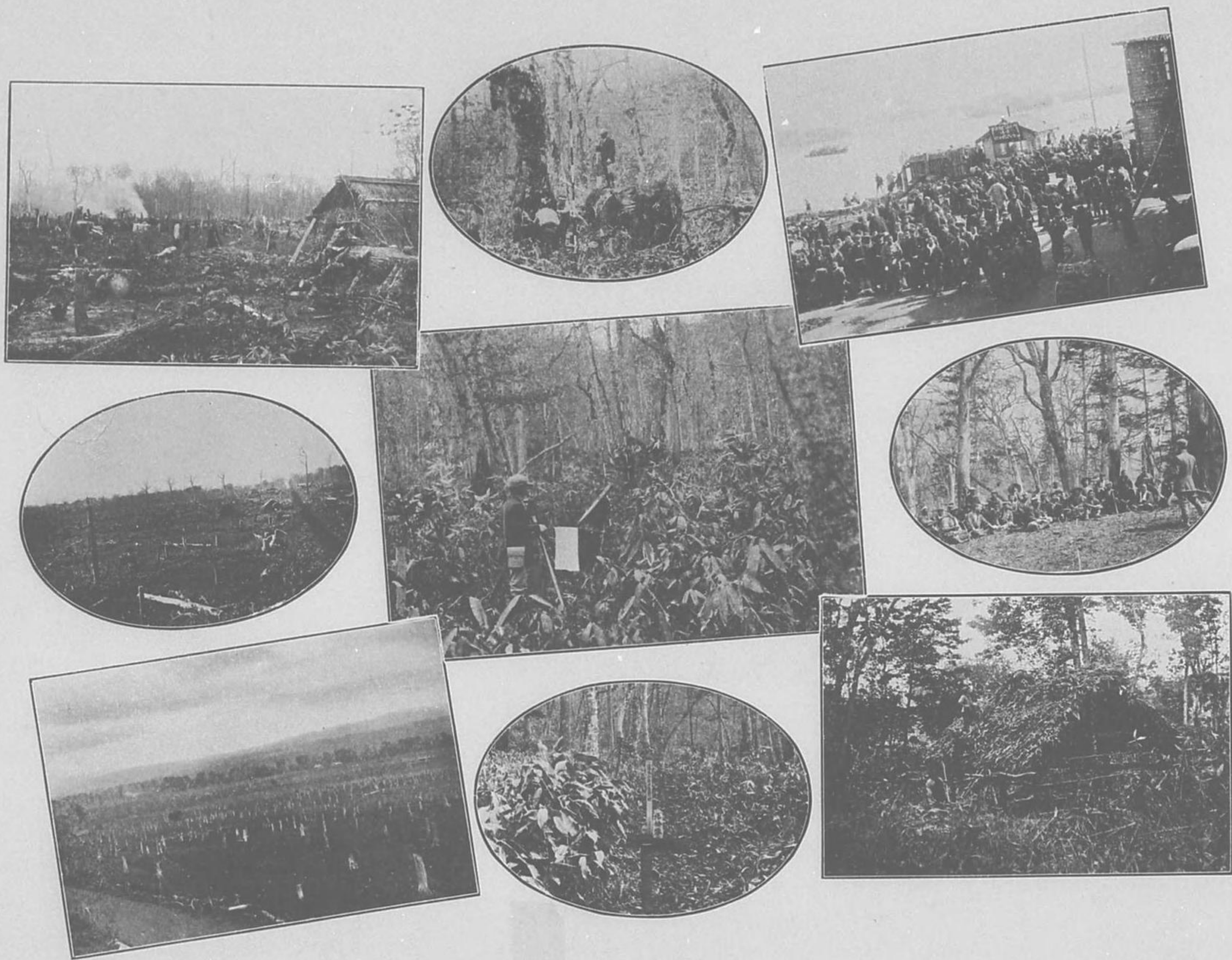
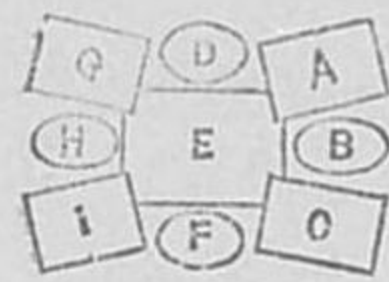
樹木を伐倒し枝葉を焼き拂ひ開墾に著手する景況なり

H 殖民地開墾 其二

既に耕地となるも伐倒せし大樹の幹尙ほ畑中に横はれる  
を示せる所なり

I 殖民地開墾 其三

倒幹を除きたる實況なり是より伐株を避け馬耕をなすを  
得へし





北海道

神居古潭

(石狩国上川郡)

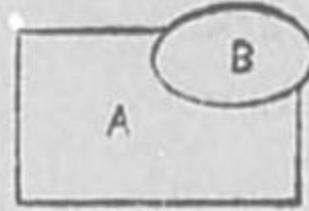
石狩平野より上川平野に通ずる隘峽にある勝地にして左右山迫り  
 石狩川其間を奔流し此に匯して一大深淵を成す奇石怪巖竝峙して  
 風景の勝言ふへからす樹木は針葉闊葉相交り春は山櫻亂開し夏は  
 濃翠滴らんとし秋は紅葉錦を飾り冬は青松雪に傲る四季共に佳な  
 らざるなし

A 北海道廳種畜場畜牛の放牧

現時牛數百八十頭許にして其種類は「エアンヤア」「シヨルトホルン」及び兩種の雜種なり此圖は秋季牧草を刈りたる跡に乳牛を放牧したる所にして朝夕二回其舎に收容して搾乳し其分泌量多きものは特に朝晝夕の三回搾乳す

B 新冠御料地牧場 (日高國新冠郡)

牧場地域内に消夏臺納涼所觀農臺等建築せられ 皇太子殿下の御旅館たりし建物は事務所構内にあり三層樓にして最も宏麗なり静内村下方市街より三里餘市父部落より半里電話の設けあり御料牧場水田地は觀農臺下市父村にあり地味肥沃にして水田に適し稻禾善く成熟す



▲ 有珠 嶽

（膽振國有珠郡）

噴火山にして南は噴火灣に面し北は洞爺湖に枕む山容突兀草木なく山嶺火口原上に小有珠岳あり大  
有珠岳と相對す海拔千九百六十四尺、寛文三年七月より五回大噴火あり天地震動石を飛し壘を降ら  
し人畜死傷し頗る慘憺を極む圖は明治四十三年七月噴火後八月三日の實景なり

▲ 十勝 岳

上川平野の南方に聳え石狩國上川空知の二郡、十勝國上川郡の間に位し海拔五千九百八十尺、山頂硫  
氣噴出し温泉あり硫黄蘚あり明治四十三年の硫黄産額二十九萬二千六百餘斤なりといふ

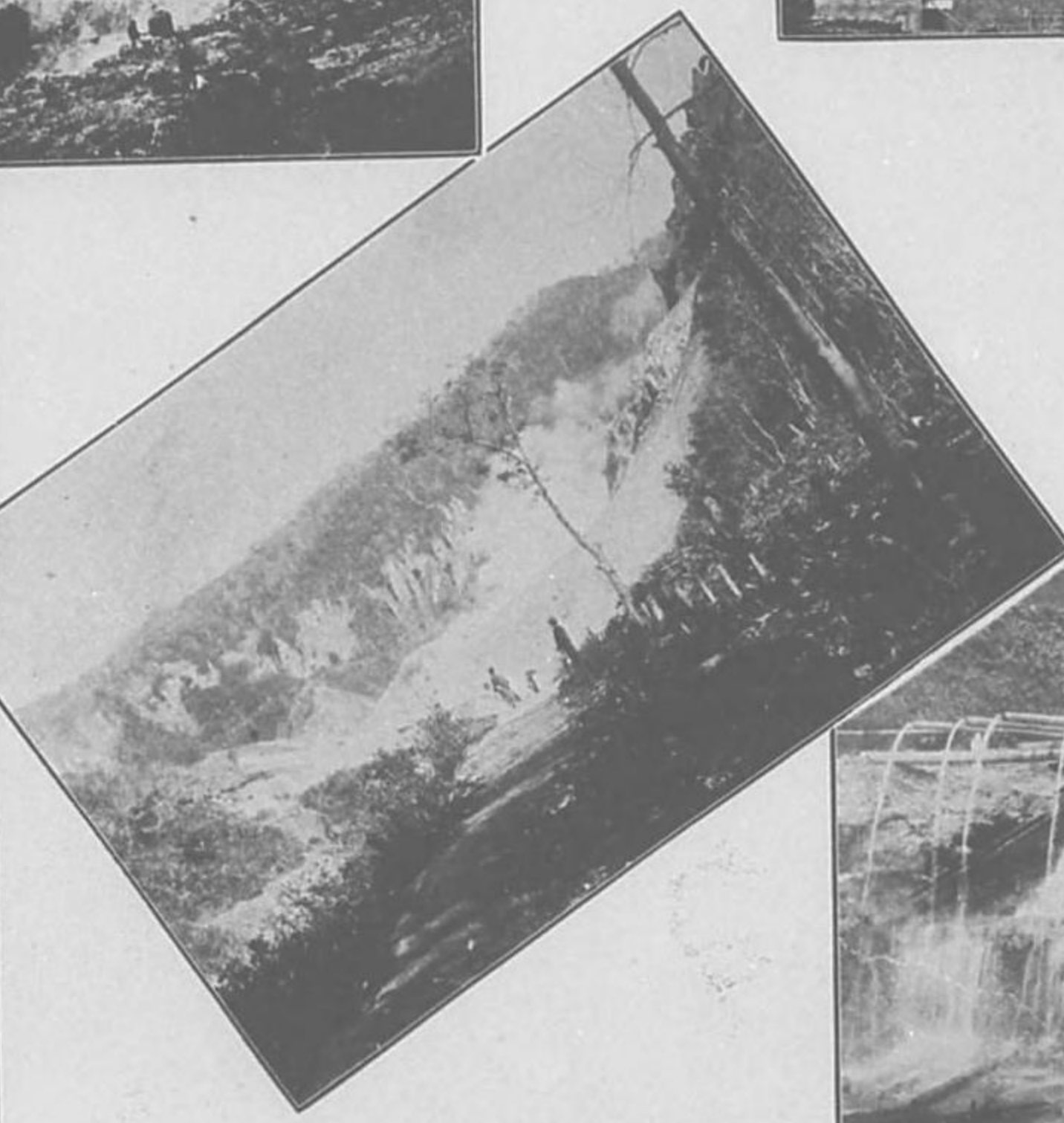
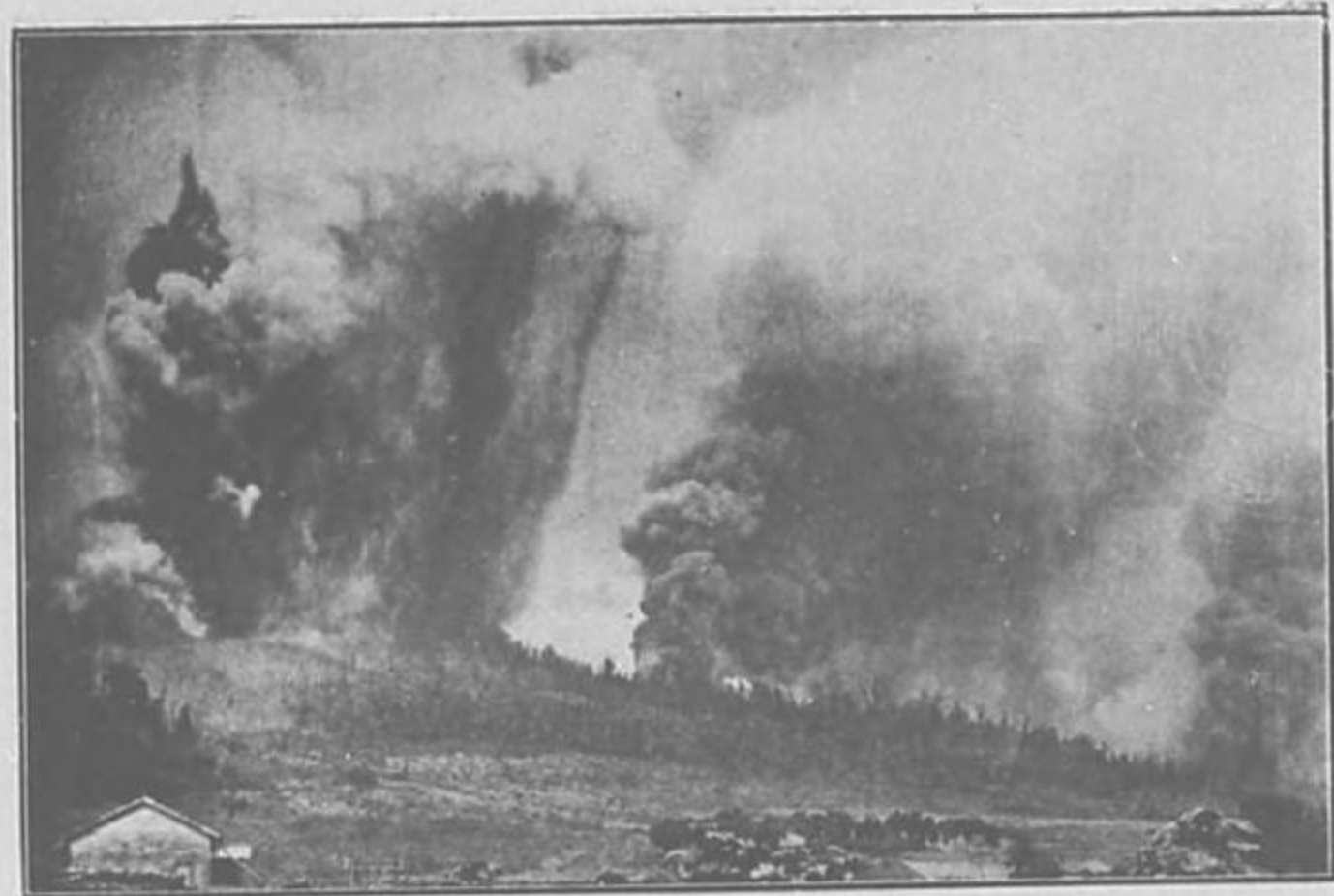
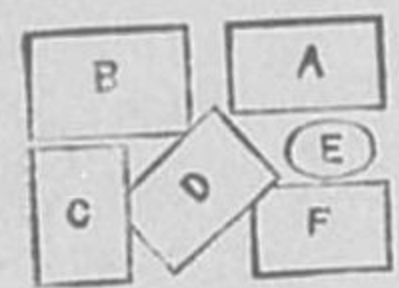
▲ 樽前 山

勇拂郡の西にあり海拔三千三百餘尺、山嶺常に蒸氣を噴騰し時として爆發す本圖は明治四十二年三  
月三十日爆發の光景なり

▲ 登別 温泉

（膽振國磯谷郡） 登別驛より西北一里二十八丁

登別川の支流寒川の上にて硫黄蘚にして溫度百二十五度崖上に浴舎を建つ崖下は溪流にして水清  
冽なり附近の風景亦掬すへきありあり(B)は同山の湯沼にして(D)は湯淵(D)は其の湯元なり



樺太

A 樺太守備隊司令部 (豊原支隊管内)

豊原市街の北端に在り、守備隊兵營及び衛戍病院等當其附近に散在せり。

B 泊居市街 (豊原支隊管内)

野田峯の北九里半久春内の南七里半に在る一市街にして泊居河口に位し漁場として頗る形勝の地たり沿海航行船の寄港する所にして大泊より百九十四里北名好へ百六里を距つ。

C 大泊市街 (大泊支隊管内)

舊時のコルサコフとボロアントマリとを合して總稱したるものにして前面は亞庭灣に臨み道路井然として規模頗る壯大なり明治四十一年樺太本廳及び諸官衙を豊原に移してより市況稍衰ふと雖も尙ほ大泊支隊、學校、病院、測候所等ありて南部樺太第一の都邑たり。

D 樺太神社 (豊原支隊管内)

豊原市街の東方、山腹を開きて新築したるものにして官幣大社なり社殿壯麗、同島の木材を以て築造し華表の下に立ては豊原全市街は一時に集中し風光雄大、地勢殆も京都に彷彿として較其面目を大にせるか如き觀あり。

E 豊原尋常高等小學校 (同上)

豊原市街の西部豊原停車場に近き所に在り明治二十九年

の開校にして樺太第二尋常高等小學校と稱す

F 鐵道

豊原と大泊との間に敷設せらるものにして、兩地間の距離二十六哩、約二時間に於て到達するを得へし。

G 樺太廳 (豊原支隊管内)

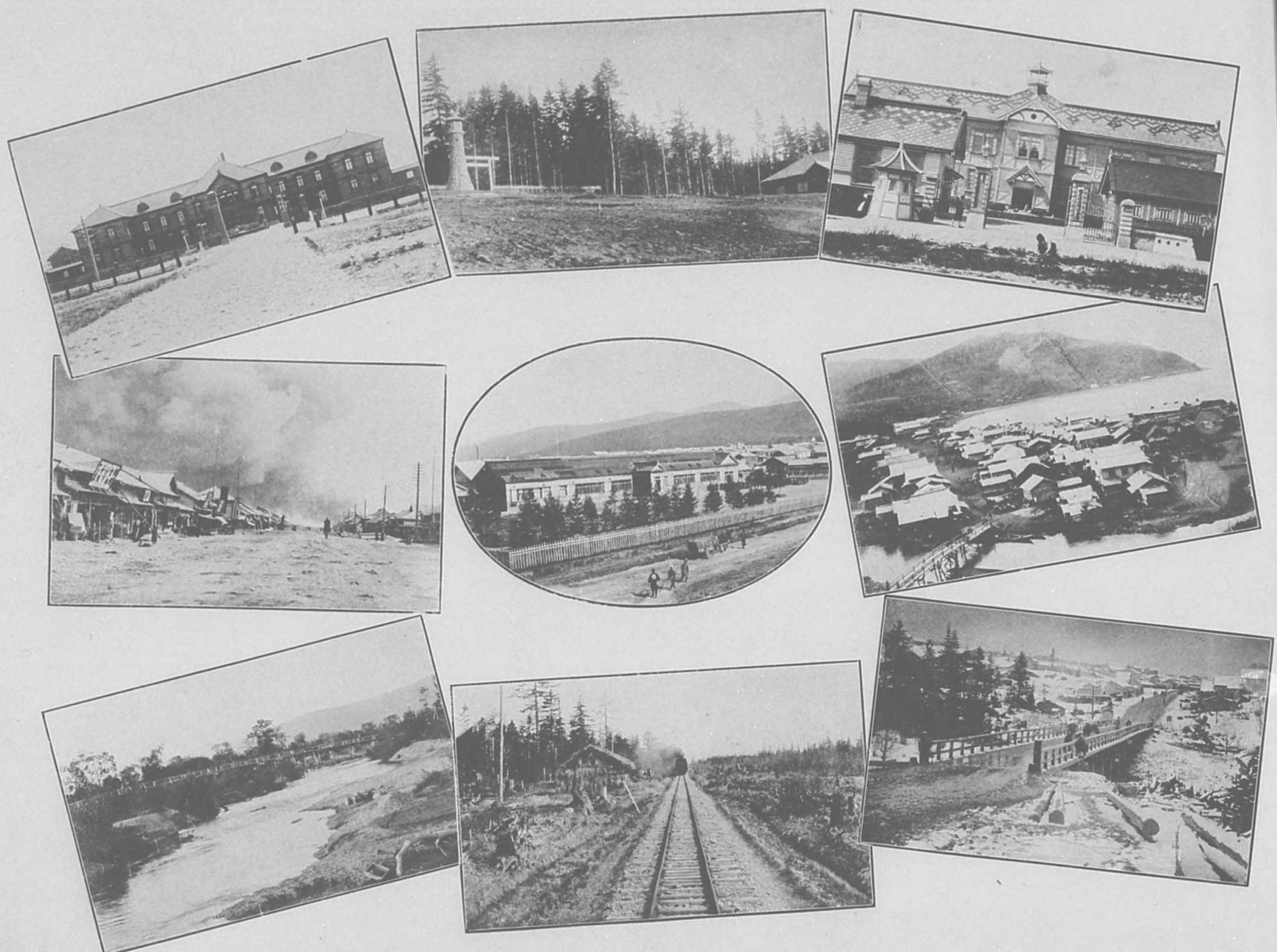
樺太廳は同島唯一の行政機關にして明治四十一年八月大泊より此處に移轉せしものなり初めは樺太民政署と稱せしか明治四十年四月樺太廳官制に依り今の組織に改め豊原、大泊、豊岡、敷香、名好の五箇所に支廳を設け全廳下六萬餘の人民を統轄せり。

H 豊原郊外の山火事 (同上)

樺太の林野は我國の管轄に屬せざる以前に於ては斧斤會て入らざる其養生に任せ且つ人の交通も亦極めて稀なるを以て一度發火すれば自然消滅に至るを待つの外、策なきを以て往往火勢猛威を逞うし延焼數里に及ること少なからず圖は豊原市街より郊外に於ける山火事の状況を寫せしものなり。

I 鈴谷川の架橋 (同上)

豊原市街の北方鈴谷川に架したるものにして西大橋の上流に在り三十七八年我軍の占領前露人の架設に係る





樺太

A 熊 祭

アイヌ人行事中の盛儀なり一家の慶事に於て飼養せる熊を殺し盛宴を設く而して其頭骨は楯垣の間に立つるを例とし其頭数の多きは即ち其慶事の盛なるを表するものなるを以て一家の名譽とす其數多きは三十箇に及ぶものあり

ギリヤーク土人と馴鹿

ギリヤーク人種は近古より樺太に居住せし土人の種族にして又露領沿海州黒龍江邊一帶の地に住せり冬季交通の機關として大槓又は此馴鹿をして橇を曳かしめ或は其肉を食用に供し皮を著衣に製するを以て極めて貴重な家畜として飼養せり(甲)は土人が馴鹿を飼養する状態を示し(乙)は馴鹿の群居せる様にて(丙)は馴鹿の偉大なる頭角を有するを示せるなり

C 露人の住宅と農具

露國農民の住宅は此の如く木材の丸太を横に重積して建築するを常とす而して其前方に亂置せるは其使用する農具の一部を置せるものなり

D 樺太アイヌ

樺太アイヌ種族の容姿を寫せるものなり

G 眞 岡

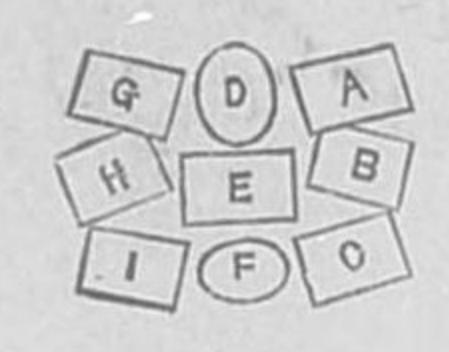
西海岸に於ける樺太唯一の不凍港にして背而嶺谷の山脈を負ひ前は灣に日本海に枕み港灣深からすと雖も暖流廣く湧來し終年結氷を見ざるを以て樺太冬季の交通は多く此港による夏季亦漁業權にして市街常に繁盛せり

H 臍臍と山猫

樺太沿海及び海狗島に多く棲息する臍臍並に山猫を寫せるものにして臍臍は其多數群集する時は一時に二三千頭を認むることあり又山猫は本邦普通の種類と異り體軀巨大性悍猛にして人畜を害し容易に之れに近づく能はずと云ふ

I 大泊上水運搬

大泊は樺太有数の都會なり然れども其海灣に臨みて善良なる飲料水に乏しきを以て嚴冬に際しては同地唯一の機關たる大を使用中にして橇を曳かしめて上水を運搬するを常とす然れば同地方に於ける大か如何に有利に使用せられ又愛養せらるゝかを推知するに足るべし



A 鯧 擄 網 漁

鯧は産卵期に於て大群を成し海岸淺き所に寄る此際漁民は擄網を持ち海中に入りて之を漁獲するなり

B 鯧 粕 製 造

鯧は主に身鮓に製し若くは搾粕に供す搾粕の製法は先づ釜に水を入れて沸騰せしめ然る後生鯧を釜中に入れ煮ること一時乃至二時間にし之を搗ひ上げ搾粕に入れ其上に蓋を蔽ひ厨枕を置き鯧を搾製置若くは前機體によりて壓搾するなり

C 鯧 差 網

鯧差網は小漁民の使用するものにして漁船は川崎船(七八人乗)保津船(四五人乗)磯舟(二三人乗)等とす此圖は即ち鯧の掛りたる網を船中に引揚げ岸に來り網を振ひ魚を取上ぐる所なり

D 大 泊 鯧 漁 場

大泊附近は樽太鯧漁の第一にあり漁期は年に依て早晚あれども大抵四月下旬より五月上旬を始期とす

E 鯧 汲 取

榨網に汲船を接觸し榨網の口より「たま」を以て鯧を汲出し汲船に盛り岸に運搬す之を鯧の汲取と稱す

F 身 鮓 乾 燥

繩に貫きたる鯧は之を乾架に掛け並へ三四日乾燥の後小刀を以て腹部及背骨を切り離し更に乾燥し背肉の部分のみを結束して一把となすなり

G 鯧 榨 船 羣 集

元船榨網に漁獲の鯧滿つる時は其儘の位置に於て若くは適宜の處に引き行き汲船にて鯧を汲取るなり此圖は即ち引きたる榨船群集の光景なり

H 身 鮓 製 造

身鮓鯧は樽太産物中の重要なものにして其製法は鯧の筒子白子及腸を除去し腹より口へ菅繩を貫き筒場に送りて之を乾燥するなり

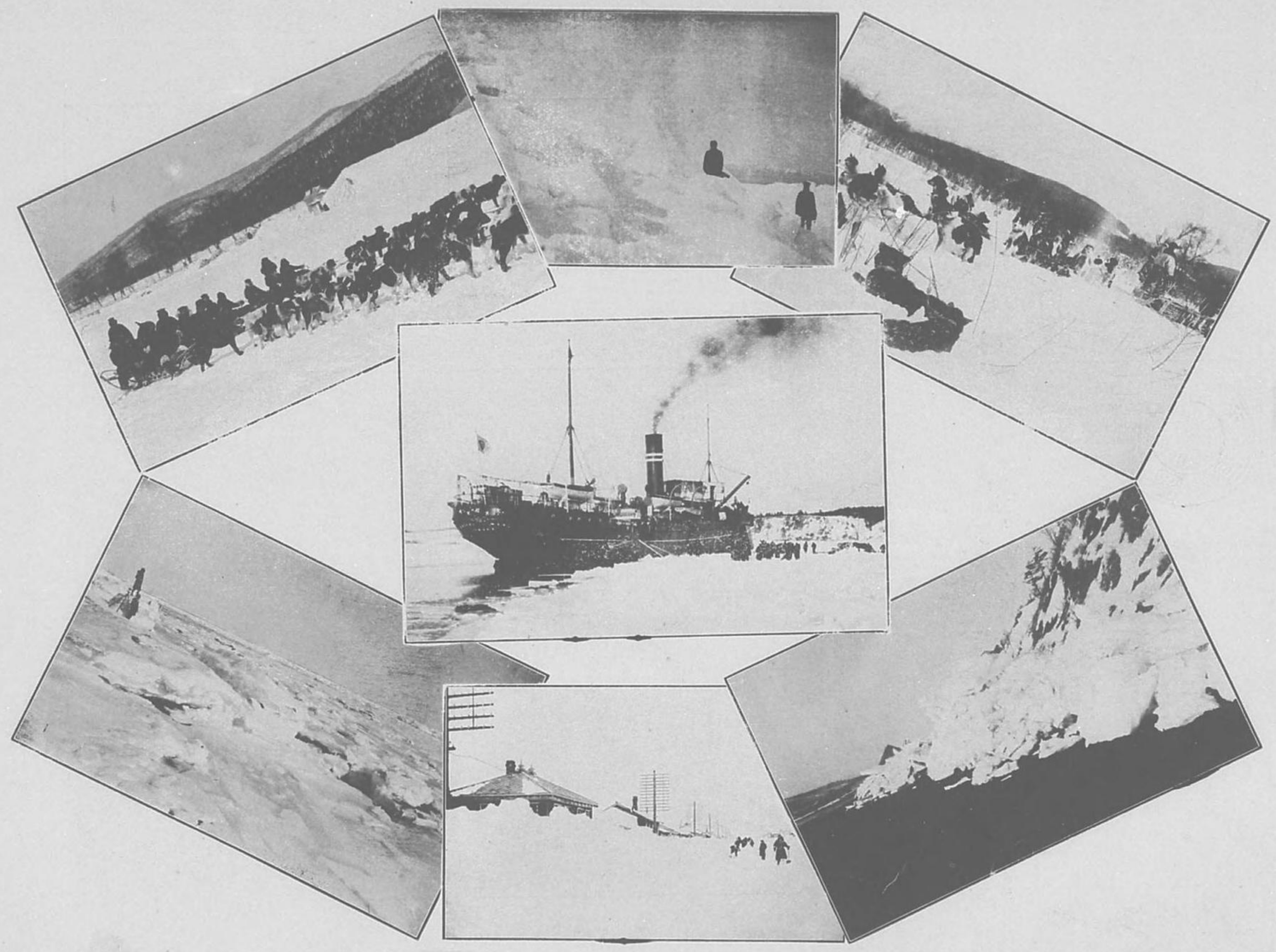
I 鯧

鯧は本島水産物中最も重要なものにして近年の産額二三十萬石を下らず此圖は西庭灣内漁場に於ける鯧堆積の状況なり

G	D	A
H	E	B
I	F	O







樺太

犬 橋

本島アイヌ人特有の交通機關にして數頭乃至十數頭の犬に橋を曳かしの交通の用に供するものにして一日の行程能く二十里に達すと云ふ圖中の(A)は軍隊使用の犬橋にして行軍試演の状況(C)は普通犬橋なり

B 氷 山

樺太島は一般に降雪多く二月の交に至れば連山の積雪全く氷結して頗る壯觀なり

D 大 泊 灣

大泊灣は樺太最要の港灣なれども海中巖礁多く且つ淺淺なるか爲め千噸内外の汽船も一漚以上の沖合に非ざれば碇泊する能はず加ふるに風波を避くること至難なるを遺憾とす

大泊灣

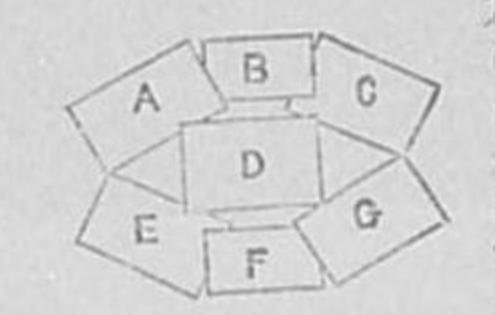
屋大流漸壓釣磯。船風凍月度荒峻。函山此夕春將好。定是一杯思我時。

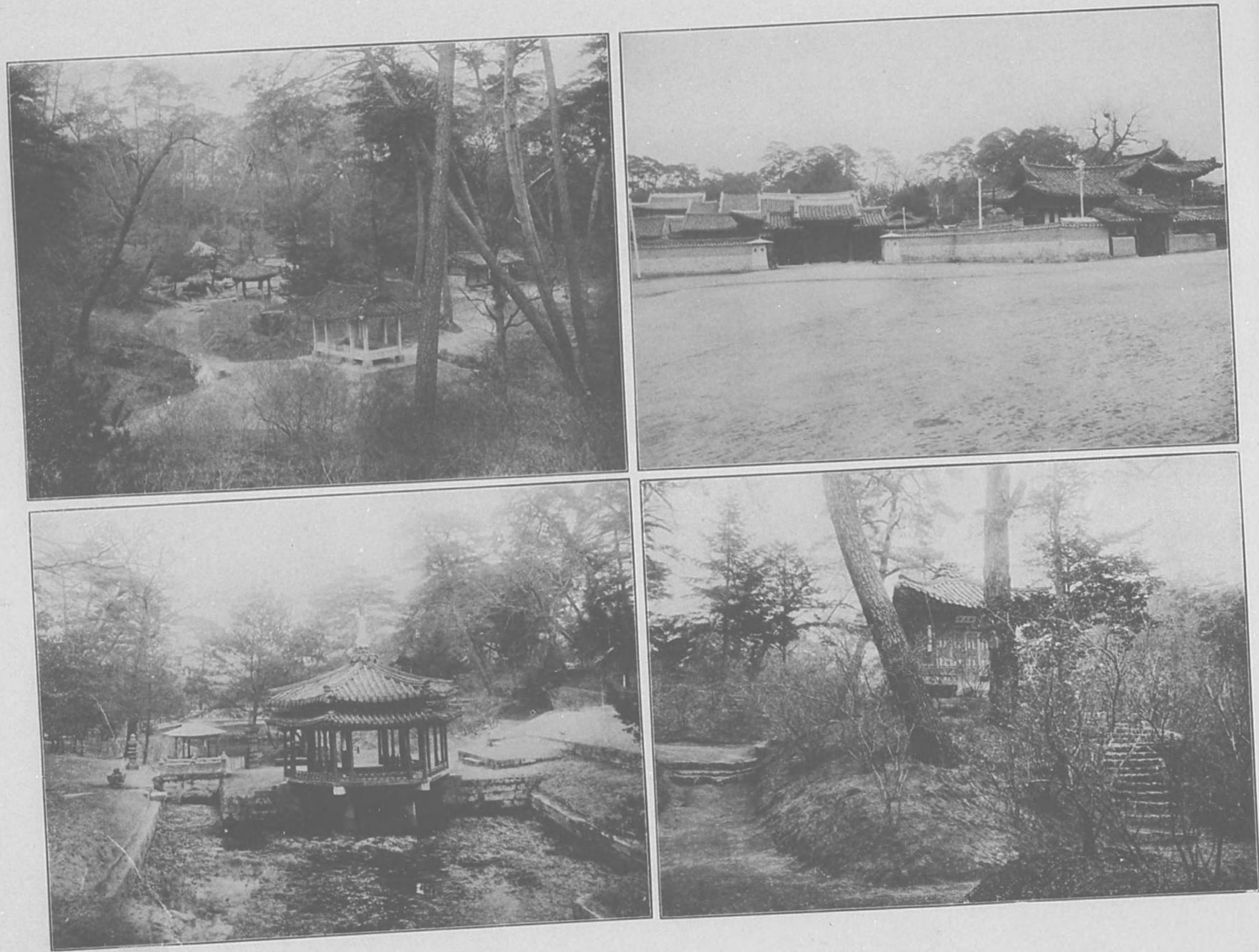
大泊海岸流氷

大泊海岸は概して巖礁突出し十二月頃より風浪烈しく一月に至れば海面全く氷結し其厚さ一尺五寸より四五尺に達す故に碎氷船入港するも尙ほ氷上馬橋を船體に直接して貨物の揚卸をなす而して結氷は四月頃に至らざれば全く解けず圖中(E)、(G)は共に海岸に於ける流氷の狀を寫せるものなり

F 豊原市街の積雪

大泊を距る北方十里、鈴谷半野の中心に在る樺太廳守備隊司令部、豊原支廳、學校、病院、裁判所郵便局、兵營等あり然れども冬季は降雪の爲めに交通の便を缺く事少なからず





C	A
D	B

昌德宮 (京城)

朝鮮

昌德宮は大祖李成桂の建造に係り明治四十年七月修理して李王殿下の宮居と定めらる園内廣闊老樹繁茂し幽邃森嚴にして又天然の風致を極む園中(A)は宮殿の前景(B)(C)(D)は共に其御園にして秘苑といふ



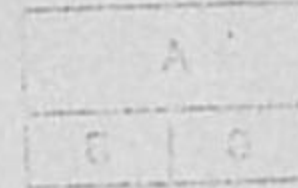
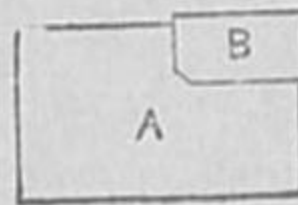
朝鮮

A 慶會樓 (京城)

景福宮内に在り高さ二丈餘の花崗石柱四十八本を環立し上に大殿を築く蓮池樓を廻り中に小島あり松檜花卉を雜え風景甚だ佳なり往昔公式の宴會を催したる處なりと云ふ

B 大院君陵 (慶州郡大德里)

初め麻浦孔德里に葬りしか明治四十一年一月柩を此處に移されたりと云ふ



A 總督府 (京城後臺)

南山の山腹後臺に在り規模廣大結構壯麗を極め加ふるに其地高きに倚るを以て全市街を俯瞰し總督府廳として最良の位置を得たり

B 南大門 (京城)

南大門一に崇禮門と云ふ京城八城門の一にして二層樓より成り結構雄大、望觀壯嚴各城門の中往來最も頻繁を極むる所なり

C 京城市街

京城は漢城又は漢陽と稱し太祖李成桂都を此處に奠めしより今に至り五百餘年間元韓國の首府にして現に朝鮮總督府の所在地たり人口十五萬あり市街は東西三十丁、南北二十丁、城壁を繞らし八門を設く其中東南西の三天門は諸道に通ずるの起點として往來最も頻繁なり又城内を東西南北中の五部に分ち更に之を四十七坊に細分せり中央街は端麗にして商賈楛比し最も殷賑を極む昌德宮、景福宮等王室の建物を始とし總督府諸官衙公署學校あり現今母國人の移住者數萬人あり多きは泥岫一帶の地に居住せり

A
O B



朝鮮

A 木浦

木浦は釜山江口に在り港内水深くして船隻を碇繋せしむるを得へし明治三十年十月開港す本邦人の在留するもの益多く將來湖南鐵道の終端なすべき地なり

B 新義州より鴨綠江を隔てて安東縣を望む

新義州は義州を西に距ること四里三千丁鴨綠江に沿ひ斜に安東縣と相對し滿鮮往來の要地たり明治三十九年税關を設置す在留本邦人約二千人安東縣は本邦人五千人東滿洲の大市街なり

C 龍山市街

京城の南方約三哩漢口に臨める市街として京釜鐵道線の要路たり明治三十三年中漢江に京釜鐵道橋を架し交通至便となりしより商業盛んに街區益々發展を加へたり

D 釜山鎮

釜山を距ること二哩餘海岸に沿ふたる一小市にして本國人の來住するもの多く尙純然たる朝鮮市街なれども陸路鐵道の通するあり水運の便亦少からざるを以て其面目

を一新する速きにあらざるへし

E 釜山

釜山は天與の一大良港にして本國島嶼と連絡の咽喉たるのみならず浦鹽及北朝鮮航路の分岐點なり明治九年二月の開港に依り今や本國人の移住する者多く龜影島と相對して互に繁盛を競ひ風景亦畫の如し圖は龜影島より見たる釜山なり

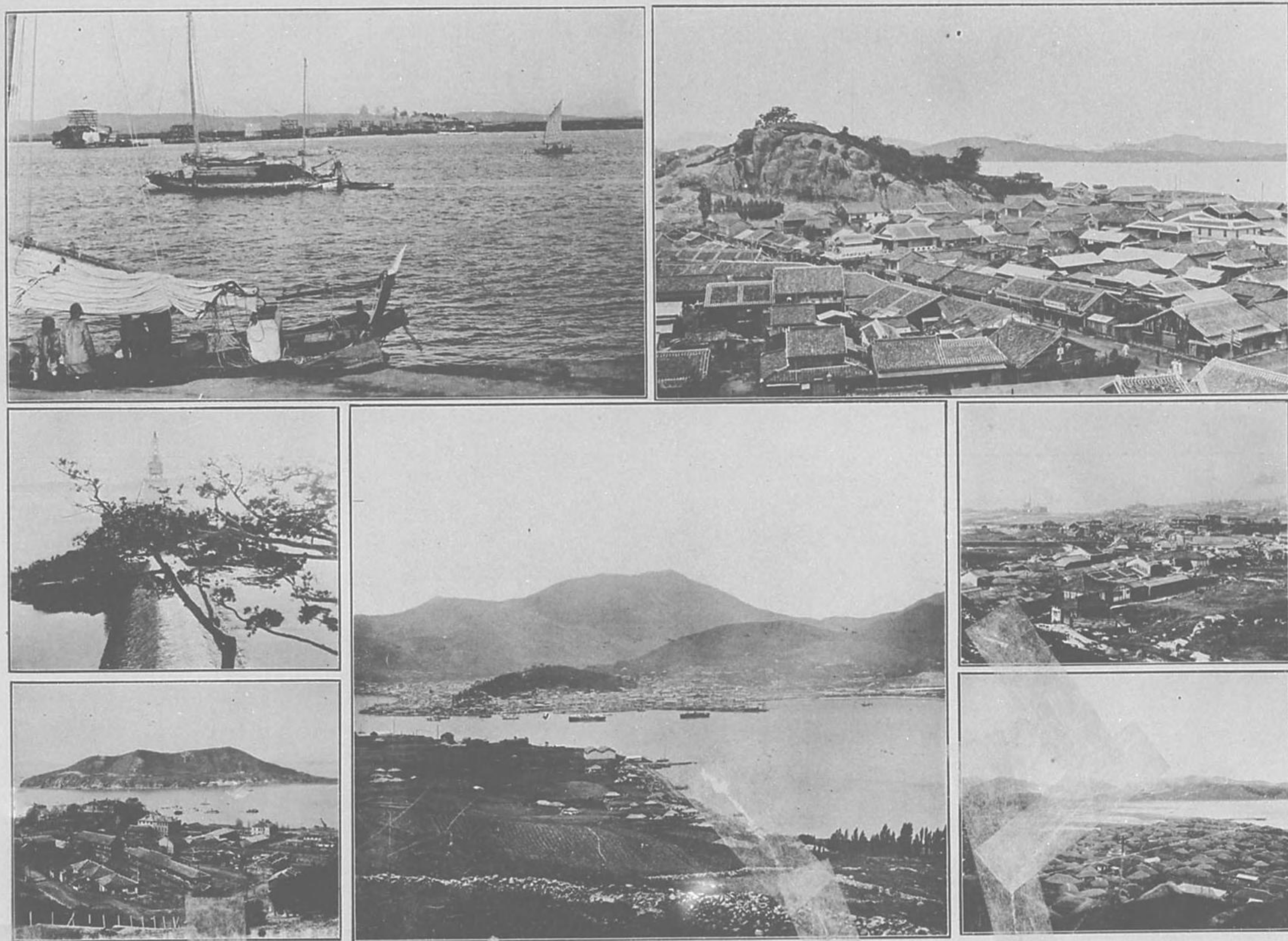
F 鎮南浦燈臺

鎮南浦は大同江畔平壤を距ること十五里の下流に在り二七七八年戦役前は砂たる一漁村なりしか明治三十年開港と共に内地人の移住するもの多し附近島嶼多く船隻の出入危険なるを以て燈臺を設け航行に便す

G 仁川港月尾島

仁川港は朝鮮第一の貿易港にして明治四十一年の貿易額約一千八百萬圓に達す在留内地人一萬千餘人本國人約三千外國人五十餘人港外の島嶼中最大なるものを月尾島とす風光明媚畫も亦及ばず

B	A
F	C
G	D



兩班

朝鮮族籍に三大階級あり兩班、中人、常漢是れなり兩班とは東西の二班を合せ稱せるの謂なり東班即ち文班は朝鮮東に列し西班は即ち武班にして西に列す共に王族以外に社會の上流を占め生れながらにして爲政者たるべき資格を有し政權を掌握するを得へし然れども之れ日韓合併以前の事に屬す中人は兩班と常漢との中間に位す常漢とは内地の平民と云ふか如く農工商等實業に従事する者を概稱す頻年是等階級を改め着しく呼ぶに平等の名を以てしたれども實は之に従はず社會上政治上尙其勢に著しき遠庭あり(Aは兩班外出の様にしてBは其還厝の光景なり)

伊 藤 春 畝  
 舊邦政事布維新。聖德不孤便有鄉。濟濟儒林幾多士。袞衣補闕豈無人。

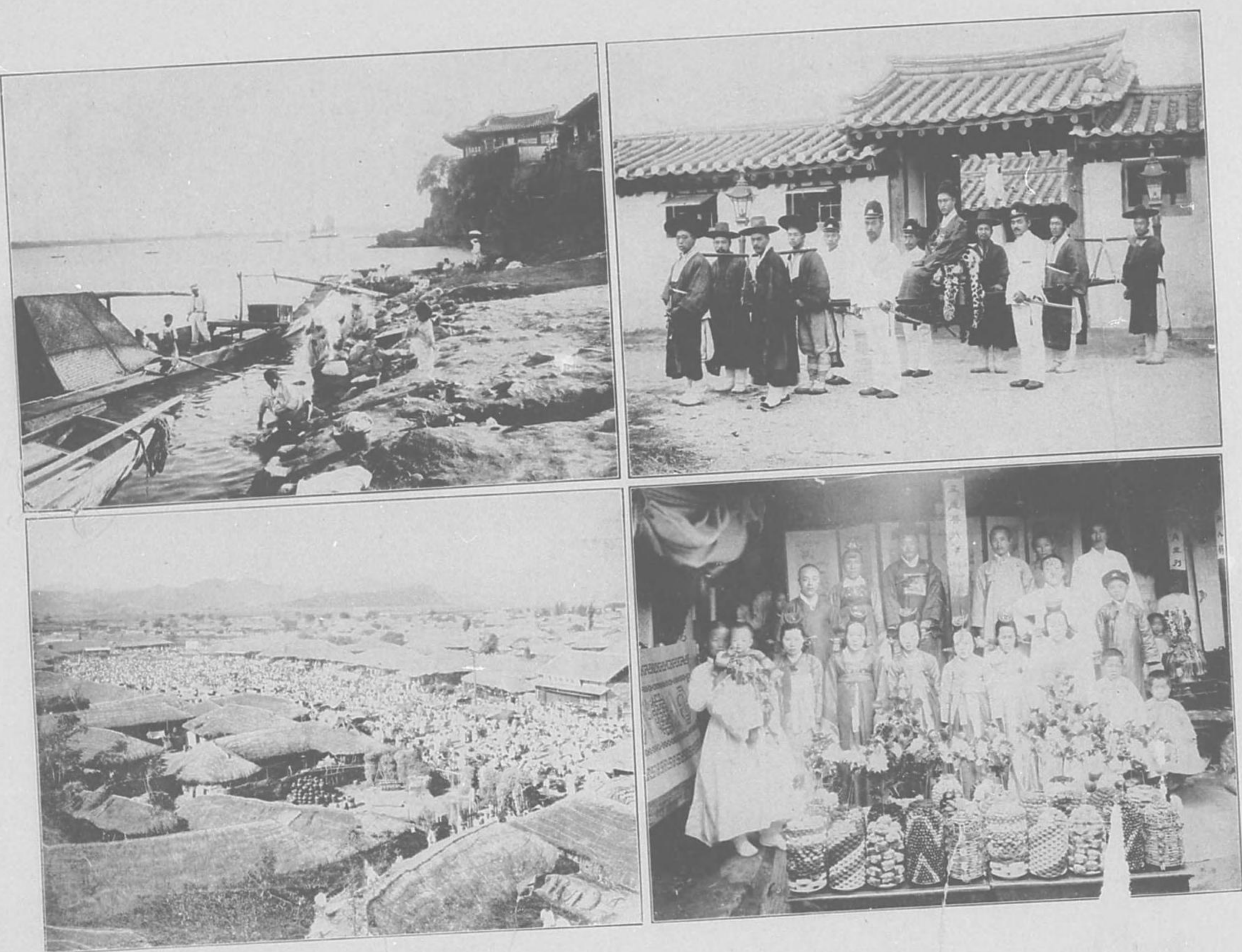
大同江畔洗濯

朝鮮古來の風習として衣服の洗濯は殆んど婦女の主たる仕事なり川流に臨み石を基とし衣布を打ち洗ふ其狀眞に畫中の景なり

大邱市場

古來朝鮮の都邑には市場の設あり毎旬二回開市するを例とし衣服器具穀物薪炭等の日用品一切の取引は殆んど總て市場に於て行はる就中慶尙北道大邱郡に於ける春秋二季の例市の如きは十數里の遠きより來つて取引し最も殷盛を極む毎季の取引高實に約七十萬圓に上ると云ふ

C	A
D	B



A 旅順關東都督府

旅順の新市街には露國の遺物多く關東都督府の建物は其最たるものなり前は西港に面して海氣南より來り後は橋子山、案子山を繞らして北風會て到らず庭園の趣き我東京の植物園に似たり

B 爾靈山高地の戦蹟

爾靈山の戦蹟は人生悲愴の極にして口述る能はず筆致し難し巨彈驟雨の如く注ぐ所石飛び土散りて砲人と共に埋没せらるる圖は旅順開城後土中より開掘したる露軍の重砲砲架の遺影なり爾靈山とは二零三即ち二百三高地を佳字に改めたる也

C 旅順海軍病院

旅順鎮守府に屬し建築宏大莊麗にして内部の諸機關も悉く整頓せり地は後方山岳を帯ひ前方遙に旅順港内大艦巨砲の戦影を眺むる等風光亦佳なり

D 白玉山の表忠塔

巍然として天柱の如く其頂に登臨すれば四圍の山岳離伏して之に朝するの感あり是れ要司命部監督下二年の日月を費して建設せし日露戦争第一の表忠塔にして復た日露戦捷の好記念物なり

E 旅順公園の音楽堂

旅順は露國が東洋唯一の軍港たるを期して經營せし天府にして其新市街は極東太守が理想的に設計せし荘麗なり公園の樹木未だ拱に充たざるも音楽堂の小さき亦注意の深きを知るべし今日本人は此園主となりて後樂園と命名す宜なる哉此園名

F 旅順の日本橋

水師營附近より西港に向て注ぐる河道は著名なる龍河にして旅順停車場より新市街に至るには必ず此河を渡らざるべからず近來新に宏壯雄大なる永久橋を架設し之を日本橋と稱す

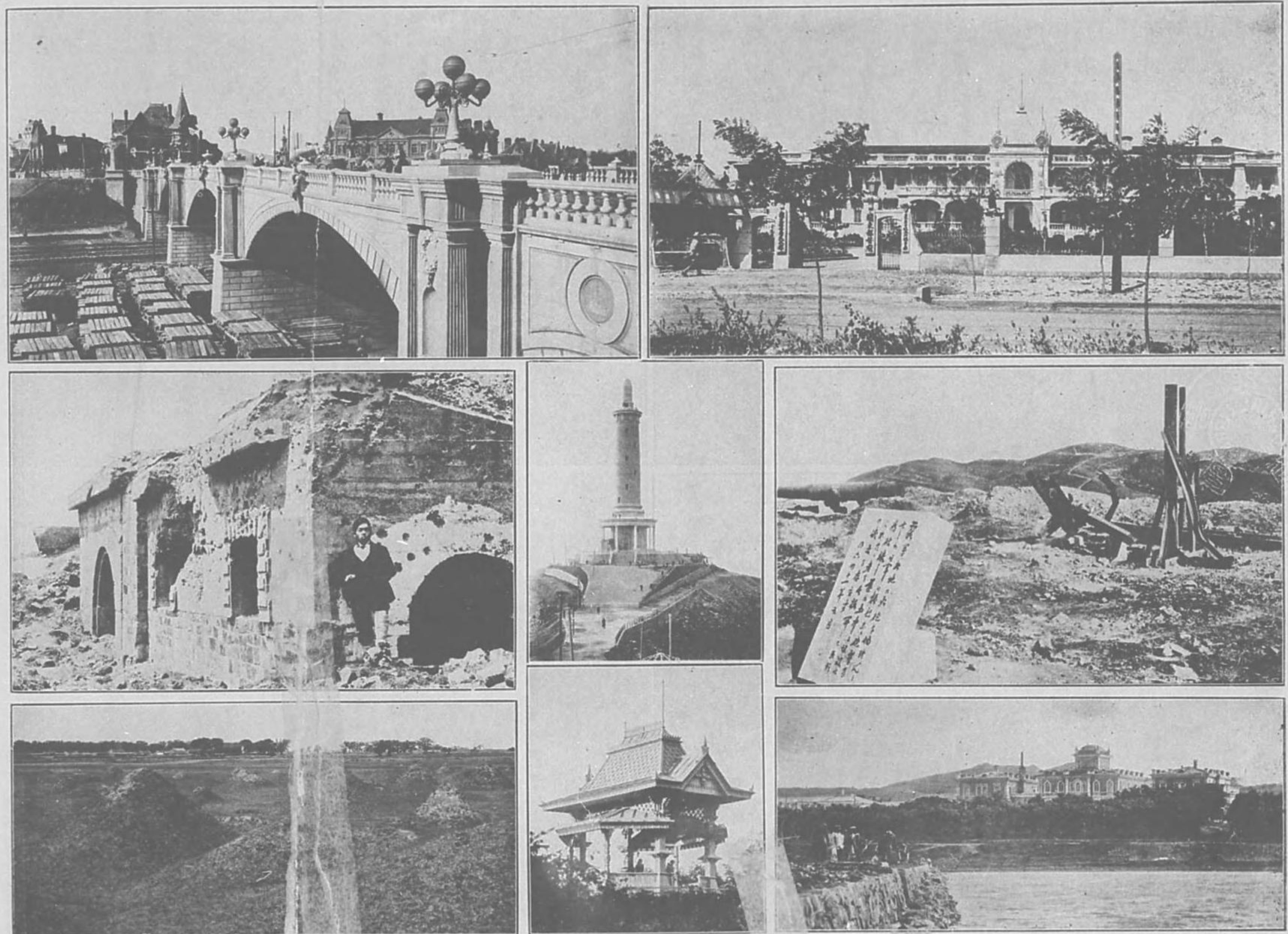
G 東鷄冠山北砲臺

明治三十七八年役露軍の死守せし聖地にして我軍所破之を占領したるものなり圖中砲臺の雄偉たる光景に就て見ても如何に我軍の猛烈なりしかを想起するに足る

H 滿洲の墓地

本圖は奉天北門外數百萬坪の墓地の一部を寫したるものにて滿洲墳墓の半面と視るべき土饅頭の空しく寂せる光景とす  
勢勇猶存戰血紅。當年豪傑總成空。行人於此重瞻問。惆悵西風夕照中。

F	A
G	D
H	E
	C



A 大連市全景

西南丘陵を貫き東北大連灣に面し全面積約五平方里半滿洲第一の商港にして今や將に世界的港灣と爲らんとするは世人の熟知する所なり圖は南山より撮影せしものにて點點たる層屋の目を引くものは滿鐵會社の宿舍なり

B 南滿洲鐵道會社

會社は舊タルニ市廳址に假居すること二年なりしか東公園の營繕成るに及びて此に移轉す家屋は舊有時代の半成商業學校にして之に十萬圓を投じて補修せしもの内部の清淨美麗なるを恐らく大連營造物の霸王ならん

C 大連の浪速町通

大山通伊勢町通奥町通の三天街を横貫し市中最も股賑なるは浪速町にして市人及旅客の物品を購買するには恰好の市街なり

D 大連民政署

市の中央廣場に臨み大連市中第一著に建設したる官設建

築物なり

E 大連棧橋

露國東滿鐵道の技術ケルベツチの設計に成れる大連港は北風に際し巨艦を繋泊せしむるにありとも水深深くして僅に巨艦千數隻を繋泊せしむるを得べく實に滿洲唯一の良港なり露國の築港に投資するもの一千萬圓を計上したりと云ふ圖は大連棧橋なり

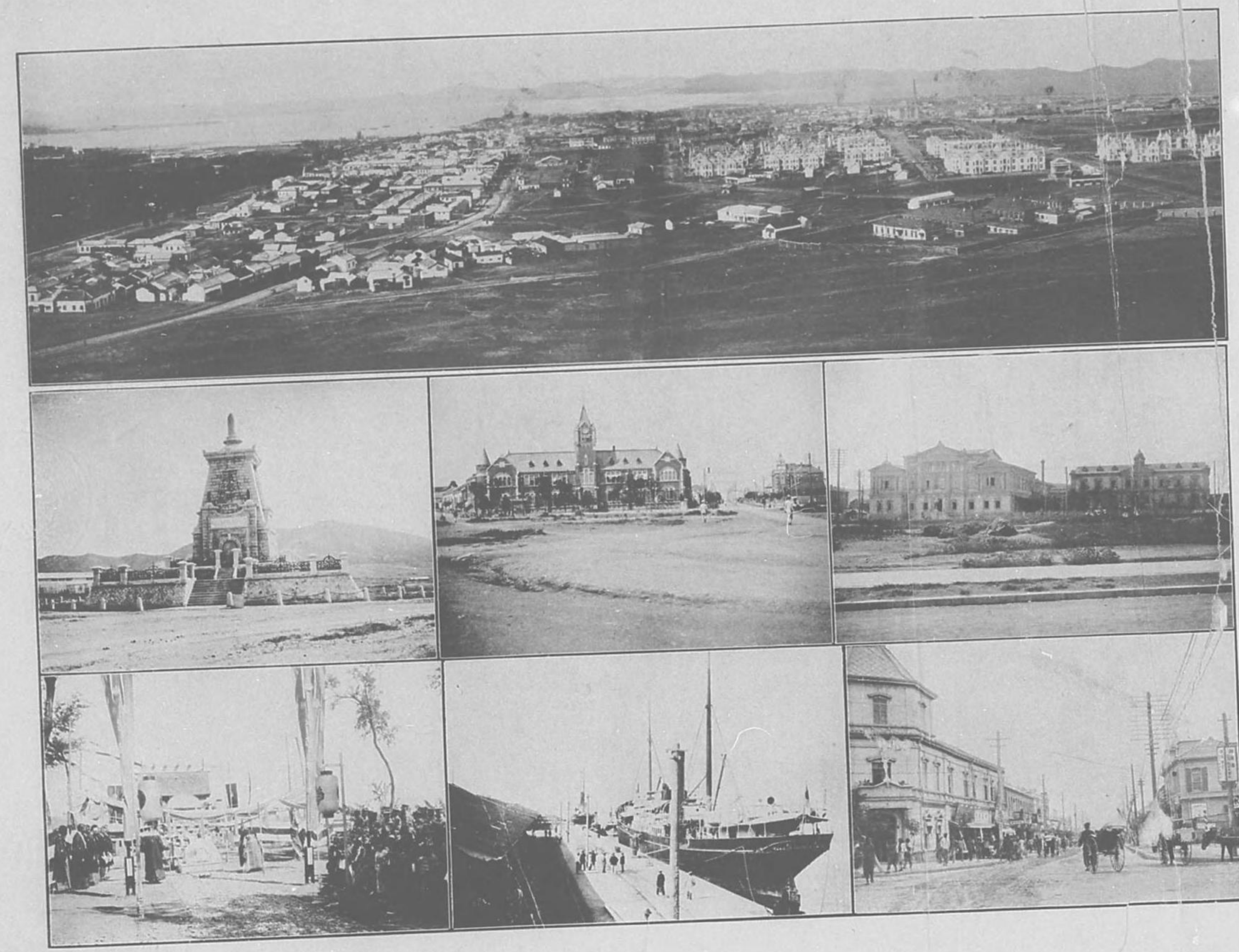
F 大連表忠塔

東公園の中央に在り大連灣に面して四顧の風物最も佳なり日露の戦役は世界空前の大戦にして大連の得喪は勝敗の因で分る所我滿洲軍を得て海陸の連絡通し旅順の攻圍始めて全きを得たり是れ表忠碑の設けられし所以なり

G 遼陽神社

遼陽の同胞既に三千に近く妻帯するもの日に多し見孫の爲め産土神なるへからず於て廣福寺の舊址を樹著せたる所を擇び母國の神祇をへて祀り祀る緣際風涼しく梢頭鳥鳴き神樂在すか如し

	A	
F	D	B
G	E	C







滿洲風俗

土地異れば氣候風俗も從て同じからず滿洲に於けるも亦然り圖は其一  
 班を示せるものにて(A)は滿洲地方に於ける輕業師の狀態を寫したるも  
 の(B)は賤民の奏樂せる狀態(C)及(G)は同地方名優の演技を寫せるもの(D)  
 は一輪の水車にて飲料水を運搬するもの(E)は妙齡の婦女嫁入の際使用  
 する彩輦(F)は農夫の狀態にして(H)は推車にて水瓜を販賣する路頭の賤  
 而(I)は盛大なる葬儀の有様を寫せるものなり

C	B	A
F	E	D
I	H	G



明治四十四年十二月二十八日印刷  
明治四十五年一月一日發行

日本寫眞帖典附

編輯兼  
發行者 田山宗堯  
東京市日本橋區數寄屋町一番地

印刷者 平井登  
東京市本所區番場町四番地

發行所 ともゑ商會

東京市日本橋區數寄屋町一番地

1895



終